

-----  
2022年度 後期

2.0単位

医療心理学（健康・医療心理学）

平野 智子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、心理学部の学生を対象に開講される公認心理師科目であり、将来、医療分野で活動するために必要な知識や技能について概括的に学ぶ。また、心理学部のDP1、3、4を獲得することを目的とする。

1. ストレスと心身の疾病との関係について、基本的な説明ができる（知識）。2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について、基本的な説明ができる（知識）。3. 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について、基本的な説明ができる（知識）。4. 災害時等に必要なる心理に関する支援について、基本的な説明ができる（知識）。5. 医療分野の公認心理師が関わる基本的な事項に関心を持ち、その課題と支援について心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。精神障害について、基礎的な知識のみならず、診断法や治療法、最近の研究の動向などについて理解を深める。また実際の臨床心理学的な援助に役立つような知識を獲得することを目標とする。

なお、この授業の担当者は、心理職として11年間、医療・産業・教育領域における臨床業務に携わり、心理的支援の実務経験のある教員である。より実践的な観点から講義を行う。

< 到達目標 >

公認心理師として医療分野におけるさまざまな心理社会的な課題及び必要な支援について理解し、説明できることを目標とする。

< 授業のキーワード >

精神疾患、ストレスモデル、DSM-5、遺伝性疾患、難病、AIDS（後天性免疫不全症候群）、がん、発達障害、うつ病、依存症、ひきこもり、トラウマ（心的外傷）

< 授業の進め方 >

授業は配布資料等を用いて講義形式で行い、適宜、講義の理解度確認のための小テストおよびレポート課題を課す。小テストの正答やレポート、学生からの質問に対するフィードバックは次回以降の授業時に行う。

< 履修するにあたって >

この授業は公認心理師資格に対応する科目であり、将来、心理専門職である公認心理師を目指す学生は必ず履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、関連する医療心理学分野について参考図書を読んで予習する（目安として1時間）。事後学習

として、授業で解説した内容や小テストを復習して理解を深める（目安として1時間）。

< 提出課題など >

適宜、講義のポイントとなる知識の理解度確認のための小テストおよびレポート課題を課す。小テストの正答ならびにレポート課題、学生からの質問へのフィードバックは次回以降の授業時に行う。

< 成績評価方法・基準 >

全授業の3分の2以上の出席、ならびに求められた課題のうち、3分の2以上を提出した受講生を単位・評価の対象とする。小テストやレポート、授業後の振り返り（リアクションペーパー）等50%、定期試験50%にて成績評価を行う。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

宮脇 稔、大野 太郎ほか 「公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学」 医歯薬出版株式会社。

必要に応じて、授業時に提示する。

< 授業計画 >

第1回 医学、心理学におけるストレスモデル

心身のストレス反応を、医学的および心理学的な観点から統合的に学ぶ。ストレス反応と疾病の関係を理解し、心身を媒介する脳の働き、また心理的介入の役割について知る。

第2回 医学、心理学におけるストレスモデル

心身のストレス反応を、医学的および心理学的な観点から統合的に学ぶ。前回の内容を踏まえて、ストレス・コーピングや認知行動療法その他の心理的介入について理解する。

第3回 精神疾患への支援

精神疾患の診断基準と臨床心理学的アセスメントについて学ぶ。DSM（アメリカ精神医学会の診断と統計マニュアル）、生物 心理 社会モデル、ケース・フォーミュレーションについて理解する。

第4回 精神疾患への支援

現代精神医療の動向とチーム医療、多職種連携について学ぶ。現代の日本の精神医療における課題と支援、そして、その中での公認心理師の役割について理解する。

第5回 さまざまな保健活動

保健活動に関わる課題と支援について学ぶ。3次の疾病予防とリハビリテーション、再発予防、さまざまな領域の保健活動、職場のメンタルヘルスなどについて理解する。

第6回 遺伝性疾患、難病、AIDS（後天性免疫不全症候群）への支援

遺伝性疾患への支援、出生前検査と遺伝カウンセリング、さまざまな難病への支援、HIV陽性者へのカウンセリング、生殖医療に関わる課題と支援などについて学ぶ。

第7回 がん（悪性腫瘍）への支援

がんへの支援と緩和医療における課題と支援について学ぶ。その中で、チーム医療とリエゾン精神医学、日本の告知の問題とQOL（生活の質）についても理解する。

#### 第8回 発達障害への支援

発達障害に関わる課題と支援について学ぶ。発達相談と児童虐待、発達障害に対する精神医学的、心理学的理解と支援法、ライフサイクルと特別支援教育、大人の発達障害などについて知る。

#### 第9回 うつ病への支援

うつ病に関わる課題と支援について学ぶ。うつ病（気分障害）の精神医学的、臨床心理学的理解、うつ病に対する薬物療法と心理的介入、認知行動療法、復職支援、自殺対策などについて知る。

#### 第10回 依存症への支援

依存症に関わる課題と支援について学ぶ。依存症の精神医学的、臨床心理学的理解、薬物・アルコール・ギャンブルなどのさまざまな種類の依存、心理社会的な支援について理解する。

#### 第11回 ひきこもりへの支援

ひきこもりに関わる課題と支援について学ぶ。日本の不登校およびひきこもりの問題に対する精神医学的、心理学的理解および教育的、社会的な対応・対策について理解する。

#### 第12回 認知症・高齢者への支援

認知症と高齢者に関わる課題と支援について学ぶ。高齢者および認知症に対する心理学的、精神医学的理解、また日本の社会的な対応について知る。高次脳機能障害についても理解する。

#### 第13回 災害時の心のケア

災害時の心のケアについて学ぶ。心理的応急措置（サイコロジカル・ファーストエイド）、災害派遣医療チーム（DPAT）、また二次受傷と支援者のケアなどについて理解する。

#### 第14回 トラウマ（心的外傷）への支援

トラウマに関わる支援について学ぶ。精神医学的、臨床心理学的なトラウマの考え方について知る。PTSD（心的外傷後ストレス障害）、児童虐待・逆境環境、トラウマ対応について理解する。

#### 第15回 本講義のふりかえり、まとめ

医療心理学において重要な事項を総復習し、必要な知識を確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

学習・言語心理学

筒井 優介

-----  
< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

本講義は、心理学部のディプロマポリシーに示す、「1. 心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる。」、「3. 心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる。」、「8. 教育現場で有効な、公民に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる。」を目指す。本講義では、人間における行動変容の過程等、行動形成に寄与する諸理論 - 古典的（レスポナント）条件づけ、オペラント条件づけ、モデリング等 - を学修する。また、これらの理論に基づいた治療・支援法（問題行動の改善や不安の軽減など）が確立されており、医療・福祉・教育・司法現場において頻繁に用いられる。本講義では、事例を紹介しながら、これらの治療・支援法についても学修する。

< 到達目標 >

初期学習（刻印付け、臨界期、生得的解発機構）について説明できる。

古典的条件付け（対提示強化、消去）、オペラント条件付け（強化、三項随伴性、報酬、罰）について説明できる。

恐怖条件付け、嫌悪条件付けについて説明できる。

馴化、脱馴化について説明できる。

般化、弁別、転移、実験神経症について説明できる。

逃避、回避学習について説明できる。

試行錯誤、洞察学習、潜在学習、社会的学習（観察、モデリング、自己効力感）について説明できる。

学習の生物学的基礎について説明できる。

< 授業のキーワード >

学習、初期学習、古典的条件付け、オペラント条件付け、恐怖条件付け、嫌悪条件付け、馴化、脱馴化、般化、弁別、転移、実験神経症、逃避、回避学習、試行錯誤、洞察学習、潜在学習、社会的学習、学習の生物学的基礎

< 授業の進め方 >

授業回ごとに「授業後課題」を課し、次回授業時にフィードバックする。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、「授業計画」を参考に、できるだけ授業の内容について自主的に調べ、授業に臨んでもらいたい。（目安として1時間）。

授業終了後に、きちんと内容が正しく理解できているかどうかを確認し、必要に応じて基礎的な事項や概念、用語について調べ直ししておく必要がある。（目安として1時間）。

< 成績評価方法・基準 >

全授業後課題の3分の2以上の提出をもって、単位の認定・評価対象とする。授業回ごとに授業内容の理解度を確認する「授業後課題」（15課題）40%、学習内容全体の習熟度を測る「期末テスト課題」（1課題）60%とする。

< テキスト >

山内光哉・春木 豊（編著）『グラフィック学習心理学 行動と認知』（2001年）サイエンス社 ¥2,550（税別） ISBN：4781909779

<参考図書>

楠見孝（編）『学習・言語心理学：公認心理師の基礎と実践』（2019年）遠見書房 ¥2,600（税別） ISBN：9784866160580

実森正子・中島定彦『学習の心理 第2版：行動のメカニズムを探る』（2019年）サイエンス社 ¥2,300（税別） ISBN：9784781912431

<授業計画>

#### 第1回 学習とは

学習心理学の源流とその後の展開について概説する。

#### 第2回 初期学習（刻印づけ、臨界期、生得的解発機構）

初期学習とは個体発生期に生じる学習を指す。初期学習における刻印づけとその臨界期、生得的解発機構について概説する。

#### 第3回 古典的条件づけ（1）（対提示強化、消去、般化、弁別）

ある刺激がある反応を応答的に誘発する過程である古典的条件づけ及びその獲得について紹介し、5つの刺激提示の型について概説する。ある刺激がある反応を応答的に誘発する過程である古典的条件づけの消去について概説する。また、条件づけされた刺激だけでなく類似した別の刺激に対しても反応するようになる般化と、類似した刺激の中から特定の刺激に対して反応するようになる弁別について概説する。

#### 第4回 古典的条件づけ（2）実験神経症/恐怖条件づけと嫌悪条件づけ

弁別が困難な刺激で分化の訓練を行うと異常な興奮状態になり、それまでに形成された弁別までできなくなる現象がパブロフの条件づけ実験から導出された。これを実験神経症と呼ぶ。その形成と消去について概説する。恐怖反応を誘導しない刺激と恐怖反応を誘導する刺激を対提示すると、動物は両者の関連を学習し恐怖反応を示すようになるが、これを恐怖条件づけと呼ぶ。また、嫌悪刺激を用いるとネガティブな情動が条件づけされるが、これを嫌悪条件づけと呼ぶ。これらの条件づけについて概説する。さらに、系統的脱感作法や嫌悪性抗条件づけを取り上げ、行動療法への応用を紹介する。

#### 第5回 オペラント条件づけ（強化、報酬、罰）

生活体が環境に働きかけて自発する行動をオペラントと呼ぶ。あるオペラントがある刺激との相互作用によって自発頻度を変え、変容していく過程であるオペラント条件づけについて概説する。

#### 第6回 逃避、回避学習、三項随伴性

不快な刺激が引き続き起こらないようにする行動を指す逃避と、不快な刺激が与えられないように前もって示す反応を指す回避について説明する。その上で、逃避と回

避が不可能な状況において嫌悪刺激を与え続けると、回避可能な状態になってもその刺激を受け続けるようになり、別の状況にも般化が起こり新たな回避学習ができなくなる現象—学習性無力について概説する。さらに学習性無力感を消去する方法が教育・医療の現場に応用される例を紹介する。

#### 第7回 馴化、脱馴化

ある反応を誘発する刺激提示が繰り返されるとその反応が減少する馴化、ある刺激に馴化させた後で別の刺激を与えると元の刺激に対する反応が大きくなる脱馴化について概説する。

#### 第8回 技能学習・協応動作・集中学習と分散学習

動作や技術の習得についての学習を概説し、人間の感覚系と運動系との協応からなる技能の学習がどのようにして成り立つのか概説する。また集中学習と分散学習における効果について概説する。

#### 第9回 転移

ある学習の効果が類似の学習に波及する現象を転移と呼ぶ。前学習が後学習に促進的に波及する正の転移と、妨害的に波及する負の転移について概説する。

#### 第10回 社会的学習—観察学習とモデリング

他者の行動を観察することで成立する観察学習と、他者の行動を観察することで観察者の行動変容に結び付くモデリングについて概説する。また、モデリングの手法を応用した行動療法について紹介する。

#### 第11回 社会的学習の理論

社会的学習をめぐる3つの理論を紹介する。その上で、バンデューラが提案した、人間の行動を決定する重要な要因の自己効力感について概説する。

#### 第12回 試行錯誤・洞察学習・潜在学習

問題解決過程とはどのようなものであるか、行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、情報処理理論という3つの立場から概説する。試行錯誤学習、洞察学習及び潜在学習についても概説する。

#### 第13回 探索・推理過程

問題解決を行う際に重要な役割を果たす、推理という心的機能がどのように発達し、また問題の構造などの要因とどのように関わっているのか概説する。

#### 第14回 学習の生物学的基礎

学習における研究対象は習得的行動であるが、学習には経験主義の視座では割り切れない生得的な能力もある。子どもの発達過程における学習準備性と学習適時性を取り上げ、学習の生物学的基礎について概説する。

#### 第15回 まとめと展望

本講義の全般的なまとめを行い、人間の行動変容の過程や行動形成に寄与する心理学的研究及び関連諸科学における今後の検討課題について考察する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

家族心理学（社会・集団・家族心理学）

岡村 心平  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

本講義は、心理学部心理学科の2年次生を対象に開講される専門教育科目である。青年期にある者の認知的・心理的特徴や青年期特有の発達課題を学ぶことを修得する。本講義の目的は、心理学部のDPに示す、心理学の専門知識を習得する（知識）こと、社会の中で身の回りにある事象を観察し問題の有無を適切に判断すること、自らの意見・考えを的確に書くことができることを目的とする。

なおこの授業は、教育・医療・産業領域において臨床業務に関わり、心理的支援の実務経験を有する臨床心理士・公認心理師である教員が担当している。

< 到達目標 >

- ・心理学的な観点から、家族の基礎的な知識を説明できる。
- ・家族や家族をとりまく現代社会における諸問題を理解し、対応を考えることができる。
- ・第三者に対して、良好な家族関係を維持するための方略（コミュニケーションのあり方等）を提案することができる。
- ・調査および研究結果を踏まえ、自身の意見・考えを主張することができる。

< 授業のキーワード >

結婚・夫婦関係・育児・養育信念・不適切な養育・家族内／夫婦間暴力・家族／生態学的システム論・家族療法

< 授業の進め方 >

毎回の課題のコメントへの応答は、次回授業の冒頭で共有する。

< 履修するにあたって >

発達心理学の基本的な知識を理解していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義資料を読んでおくこと（目安として1時間）。

事後学習として、配布資料および講義中に記したノートを通じ理解を深めること（目安として1時間）。

< 提出課題など >

毎回の課題のコメントへの応答は、次回授業の冒頭で共有する。

< 成績評価方法・基準 >

2/3以上の課題の提出をもって評価の対象とする。毎回の課題(50%)と、定期試験(50%)にて評価する。心理学部では、公認心理師に係る科目については、原則、対面での定期試験を実施します。しかし、定期試験前の感染状況によっては実施が困難となる可能性もあり、定期試験以外の評価（授業中の質疑・発表や小テスト、レポート等）に変更することがあります。非登学を認められた学生に対しても同様です。また、新型コロナウイルス感染症の登学基準により、追試験・再試験・補充試験が受験できない場合（非登学を含む）においても、対面の定期試験以外の評価（レポート等）を行います。

< テキスト >

テキストは使用しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

本講義の概説、成績評価の説明等

第2回 生態学的システム論

生態学的システム論からみる社会と家族のつながり

第3回 家族の形成

現代における結婚と離婚の現状

第4回 家族の形成

夫婦関係満足とその規定要因

第5回 家族の形成

出産・育児と出産前後の抑うつ

第6回 養育行動

養育信念と養育行動、その影響

第7回 家族と風土

家族内のコミュニケーションと情動的風土の影響

第8回 幼児虐待

幼児虐待の現状とリスク要因

第9回 家庭内で生じる問題行動

家庭内暴力、夫婦間暴力（DV等）

第10回 家族臨床心理学

子どもの障害と家族

第11回 家族と子どもの自立

中年期にある親の危機と親子関係

第12回 家族と子どもの自立

中年期にある親の危機と親子関係

第13回 家族療法

家族システム論

第14回 家族療法

家族療法と事例

第15回 まとめ

これまでの講義の総括

-----  
2022年度 前期

2.0単位

学校心理学（教育・学校心理学）

難波 愛  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

学校心理学（教育・学校心理学）は、心理学部2年次生以降を対象に開講される専門科目群の講義科目です。また、教職に関する科目（選択科目）でもあります。本講義は心理学部のDP1, 2の獲得を目指しています。

現在、通常の学級に在籍するLD等の特別な支援を必要とする児童生徒の増加や、学級崩壊、いじめ、不登校など、教育現場は多様な課題を抱えています。本講義では、学校心理学における心理教育的援助サービスの理論や技法、子どもの行動や学習、教師や保護者などの関わりについて学びます。なお、学校心理学は心理学と学校教育が統合した応用領域であるため、特別支援教育の変化など、最新の教育事情に焦点を絞って解説します。特別支援教育とは、障害のある児童生徒の自立や社会的参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うものです。教職に関する科目でもあるため、教師としての姿勢、必要となる知識など、幅広く理解を深めましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する5年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を行っている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

< 到達目標 >

学校心理学とは何か（概要）を説明できる。

学校教育の心理学的な諸問題、心理学による支援方法などについて意見を述べることができる。

教師が行うべき心理学的援助について興味を持つ。

< 授業のキーワード >

学校心理学・特別支援教育・発達障害・いじめ・不登校・学級崩壊など

< 授業の進め方 >

講義形式で行います。

< 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

< 授業計画 >

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。

試験の前にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として3～4時間）。

< 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小テストもしくは小レポートの提出。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。次回以降の講義にて解答を示すとともに補足の解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・小レポート課題等50% 定期試験50%

なお課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 学校心理学とは

学校心理学とは何かについて、学校心理学における研究テーマについて概説します。

第3回 最新の教育事情

学級崩壊、いじめ、不登校などの心理教育的問題や特別支援教育、学校支援体制の変化などの学校教育の現状について解説します。

第4回 教育の制度・法律

教育に関する権利と義務、公認心理師と関連する学校教育制度、社会教育制度について解説します。

第5回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

自閉症スペクトラム障害という発達障害についてDVD映像やチェックリスト等を紹介しながら解説します。

第6回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

ADHD（注意欠如多動性障害）という発達障害について解説します。

第7回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

SLD（限局性学習障害）という発達障害について解説し、学習支援について学びます。

第8回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第9回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第10回 思春期を取り巻く心理教育的問題

中学生、高校生が抱える不安やうつ、つまずき、トラブル、非行・暴力行為等について解説します。

第11回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新のいじめ問題について、スクールカウンセリングの話を変えながら、解説します。

第12回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新の不登校事情について、スクールカウンセリングの話を変えながら、解説します。

第13回 授業を見直す

学級崩壊，通常学級における学級経営，ユニバーサルデザインなど，教育の視点からの課題を考えます。あわせて，情報倫理にも触れます。

#### 第14回 教育関係者へのコンサルテーション

教師，保護者等の教育関係者に対するコンサルテーション，チーム学校について解説します。

#### 第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

感情心理学（感情・人格心理学）

山本 恭子  
-----

#### < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

本科目は専門科目群の講義科目に該当し，心理学部のDP1やDP2に示す知識や技能を獲得することを目的としています。喜怒哀楽という言葉に代表されるように，私たちは日常あらゆる場面で感情を経験しています。人間が様々な環境下で適応し，生きていく中で感情は必要不可欠な存在であり，古くから，哲学者たちの興味の対象でした。しかしながら，心理学において感情が研究対象となったのは最近のことです。本講義では，感情とは何かという定義からはじめ，その生物学的基盤や身体との関わり，そして社会的行動や発達との関連を含めて，多角的な観点から感情について学ぶことを目的とします。

#### < 到達目標 >

- ・感情心理学の主要な用語やトピックについて説明することができる。（知識）
- ・感情心理学の理論と研究を日常生活と関連づけ，暮らしのなかで直面する問題についても自ら考えていく力をつける。（態度・習慣，技能）
- ・毎日の暮らしのなかで起きている事柄について，自らの力で心理学的に考えることができる。（態度・習慣，技能）

#### < 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。質問がある場合は，出席カードに記入してもらえれば，後日の授業でフィードバックします。

#### < 履修するにあたって >

- ・原則，遅刻は認めません。出席カードは授業開始時に配布するので，遅刻した場合は受け取れません。
- ・授業中の私語は禁じます。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

感情心理学は私たちが日々感じるさまざまな気持ちを対象とした学問です。授業で学んだ用語の復習を行い，日常生活の中から関連した出来事を探したり，振り返ったりしながら理解を深めて下さい。（事後学習の目安：60

分程度）

#### < 提出課題など >

毎回，出席カードに理解度確認テストの回答を書いて提出してもらいます。正答は，次回授業の冒頭で説明します。

#### < 成績評価方法・基準 >

毎回の確認テスト45%，定期試験55%

#### < 参考図書 >

大平英樹（編）（2010）. 感情心理学・入門 有斐閣  
濱治世・鈴木直人・濱保久（共著）（2001）. 感情心理学への招待 感情・情緒へのアプローチ サイエンス社

#### < 授業計画 >

##### 第1回 インTRODクシヨN

授業内容，授業の進め方，評価方法などについて説明を行います。また，感情心理学とはどのような学問かについて，概要を説明します。

##### 第2回 感情の基礎

心理学における感情の定義や用語について解説し，感情心理学の基礎について学びます。

##### 第3回 感情の理論1

感情はどのように理解されてきたのでしょうか。感情の精神力動理論，認知評価理論，構成主義理論について説明します。

##### 第4回 感情の理論2

感情の次元論と基本感情論について説明します。また，個別の感情についても学びます。

##### 第5回 感情の生物学的基礎

感情の生物学的基礎や神経生理学的機序（扁桃体，視床下部，島皮質，前頭前野腹内側部，低次回路，高次回路）について解説します。

##### 第6回 感情の機能

感情と動機づけの関係など，感情が果たす役割についてお話しします。

##### 第7回 感情と表出行動1

感情はどのように表出されるのでしょうか。感情と表出行動との関係について，表情，音声といった非言語的行動を中心に解説します。

##### 第8回 感情と表出行動2

感情と言語的行動との関係や，気持ちを言葉にすることの重要性についてお話しします。

##### 第9回 感情と認知1

感情が記憶に及ぼす影響について説明します。

##### 第10回 感情と認知2

感情と自己認知，社会的判断との関係について説明します。

##### 第11回 感情と社会・文化

感情が社会生活においてどのような役割を担うのかや，感情の文化差についてお話しします。

##### 第12回 感情の発達

感情がどのように発達するのかや、感情の個人差についてお話しします。

#### 第13回 感情と心身の健康

感情やストレスと心身の健康状態との関係について説明します。

#### 第14回 感情の制御

感情を制御する仕組みや方法について学びます。

#### 第15回 ふりかえり

授業をふり返り、総括を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育心理学(教育・学校心理学)

竹田 剛

#### ----- < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

教育心理学(教育・学校心理学)は、心理学部2年次生以降を対象に開講される専門科目群の講義科目です。また、教職に関する科目でもあり、配当年次は2年次生、中高共通必修科目です。心理学部のDP1,2の獲得を目指しています。

学校教育においては、非行、学級崩壊、不登校、いじめ、中1ギャップ、小1プロブレムなど、最近ではSNSなどに関わる問題も注目を集めており、時代を反映するような諸問題が存在しています。これらの諸問題にともなって、心理学の実践研究やアプローチは常に行われてきています。そして、「生きる力」や「自己教育力」などが必要とされている現代社会においては、日々変化する社会と合致した学校教育、あるいは学校教育のあり方を考える必要があるといわれています。それらを踏まえ、本講義においては、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な力を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とします。

「教育心理学」は一般心理学を教育に応用する応用心理学の一領域、あるいはそれにとどまらない教育実践の中で独自の目的と理論をもつ実践科学であるとするなど、さまざまな捉え方があります。研究領域は、大きく分けて一般的に「発達」「学習」「適応」「評価」の4領域とされることが多いです。教育心理学において行われてきた研究知見や学校に存在するさまざまな問題への答えとなるような事象を学びましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する5年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を続けている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

#### < 到達目標 >

幼児、児童及び生徒の発達に対する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し、説明できる。(知識)

様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、説明できる。(知識)

主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特長と関連付けて理解している。(知識)

教育心理学における代表的な研究知見について意見を述べるができる。(知識)

学校教育と教育心理学の関連について興味を持つ。(態度・習慣)

#### < 授業のキーワード >

学校教育・発達・学習・適応・評価・学級集団

#### < 授業の進め方 >

講義中心の授業であるが、各回の授業中、あるいは最後にコメントカードを記入し、次回の初めにその内容を共有します。

#### < 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと(目安として45分)。試験の前にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと(目安として3~4時間)。

#### < 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小テストもしくは小レポートの提出。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。次回以降の講義にて解答を示すとともに補足の解説を行います。

#### < 成績評価方法・基準 >

小テスト・小レポート課題等50% 定期試験50%

なお課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。

#### < テキスト >

なし

#### < 授業計画 >

##### 第1回 オリエンテーション

はじめに、授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

##### 第2回 教育心理学とは

教育心理学とは何か、その歴史、主要な4領域、学校教育の最新事情について概説します。

##### 第3回 領域 「発達」

発達の基礎として、たとえば幼児、児童及び生徒の認知・言語の発達と教育、感情・社会行動の発達と教育、心身の発達の規定要因、初期経験の重要性、代表的発達理論等を概説します。

##### 第4回 領域 「学習」

学習の基礎として、学習のメカニズム（学習理論）、記憶と知識の獲得、心の理論などについて概説します。

#### 第5回 領域 「適応」

適応の基礎として、適応とは何か、適応規制、ストレスについて概説します。

#### 第6回 領域 「評価」

評価の基礎として、教育評価の理論的枠組みや評価の類型等について概説します。

#### 第7回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、内発的及び外発的動機づけ、無気力、原因帰属について解説します。

#### 第8回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導や主体的学習に関する研究知見を解説します。例えば、知的能力の発達、学業不振、学習性無力感などです。

#### 第9回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導に関する研究知見を解説します。例えば、セルフモニタリング、適性処遇交互作用、自己調整学習、教授法などです。

#### 第10回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、いじめ、不登校、非行、学生相談などに関わるものです。

#### 第11回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、自己効力感、学校適応感、居場所感などです。

#### 第12回 研究 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、様々な評価方法、学習観点、指導要録と通知表などです。

#### 第13回 領域 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、学力観、知性観、児童生徒への心理的影響、海外の実践などです。

#### 第14回 学級集団

4領域の補足として、集団づくり、学級集団の意義、特徴、その発達、リーダーシップなどについて解説します。

#### 第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行い、教育心理学に関する理解を深める。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

健康・医療心理学 （健康）

竹田 剛

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この講義は、心理学部1年次生を対象に開講される専門講義科目であり、公認心理師養成カリキュラムに含まれる基礎的科目です。心理学部のDP1「心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」およびDP5「心理学の専門知識や研究成果を第三者に適切に伝えることができる」の習得を目指します。

近年では、心と身体の健康をいかに高めるか（いかに低下を予防するか）に注目が集まっています。このことに関わる健康心理学は、我々が日々生活をしている中で受けるストレスと、それを契機に生じる心と身体の様々な変化を研究および実践の対象にしています。さらに食生活や睡眠、喫煙などと関連する健康増進についても多くの知見を有しています。身近なテーマではありますが、実践力の高い学問です。

この授業では、まずストレス理論に関する基礎の概説を行います。次に心身症や生活習慣病などのネガティブな方向への心身の変化についても実践例として取り上げます。それに加えて近年注目を集めている話題についても扱います。具体的にはストレスチェックに代表される組織における心身の健康や、災害時における心身の健康支援、「健康日本21」などの健康増進施策についても触れます。それらを通して、自分自身や周りの人々の健康のあり方についての理解を実践的・横断的に深めることを目指します。

なお、この科目の担当者は公認心理師であり、心療内科で約10年のカウンセリング経験を持つ実務経験のある教員です。講義の中では、これらの経験を踏まえた心理援助の方法にも触れながら、実践的な理解へと繋げていきます。

< 到達目標 >

1. ストレスと心身の疾病との関係について、基本的な説明ができる。（知識）
2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について、基本的な説明ができる。（知識）
3. 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について、基本的な説明ができる。（知識）
4. 災害時等に必要な心理に関する支援について、基本的な説明ができる。（知識）
5. 医療分野の公認心理師が関わる基本的な事項に関心を持ち、その課題と支援について心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

ストレス、心身相関、ストレスマネジメント、ヘルスケア

< 授業の進め方 >

講義を中心に、様々なワークを取り入れながら進めます。講義中も出席カードなどを用いて受講生の質問や感想・意見を集め、また理解度を確認しながら双方向的な授業

を作ります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。試験の前にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として3～4時間）。

< 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小テストもしくは小レポートの提出。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。次回以降の講義にて解答を示すとともに補足の解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・小レポート課題等50% 定期試験50%  
なお課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 健康心理学とは何か

健康心理学が扱うテーマと目標（心と身体の健康の維持と増進、疾病の予防と心理的援助など）の概説を通して、健康心理学が担う役割について説明します。

第2回 ストレスの心理学的基礎

ストレス理論について概説します。ストレスが環境との相互作用の中で感知されること（トランスアクションル・モデル）、それへの対処方略（コーピング）について解説します。

第3回 ストレスの生理学的基礎と心身の疾病

ストレスが強まることで生じる心身の変化について概説します。ストレスを受けて自律神経系などが乱れること、それによって心と身体の双方に様々なストレス反応が生じることを解説します。

第4回 健康とパーソナリティ

パーソナリティ（性格）と心身の健康の関連について概説します。自尊感情などの様々なパーソナリティに加えて、タイプA行動パターンなどの行動傾向との関連についても触れます。

第5回 心身の健康増進とストレスマネジメント

心と身体の健康増進のための様々なアプローチ方法について概説します。緩衝要因や「予防」の重要性について解説し、アセスメントの実践についても触れます。

第6回 心身症 抑うつ状態

心理面の関与が大きい心身症である抑うつ状態について概説します。加えて燃え尽き症候群や自殺の問題についても触れながら、それらへの援助について解説します。

第7回 心身症 摂食障害

身体面へ強く症状があらわれる心身症である摂食障害について概説します。神経性やせ症・神経性過食症がもつ

食行動異常に加えて、アレキシサイミア・アレキシソミアについても解説します。

第8回 健康増進と生活習慣病予防 食生活

健康心理学が食生活の改善に果たす役割について概説します。特に肥満や糖尿病、心血管疾患に与える影響について触れ、それへの第一次～第三次予防アプローチについて解説します。

第9回 健康増進と生活習慣病予防 睡眠

健康心理学が睡眠の改善に果たす役割について概説します。睡眠が果たす心身の健康増進について触れるに加え、睡眠障害についての第一次～第三次予防アプローチについて解説します。

第10回 健康増進と生活習慣病予防 飲酒・喫煙

健康心理学が飲酒・喫煙の問題に果たす役割を概説します。依存形成についてや、飲酒・喫煙と関わる疾患について触れ、予防アプローチについて解説します。

第11回 組織における心身の健康増進

健康心理学が組織において果たす役割を概説します。特に職場ストレスについて触れ、それへのアセスメントやケアのあり方、ワーク・ライフ・バランスの維持について解説します。

第12回 心身の健康とライフサイクル

ライフサイクルや対象者に合わせた健康心理学の役割について概説します。児童期や高齢期などの時期に応じた留意点や、女性を取り巻く健康問題について解説します。

第13回 災害時における心身の健康支援

健康心理学が被災した地域や方々に対して果たす役割を概説します。災害精神保健や心理的応急処置について解説するとともに、支援の実践例について紹介します。

第14回 援助者の心の健康

様々な介入や予防活動を行う援助職者本人の健康維持について概説します。援助者が抱えるストレスの特徴について触れ、認知行動療法やピアサポートを通じたセルフケアについて解説します。

第15回 様々な健康増進施策

国内外および地域で実施されている様々な健康増進に関する施策を概説します。特に「健康日本21」や「心の健康対策」について紹介し、国や地方が施策を行うことの重要性について解説します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

言語心理学（学習・言語心理学）

小山 正  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、この科目は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、3、8に特に関連し、心理学科専門教育科

目専門科目群の中に位置づけられます。本講義では、言語心理学の基礎的知識を身につけることを目標とします。本講義では、チョムスキーの生成文法理論をはじめ、主な言語習得理論について学修し、さまざまな観点から言語習得におけるメカニズムを学ぶことを到達目標とします。また、語彙、統語、音韻、語用の習得に関して、用法基盤モデルや最近の認知言語学の研究を踏まえて、身体的経験と言語表現や言語とヒトの社会的認知の問題との関連についても理解を深め、その発達基盤と発達過程について学ぶことも目標としています。さらに、言語と思考の問題についても理解できることを目的とします。なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育現場での言語発達障害の事例について随時言及しながら学びを深めていきます。

#### <到達目標>

- ・言語心理学の基本的事項を説明できる。(知識)
- ・子どもの言語発達過程に関する最近の研究を紹介できる。(知識)
- ・子どもの心理的発達がことばの獲得にどのように影響しているについて説明できる。(知識)
- ・言語発達支援の基本について説明できる。(知識)
- ・これまでと違った観点から言語障害をもつ人へ配慮することができる。(態度・習慣)
- ・人間発達における言語の問題についても説明できる。(態度・知識)

#### <授業のキーワード>

言語学習、言語発達、意味論、音韻論、統語論、語用論

#### <授業の進め方>

テキスト、配布資料にそって講義を進めます。事前に関連するテキストの章を読んでおくこと。

#### <履修するにあたって>

1年次の「心理学概論」での発達に関する主要な用語・人名等を復習しておいてください。

#### <授業時間外に必要な学修>

前回の授業の資料を読んで整理すること(目安として90分)、および該当の参考書の該当箇所を予習として読んでおくこと(目安として90分)を前提として講義を進めます。

#### <提出課題など>

講義内容と主題に関した小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなどコメントし、最終授業においても全体にコメントを行います。

#### <成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。

毎回の講義内容に関する小レポート(50%)と、定期試験(50%)によって評価します。

小レポートでは、各回の主題に関しての理解を問い、到

達目標から評価します。

#### <テキスト>

『言語発達』 小山 正(著) ナカニシヤ出版

#### <参考図書>

『乳幼児のことばの発達とその遅れ』 小椋たみ子・小山 正・水野久美(共著) ミネルヴァ書房。

#### <授業計画>

##### 第1回 言語とは

進化的に人はどのようにして言語を獲得したかについて考える。

##### 第2回 言語学習の基礎

前言語期の発達について考える。

##### 第3回 言語学習の理論

生成文法理論から近年の言語学習の理論、認知言語学的な立場からのアプローチについて説明する。

##### 第4回 語彙の獲得

語彙発達とその基盤について考える。

##### 第5回 1語発話期の発達

1語発話における諸発達について理解を深める。

##### 第6回 音声の発達

喃語から音韻の獲得過程について理解を深める。

##### 第7回 統語の発達

統語の発達、文法の発生、文法の獲得について理解を深める。

##### 第8回 言語学習過程における個人差・多様性

個人差の背景にある要因に関して考える。

##### 第9回 心の理論と言語学習

心の理論、他者認識の発達と言語発達との関連性について理解を深める。

##### 第10回 語用論と語用障がい

言語の語用的発達とその障がいについて理解を深める。

##### 第11回 言語症

スピーチとランゲージの障がいについて理解を深める。

##### 第12回 読み書きの学習

文字言語の学習、読みの障がいについて説明する。

##### 第13回 言語と思考

言語と思考との関係や内言の発達について述べる。

##### 第14回 人間発達と言語

人の発達における言語の役割について考える。

##### 第15回 振り返りと総括

小レポート等の解答例を示し、講評を行い、本講義の振り返りと全体的な総括を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

行動科学概論

河瀬 諭

#### <授業の方法>

講義

#### < 授業の目的 >

本講義の目的は、人が何かを感じたり、覚えたり、考えたり、他者と関わったりするとき、人がどのように行動し、さらに、心の中で何が起きているかを広く知ることです。この科目は、基礎科目群に位置づけられており、心理学部のDP1からDP5の獲得を目指します。人の知覚や記憶、感情、思考等、人が日々生活する上で欠かせない様々な行動を学びます。このような事柄に関わる心理学的な知見を学習し、そのメカニズムを理解することで、人の心を科学的にとらえる力を養います。さらに、これらの知見を日常場面に引き寄せて考えることで、豊かな生活を送るための一助とします。

#### < 到達目標 >

心理学の方法や歴史、考え方について説明できる。  
知覚や感情、記憶などについての知識を習得するとともに、そのメカニズムを説明できる。  
授業で学んだ内容について、我々の日常場面に照らし合わせながら、行動科学に基づいて人の行動を考えることができる。

#### < 授業のキーワード >

行動科学、感覚・知覚、記憶と学習

#### < 授業の進め方 >

講義形式で進めます。講義では、様々な視聴覚教材を用いたり、心理学的な知見を実感するために簡単な実験を体験します。また、心理学が社会にどう応用できるか、自身の身近な課題で考え、出席カード等でまとめます。したがって、積極的参加が求められます。

#### < 履修するにあたって >

授業を妨害する行為や他の学生の学びに支障をきたす行為（例えば、授業とは関係の無い行為や他の学生の学ぶ権利を侵害するような行為、など）があった場合は、退席処分とし、その授業は欠席したものとみなされる。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、次回講義の内容について参考書等を通じて、1時間程度を目安として自主的に学習する。  
また、講義後は講義内容を確認し、その回の講義内容について復習し、理解しにくかった用語や事柄を再度調べたり、確認する。こちらも目安は1時間程度とする。

#### < 提出課題など >

授業ごとに課題を提出する。また、期末レポートを提出する。

#### < 成績評価方法・基準 >

各回の課題50%、期末レポートの内容50%とする。授業回数の2/3の出席をもって評価対象とする。

#### < テキスト >

指定しない

#### < 参考図書 >

スーザン・ノーレン・ホークセマほか編 『ヒルガードの心理学』 金剛出版 2015年 24,200円

#### < 授業計画 >

#### 第1回 心理学の生物学的基礎

視覚のメカニズムについて、生物学的な基盤などの基礎的な概説する

#### 第2回 心理発達

生まれと育ちの問題や、児童の認知発達について解説する。

#### 第3回 視覚の特徴1

感覚の特徴について、視覚の仕組みを解説しながら様々な知覚・認知に現象を概説する。

#### 第4回 視覚の特徴2

感覚の特徴について、視覚の仕組みを解説しながら様々な知覚・認知に現象を概説する。

#### 第5回 聴覚の仕組み

音が聞こえる仕組みや、聴覚の特徴について、概説する。

#### 第6回 聴覚の認知

聴覚に関する心理学的知見について、音楽の知覚・認知に関する内容を概説する。

#### 第7回 視聴覚相互作用

視覚と聴覚の相互作用について、BGMや映画などについて解説する。

#### 第8回 学習

様々な条件づけについて解説し、学習について学ぶ。

#### 第9回 記憶1

記憶についての基本的な仕組みと特徴、および短期記憶や長期記憶について概説する。

#### 第10回 記憶2

記憶の改善や忘却の仕組みについて概説する。

#### 第11回 思考1

言語が処理される仕組みやコミュニケーション、その発達について学ぶ。

#### 第12回 思考2

演繹推理と帰納推理、様々な問題解決の方略について解説する。

#### 第13回 感情

感情の構成要素と認知、感情と身体の関係について解説する。

#### 第14回 人格

人格とは何か、人格を規定する様々な要因、人格への様々なアプローチについて概説する。

#### 第15回 まとめと振り返り

これまでの内容についてまとめ、様々な心理学的知見を我々の生活に結び付けて考察する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

行動神経学

博野 信次

#### < 授業の方法 >

講義

## < 授業の目的 >

### 【主題】

脳神経系に疾病が生じると、心、すなわちさまざまな認知機能や行動に異常が生じます。この異常は高次脳機能障害と呼ばれ、社会生活を困難にします。本講義では高次脳機能障害を生じる神経疾患、神経系の検査、高次脳機能障害に伴いやすい神経症候、さらに神経免疫学などの関連領域の知識についてその概略を学習していきます。この授業は心理学部のディプロマポリシーの1:心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる。に特に関連しています。またこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。

## < 到達目標 >

学生が他の医療専門職種と互して医療現場で勤務するために最低限必要な指定されたテキスト部分に記載された神経疾患、神経系の検査、神経症候に関する知識を習得できる。

## < 授業のキーワード >

神経疾患、神経系の検査、神経症候

## < 授業の進め方 >

講義方式

## < 履修するにあたって >

神経疾患、神経系の検査、神経症候などについて学習します。基本的に医学的な内容なので専門用語が多くはつきり言って難しいです。次回の範囲をあらかじめ予習し理解できないところを中心に聞くことが必要です。

## < 授業時間外に必要な学修 >

各自、指定されたテキストを用意し、告知している授業内容の部分の予習してから講義にのぞんで下さい。また次回の授業の内容は、今回の授業の内容の理解がないと理解できませんので必ず復習をするようにして下さい。予習と復習は併せて4から5時間程度はかかると考えられます。

## < 提出課題など >

毎回、オンラインで小テストを行い、次の授業日にオンラインで解答を提示します。各自で自分の得点を確認して下さい。

## < 成績評価方法・基準 >

授業は対面授業形式で行います。感染予防の観点から、学生同士の教科書の共同使用や物品の貸し借り等は禁止するとともに、出席参加の確認や小テストはdotCampusを用いたオンラインで行い、出席カードやテスト用紙等の配布・回収は一切行いません。オンラインツールの操作に関しての支援を担当教員、実習助手等が行うことは不可能なため、各自でヘルプ等を参照してください。初回、第2回および最終回を除き、毎回小テストを行い、小テストの回答をもって授業への出席参加とします。対面授業日に教室に来ただけでは出席参加とはならないの

で十分に注意して下さい。対面授業日の18時に、dotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内にテストタスクを公開します。小テストは3問の択一問題で、2問以上正解すると合格となります。小テストは次の授業日前日の22時まで回答を提出することができます。テストタスクを選択してテストを開き、選択肢にチェックを入れ、下の「テストを提出する」をクリックして回答を提出して下さい。提出すると合格か不合格かがすぐに判定されて表示されます。提出期限までにはならず、この合格か不合格かの判定まで進んでください。提出期限を過ぎますと提出できなくなり自動的に欠席不参加・不合格となります。また提出期限までであればテストを開いてから提出するまでに制限時間はありませんが、一度提出すると再受験はできませんので十分に注意して下さい。正解は次の授業日に次の授業回のフォルダ内に公開します。そのため、繰り返しますがdotCampusが使用できない初回、第2回と、次の授業日が存在しない最終回には小テストはありません。

非登学を認められた学生等、対面授業に参加することができない、あるいは濃厚とは判定されない接触者になったため参加を控えたほうが良いと判断したなど種々の理由により対面授業に来られない学生のために、対面授業中に担当教員が教示する内容をまとめた講義資料を用意し、オンデマンド方式によるオンライン受講ができるようにしています。講義資料は教科書の内容のうち強調したい項目の指示、補足説明や追加説明、必要な修正などをまとめたものです。講義資料はOneDrive上に保存し、各授業日の1週間前を目安にdotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内で呈示しているタスクにリンク先を提示しますので、ダウンロードし、教科書と合わせて学習したのちに、小テストを受けて下さい。dotCampusが使用できない初回、第2回の講義資料についてはそれぞれのOneDriveへのリンクを下の「遠隔授業情報」の欄に記載してあります。なお、この講義資料は対面授業参加者もダウンロードして利用することができます。

成績評価は小テスト50%、定期試験50%で行い、2/3以上の出席参加すなわち小テストの回答提出をもって評価対象とします。ただし、非登学を認められた学生に対しては、定期試験を行わず100%小テストで行います。小テストの評価は合格の回数を全回数で割り50倍した値を成績とします。小テストの合格の回数に関する問い合わせには一切答えられませんので自身で必ず記録しておいてください。オンラインによる小テストでは、機器の不調やソフトウェア(アプリ)の操作ミス等により提出が遅れる可能性があります。そのため本講義では通常の対面授業の講義においては授業日当日に提出することが義務付けられている小テストの提出期限を約1週間延ばし十分な余裕を持たせてあります。提出期限を過ぎた場合は、公平公正な小テストの実施と評価のため、提出は認められませんので早めに提出するようにして下さい。ただ

し、「公認欠席届」および「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を提出した場合は、欠席日を回答提出期間に含む回の小テストは出席参加・合格として扱いますので「公認欠席届」や「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を出せる場合は無理して出席・回答提出する必要はありません。その他の欠席届に関しては一切特別な扱いをしませんので注意して下さい。

質問がある場合は、対面授業中に行えるほか、dotCampusの質問箱でも行えます。ただし、質問は講義内容に関するものに限ります。上述のようにオンラインツールに関してや小テストの合格回数に関する質問など、講義内容に関する質問以外には一切答えられません。

<テキスト>

江藤文夫ら。神経内科学テキスト改訂第4版。南江堂2017

テキストは各自で必要時まで準備してください。著作権法によりコピーの使用は認められません。テキストが売り切れているなどいかなる理由があっても他の学生のテキストを見ることは認められませんので、早めに手に入れておいてください。

<参考図書>

特に指定しません

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション。この講義の目的、進め方、評価方法等について解説する。

#### 第2回 高次脳機能障害に合併しやすい神経症候

脳神経症候について学習する。テキストP75～86

#### 第3回 高次脳機能障害に合併しやすい神経症候

運動症候、感覚症候について学習する。テキストP86～100

#### 第4回 神経系の検査

神経画像検査について学習する。テキストP111～122

#### 第5回 神経系の検査

電気生理学的検査について学習する。テキストP123～129

#### 第6回 神経系の検査

心電図と自律神経検査について学習する。テキストP105～106、134～136および別紙（第6回講義資料内に記載）

#### 第7回 神経疾患

脳血管障害について学習する。テキストP137～160

#### 第8回 神経疾患

大脳基底核の神経変性疾患と脊髄小脳変性症について学習する。テキストP161～190

#### 第9回 神経疾患

運動ニューロン疾患及び脱髄疾患につき学習する。テキストP191～201

#### 第10回 神経疾患

脳腫瘍につき学習する。テキストP244～250

#### 第11回 神経疾患

先天異常、脳性麻痺につき学習する。テキストP272～286

#### 第12回 神経疾患

代謝中毒性疾患について学習する。テキストP287～297

#### 第13回 分子遺伝学の基礎

分子遺伝学のあらましを理解する。テキストP30～40

#### 第14回 神経薬理学の基礎

神経薬理学のあらましを理解する。テキストP25～30

#### 第15回 総括

全講義を通じた総括を行う。この回は小テストを行わない。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

公認心理師の職責

石崎 淳一  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、心理学部の専門科目群の中の基礎講義科目であり、心理学部のDP1とDP2の獲得を目指す科目です。公認心理師法が2015年に議員立法により成立し、2017年9月15日に施行されました。この法律によると、公認心理師とは、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識および技術を用いて、心理に関する支援を要する者に対して、様々な業務を行う者であるとされています。この授業の目的は、心理専門職としての国家資格である公認心理師を目指す学生にとって、公認心理師に関する基本的知識と技能を得ることです。すなわちこの授業では、公認心理師とはどのような職業であり、公認心理師として働くためにはどのような責任が伴うのかについて学びます。尚、この科目は公認心理師であり医療や教育等の分野で25年以上にわたり心理臨床の実務経験のある担当者が、実践的観点から公認心理師の職責についての解説を行います。

<到達目標>

公認心理師とはどのような職業であるかを知ることができます。

公認心理師になるために必要な基本的知識を得ることができます。

公認心理師として働くために、今後の学部・大学院で学修しなければいけない課題を知ることができます。

<授業のキーワード>

公認心理師の役割、法的義務および倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、具体的業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習、多職種および地域連携

<授業の進め方>

講義形式で行います。

<履修するにあたって>

この授業は公認心理師資格に対応する科目です。将来、心理専門職である公認心理師を目指す学生は必ず履修してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外においては、各授業後にテキストと配付資料の内容について1~2時間程度復習をしてください。

< 提出課題など >

第2回目から第14回目の授業の中で小テスト課題の提出が求められます。小テストを実施したときは翌週の授業において正解答が提示され、自分自身の理解の程度が確認できます。

< 成績評価方法・基準 >

全体のうち2/3以上の出席者（課題提出者）のみが単位の認定・評価の対象になります。小テスト課題(50%)、定期試験(50%)で評価されます。

< テキスト >

野島一彦（編）公認心理師の職責（公認心理師の基礎と実践） 遠見書房

< 参考図書 >

授業中に指示します。

< 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

授業の目的、進め方、評価基準などについて説明します。

#### 第2回 公認心理師の役割

公認心理師法、公認心理師の定義、多職種連携、地域連携など公認心理師の役割について学びます。

#### 第3回 公認心理師の法的義務

公認心理師法の成立の経緯と趣旨、名称独占資格と業務独占資格、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、関係者との連携、主治医の指示、資質向上の責務など、公認心理師の法的義務について学びます。

#### 第4回 公認心理師の倫理

守秘義務、連携義務、通報義務、倫理的ジレンマ、多重関係について学びます。

#### 第5回 心理に関する支援を要する者等の安全の確保

安全の確保、支援を要する者中心の立場、人権と尊厳への敬意、自己決定権について学びます。

#### 第6回 情報の適切な取扱い

秘密保持、専門家間の情報共有、守秘義務の例外状況、インフォームドコンセントについて学びます。

#### 第7回 保健医療分野の業務

チーム医療、心理検査、心理療法など保健医療分野における公認心理師の具体的な業務について学びます。

#### 第8回 福祉分野の業務

虐待への対応など福祉分野における公認心理師の具体的な業務について学びます。

#### 第9回 教育分野の業務

スクールカウンセリングなど教育分野における公認心理師の具体的な業務について学びます。

#### 第10回 司法分野の業務

司法分野における公認心理師の具体的な業務について学びます。

#### 第11回 産業分野の業務

産業分野における公認心理師の具体的な業務について学びます。

#### 第12回 自己課題発見・解決能力

自己課題発見能力と課題解決能力について学びます。

#### 第13回 生涯学習と自己研鑽

心理職の成長モデル、スーパービジョン、国家試験、大学および大学院における養成カリキュラムと学び、生涯学習、自己研鑽について学びます。

#### 第14回 多職種連携、地域連携、チームとしての活動

多職種連携、家族や地域連携、自己責任と自分の限界、支援に関わる専門職と組織について学びます。

#### 第15回 授業の総括とふりかえり

今までの授業内容について総括し、公認心理師の職責についての理解を深めます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

高齢者心理学

博野 信次

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

日本が超高齢社会を迎えてからすでに久しく、高齢化率は今も増加の一途をたどっています。そのため医療心理学専門科目としての高齢者心理学の最も重要なトピックは認知症です。公認心理師の国家資格が創設され、今後心理学の専門家が病院や施設などで認知症患者さんの心理学的評価を行うことが増えてくると考えられます。しかし、多くの心理学の専門家は認知症に関する医学的な知識を十分に教育されていないことからこれらの心理学的評価に困難が生じることは稀ではありません。そこで、本授業では医学専門書を用い、心理学を学習する学生が認知症患者さんの心理学的評価を行うのに必要な認知症の知識を学習することを目的としていきます。この授業は心理学部のディプロマポリシーの1:心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができます。に特に関連しています。またこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。

< 到達目標 >

学生が認知症患者さんの心理学的評価を行うのに最低限必要な指定されたテキストに記載された認知症の知識を習得できる。

< 授業のキーワード >

認知症、アルツハイマー病

## < 授業の進め方 >

### 講義

#### < 履修するにあたって >

認知症に関する医学的知識の学修です。2年次生以上を対象に開講する行動神経学の学修内容を理解しておくことが必要前提条件です。専門用語が多くはっきり言って難しいです。指定されたテキストの次の範囲をあらかじめ読み理解できないところを中心に聞くといった態度が必要です。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

各自、指定されているテキストの告知している授業内容の部分を予習してから講義にのぞんで下さい。また次の授業の内容は、今回の授業の内容の理解がないと理解できませんので必ず復習をするようにして下さい。予習と復習は併せて4から5時間程度はかかると考えられます。

#### < 提出課題など >

毎回、オンラインで小テストを行い、次の授業日にオンラインで解答を提示します。各自で自分の得点を確認して下さい。

#### < 成績評価方法・基準 >

授業は対面授業形式で行います。感染予防の観点から、学生同士の教科書の共同使用や物品の貸し借り等は禁止するとともに、出席参加の確認や小テストはdotCampusを用いたオンラインで行い、出席カードやテスト用紙等の配布・回収は一切行いません。オンラインツールの操作に関しての支援を担当教員、実習助手等が行うことは不可能なため、各自でヘルプ等を参照してください。初回、第2回および最終回を除き、毎回小テストを行い、小テストの回答をもって授業への出席参加とします。対面授業日に教室に来ただけでは出席参加とはならないので十分に注意して下さい。対面授業日の18時に、dotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内にテストタスクを公開します。小テストは3問の択一問題で、2問以上正解すると合格となります。小テストは次の授業日前日の22時まで回答を提出することができます。テストタスクを選択してテストを開き、選択肢にチェックを入れ、下の「テストを提出する」をクリックして回答を提出して下さい。提出すると合格か不合格かがすぐに判定されて表示されます。提出期限までにかかわらず、この合格か不合格かの判定まで進んでください。提出期限を過ぎますと提出できなくなり自動的に欠席不参加・不合格となります。また提出期限までであればテストを開いてから提出するまでに制限時間はありませんが、一度提出すると再受験はできませんので十分に注意して下さい。正解は次の授業日に次の授業回のフォルダ内に公開します。そのため、繰り返しますがdotCampusが使用できない初回、第2回と、次の授業日が存在しない最終回には小テストはありません。

非登学を認められた学生等、対面授業に参加することができない、あるいは濃厚とは判定されない接触者になっ

たため参加を控えたほうが良いと判断したなど種々の理由により対面授業に来られない学生のために、対面授業中に担当教員が教示する内容をまとめた講義資料を用意し、オンデマンド方式によるオンライン受講ができるようにしています。講義資料は教科書の内容のうち強調したい項目の指示、補足説明や追加説明、必要な修正などをまとめたものです。講義資料はOneDrive上に保存し、各授業日の1週間前を目安にdotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内で呈示しているタスクにリンク先を提示しますので、ダウンロードし、教科書と合わせて学習したのちに、小テストを受けて下さい。dotCampusが使用できない初回、第2回の講義資料についてはそれぞれのOneDriveへのリンクを下の「遠隔授業情報」の欄に記載してあります。なお、この講義資料は対面授業参加者もダウンロードして利用することができます。

成績評価は小テスト50%、定期試験50%で行い、2/3以上の出席参加すなわち小テストの回答提出をもって評価対象とします。ただし、非登学を認められた学生に対しては、定期試験を行わず100%小テストで行います。小テストの評価は合格の回数を全回数で割り50倍した値を成績とします。小テストの合格の回数に関する問い合わせには一切答えられませんので自身で必ず記録しておいてください。オンラインによる小テストでは、機器の不調やソフトウェア（アプリ）の操作ミス等により提出が遅れる可能性があります。そのため本講義では通常の対面授業の講義においては授業日当日に提出することが義務付けられている小テストの提出期限を約1週間延ばし十分な余裕を持たせてあります。（ただし7月19日の第14回授業日は7月22日に第15回授業日が設定されているため提出期限が2日間と短くなっていますのでくれぐれも注意してください。）提出期限を過ぎた場合は、公平公正な小テストの実施と評価のため、提出は認められませんので早めに提出するようにしてください。ただし、「公認欠席届」および「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を提出した場合は、欠席日を回答提出期間に含む回の小テストは出席参加・合格として扱いますので「公認欠席届」や「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を出せる場合は無理して出席・回答提出する必要はありません。その他の欠席届に関しては一切特別な扱いをしませんので注意して下さい。

質問がある場合は、対面授業中に行えるほか、dotCampusの質問箱でも行えます。ただし、質問は講義内容に関するものに限ります。上述のようにオンラインツールに関してや小テストの合格回数に関する質問など、講義内容に関する質問以外には一切答えられません。

#### < テキスト >

池田学編。認知症 臨床の最前線。医歯薬出版、東京、2012年

テキストは各自で必要時まで準備してください。著作権法によりコピーの使用は認められません。テキストが

売り切れているなどいかなる理由があっても他の学生のテキストを見ることは認められませんので、早めに手に入れておいてください。

#### < 授業計画 >

##### 第一回 オリエンテーション

本授業の目的と進行方針の説明

##### 第二回 認知症とは

認知症の定義、疫学、背景病理について学習する

##### 第三回 アルツハイマー病

アルツハイマー病について学習する

##### 第四回 血管性認知症

血管性認知症について学習する

##### 第五回 レビー小体型認知症

レビー小体型認知症について学習する

##### 第六回 前頭側頭葉変性症

前頭側頭葉変性症について学習する

##### 第七回 特発性正常圧水頭症と慢性硬膜下血腫

特発性正常圧水頭症と慢性硬膜下血腫 について学習する

##### 第八回 皮質基底核変性症と進行性核上性麻痺

皮質基底核変性症と進行性核上性麻痺について学習する

##### 第九回 外傷性認知機能障害

外傷性認知機能障害について学習する

##### 第一〇回 認知症の画像診断

認知症の画像診断について学習する

##### 第一一回 認知症の心理検査等

認知症の心理検査等について学習する

##### 第一二回 認知症診療の実際

認知症診療の実際について学習する

##### 第一三回 認知症と類似した状態

認知症と類似した状態について学習する

##### 第一四回 認知症の治療

認知症の治療について学習する

##### 第一五回 総括

最終総括を行う この回は小テストを行わない

-----  
2022年度 前期

2.0単位

産業・組織心理学

中川 裕美  
-----

#### < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

この科目は心理学部心理学科専門科目群の講義科目である。心理学部のDP1（心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる）、DP2（社会人として幅広い教養を身につけている）、DP4（社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決する

ことができる）を身につけるため、産業・組織に関する心理学についての知識を習得することを目的とする。具体的には、心理学の知見を基に職場組織や働く人たちの課題について学び、公認心理師試験出題基準ブループリント「産業・組織に関する心理学」における「職場における問題に対して必要な心理的支援」、「組織における人の行動」について学修できる構成としている。産業・組織心理学は、働く人たちの心理について研究する学問である。公認心理師を目指す者はもちろんのこと、将来、社会に参加する一員として、一人ひとりが主体的に本授業で取り上げる職場のメンタルヘルス対策、および現代社会における労働の問題について関心を持ち、理解に努めてもらいたい。

なお、この授業は産業分野における実務経験を10年以上有する教員が担当を行う。

#### < 到達目標 >

1. 職場の諸問題、労働者のメンタルヘルスに対して必要な心理支援について理解する。

2. 組織における人の行動について理解する。

#### < 授業のキーワード >

職場のメンタルヘルス、組織行動、労務管理

#### < 授業の進め方 >

講義とセルフワーク形式

#### < 履修するにあたって >

産業・組織心理学は、働く人たちの心理について研究する学問である。将来、社会に参加する一員として、一人ひとりが主体的に職場のメンタルヘルス対策だけでなく、現代社会における労働の問題についても関心を持ち、新聞やニュースを通して情報収集に努めてほしい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

1. 現代社会における労働の問題について関心を持ち、新聞やニュースを通して情報収集に努める（予習：30分）

2. 講義で学んだ内容の復習、およびその課題に対する考察を行う（復習：60分）

#### < 提出課題など >

・毎回の授業で復習のための課題を出す

・質問などに対するフィードバックは授業の時間内で行う

#### < 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の課題提出による出席確認をもって、評価の対象とする。

成績評価の内訳は以下のとおりとする。

小レポート50%

定期試験50%

#### < 参考図書 >

よくわかる産業・組織心理学 山口裕幸 ミネルヴァ書房

働く人たちのメンタルヘルス対策と実務 森下高治・本岡寛子・枚田香 ナカニシヤ出版

< 授業計画 >

- 第1回 職場のストレス  
ストレスに関する基礎知識と、仕事に関連したストレスの概要について解説する
- 第2回 職業性ストレスモデルとストレスチェック制度  
職業性ストレスモデルについて解説し、ストレスチェック制度の取り組みについて紹介する
- 第3回 職場のメンタルヘルス対策：一次予防  
職場のメンタルヘルス対策としての一次予防について解説する
- 第4回 職場のメンタルヘルス対策：二次予防  
職場のメンタルヘルス対策としての二次予防の取り組みについて解説する
- 第5回 職場のメンタルヘルス対策：三次予防（リワーク）  
職場のメンタルヘルス対策としての職場復帰支援について解説する
- 第6回 障がい者の就労支援、ダイバーシティマネジメント  
障がい者の就労支援、ダイバーシティマネジメントについて解説する
- 第7回 職場のハラスメント  
職場のハラスメントの種類、定義について紹介し、その対策について解説する
- 第8回 小テスト  
第1回目～第7回目の講義内容について理解度をはかる小テストを実施する
- 第9回 過労死  
日本の労働における過労、過労死の問題と対策について解説する
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス、両立支援  
仕事と家庭、治療と仕事のバランスを含む、働き方、生き方についての支援について解説する
- 第11回 職場におけるポジティブ心理学  
ワーク・エンゲイジメントをはじめとする、職場におけるポジティブ心理学について紹介する
- 第12回 仕事の動機づけ  
仕事の動機づけに関する理論を紹介する
- 第13回 職場のリーダーシップ  
リーダーシップの種類と効果について解説する
- 第14回 組織風土  
組織風土に関する理論と職場のマネジメントに関する課題について解説する
- 第15回 作業管理と安全文化  
作業管理の問題と対策について解説する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

司法犯罪心理学（司法・犯罪心理学）

板山 昂  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習することを目的とします。

本科目は心理学部のDPに示す、心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができること（DP1）、社会人として幅広い教養を身につけること（DP2）、社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができること（DP4）、を目指します。なお、この科目の担当者は、司法・犯罪分野の職務・実務経験のある教員ではない（刑務所内での特別改善指導における教科教育指導に携わったことはある）。

< 到達目標 >

犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を説明できる。

司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援を説明できる。

< 授業のキーワード >

犯罪心理学、犯罪原因、防犯、矯正

< 授業の進め方 >

授業は講義形式で行います。受講生は、毎回授業でミニレポートを提出することが求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前にはシラバスを基に予習，毎授業後には講義内容を復習しておくこと（時間の目安30分）

< 提出課題など >

各授業の終了後にミニレポートを提出して頂きます。優れた内容のミニレポートについては翌週の授業時に取り上げ、どこが優れていたかについてフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

【授業毎ミニレポート】50%：各回に課すミニレポートの問いについて、授業内容を踏まえ自らの考えで述べられているか。

履修者が多いため、1つ1つのレポートにコメントできません。

良い物・悪い物をピックアップするなどして全体にコメントしたいと思います。

【期末試験】50%

<テキスト>

特に指定はしない。毎授業で資料を配布する

<授業計画>

第1回 授業オリエンテーション（司法・犯罪心理学とは）

司法・犯罪心理学とは何かについて解説する。

第2回 統計面から我が国の犯罪状況・動向

統計面から我が国の犯罪状況・動向、現状について理解を深める。

第3回 犯罪・非行の原因論（生物学的要因、精神障害の要因、性格の要因）

生物学的要因、精神障害の要因、性格の要因から犯罪の原因を理解する。

第4回 犯罪・非行の原因論（家庭環境、物理的・状況的な環境、社会的環境）

家庭環境、物理的・状況的な環境、社会的環境など、環境面から犯罪原因を理解する。

第5回 窃盗・強盗（窃盗の原因・予防・解決・支援）

窃盗の原因・予防・解決・支援について理解を深める。

第6回 DVとデートDV（加害者・被害者における心理学的問題、制度・法律、関連機関）

DV加害者・被害者における心理学的問題、制度・法律、関連機関について理解を深める。

第7回 DVの補足と次回ストーキングに関する調べ学習  
DV被害者支援と有名なストーカー事件について理解する

第8回 ストーキング（発生原因と法律、関連機関、支援）

ストーキングの発生原因と法律、関連機関、支援について理解を深める。

第9回 犯罪者プロファイリング  
犯罪者プロファイリングについて理解を深める。

第10回 子どもと高齢者への虐待（原因、虐待に関する制度・法律、関連機関、支援）

虐待の原因、関連する制度・法律、関連機関、支援について学ぶ。

第11回 法と心理学（取り調べと供述の心理学・目撃供述の心理学）

取り調べと供述、目撃供述の心理学的犯罪被害者に生じる心理的被害・2次被害、必要な支援について学ぶ。

第12回 法と心理学（裁判員制度、刑事訴訟法・民事訴訟法、修復的司法）

裁判員制度、刑事訴訟法・民事訴訟法、修復的司法など、司法制度に関連する心理について理解を深める。

第13回 更生・矯正（関連法律や関連機関、アセスメントの次元と手法、再犯のリスク評価）

刑務所とは何か、刑務所で実施されている支援について学ぶ。

第14回 犯罪被害への支援（心理的被害・2次被害、支援と関連機関）

犯罪被害者に生じる心理的被害・2次被害、必要な支援について学ぶ。

第15回 更生・矯正（関連法律や関連機関、アセスメントの次元と手法、再犯のリスク評価）

まとめ  
更生・矯正施設で実施されている支援について学ぶ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会学概論

濱田 武士  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

主題：社会学の成果を学び、それをもとに現代社会の性格について考える。

目標：主な社会学理論を検討しながら、社会学とはどのような学問であるかを把握する。そしてその成果をふまえて、いくつかの社会的事象をとりあげて、それらがもつ意味を考える。

心理学部ディプロマ・ポリシーにしたがい、特に「社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」能力を培う機会として、本講義は位置づけられる。前半では、社会学の基礎知識の修得を経て、主な学説を学ぶことから始める。そこでの知見をもとに、地域から国際社会まで視野を広くもって、社会事象を観察し、その意味や問題点を適正に把握するための力を養う。後半では、現代社会の特性やその問題点を、「ゆたかさ」をキーワードにして考察を進める。前半での成果をもとに、現代日本社会のゆたかさがもつ意味と、そこにはらむ矛盾について、事例を用いて考察を進める。

<到達目標>

第1に、社会学の基礎知識の習得が目指される。第2には、基礎知識をもとに、現代社会の特性や問題について、その意味や背景を明らかにすることが目標となる。

<授業のキーワード>

社会学 現代社会 ゆたかさ

<授業の進め方>

担当者による講義（解説）が中心となる。

<履修するにあたって>

各回にて文献を適宜紹介する。一部文献に関しては、期間を設け、部分を定めて精読をお願いする。課題は当該文献の通読の成果をはかるものを用意する。

<授業時間外に必要な学修>

授業各回で検討されたキーワードについて、該当する具体例や関連する事柄について検索し、調べる。どのように調べるかは授業にて案内する。

<提出課題など>

講義中に課題の提出をお願いする（回数は未定）。

<成績評価方法・基準>

課題提出物70%（70点）、期末レポート30%（30点）で評価する。

<テキスト>

特になし。適宜プリントを配布する。

<授業計画>

#### 第1回 社会学の基礎的理解

19世紀において社会学が誕生した歴史的経緯を考察する。社会学における重要なキーワードの概念を検討しながら、基礎知識を学ぶ。

#### 第2回 方法論的集合主義

E・デュルケムの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的集合主義の中身を理解する。

#### 第3回 方法論的個人主義

M・ヴェーバーの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的個人主義の中身を理解する。

#### 第4回 構造-機能アプローチ

T・パーソンズの業績を検討しながら、彼が確立した「構造-機能アプローチ」の中身を理解する。

#### 第5回 意味学派のアプローチ

20世紀後半に活躍したアメリカの社会学者の業績をいくつか検討して、個人の主体的な意味付与という実践から、個人と社会の関係を捉えようとするアプローチを考察する。

#### 第6回 近年の社会学理論

近年の社会学理論の主な業績を検討する。これまでに見てきた社会学の古典的業績との比較から、現時点での社会学の成果と課題を明らかにする。

#### 第7回 社会学理論のまとめ

第1回から第6回までの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

#### 第8回 現代社会の特性と諸問題

現代社会の特性と諸問題について、近代社会の成熟化という観点から、具体的な事例を用いて検討をする。

#### 第9回 家族論

社会学における家族研究の成果をみながら、現代社会の家族の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

#### 第10回 組織論

社会学における組織研究の成果をみながら、現代社会の組織の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

#### 第11回 地域社会論

社会学における地域社会をめぐる研究の成果も用いて、現代社会における地域社会の実態を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

#### 第12回 文化と社会

現代社会における文化のありようと、それをめぐる問題点について、「グローバリゼーション」をキーワードにして考察をする。

#### 第13回 政治と社会

現代社会における政治のありようについて、「民主主義のパラドクス」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察をする。

#### 第14回 経済と社会

現代社会における経済のありようについて、「消費社会」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察をする。

#### 第15回 全体のまとめ

これまでの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

社会・集団・家族心理学（社会・集団）

山本 恭子

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本科目は専門科目群の講義科目に該当し、心理学部のDP1やDP2に示す知識や技能を獲得することを目的としています。人は本来社会的動物であり、人を求め、人間関係を求める傾向を強く持っています。社会心理学は私たちが日常抱く素朴な疑問や問題意識から出発して、人や集団の思考・感情・行動を理解しようとする学問です。人と人の関わりは複雑で、悩みのタネになることもしばしばありますが、社会心理学がその複雑さをひも解くヒントになることを願います。講義では、単に心理学の知見を紹介するだけでなく、どのような研究を通じて知見が得られたのかを合わせて解説することで、その心理学的知見について深く理解するとともに、それを疑い、判断していく力を磨いてもらいます。

<到達目標>

・社会心理学の主要な用語やトピックについて説明することができる。（知識）

・社会心理学の理論と研究を日常生活と関連づけ、暮らしのなかで直面する問題について自ら考えることができる。（態度・習慣、技能）

・毎日の暮らしのなかで起きている事柄について、自らの力で心理学的に考えることができる。（態度・習慣、技能）

<授業のキーワード>

自己、態度、社会的認知、コミュニケーション、集団

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めます。質問がある場合は、出席カードに記入してもらえれば、次回授業の冒頭でフィードバックします。

<履修するにあたって>

・原則、遅刻は認めません。出席カードは授業開始時に配布するので、遅刻した場合は受け取れません。

・授業中の私語は禁じます。

< 授業時間外に必要な学修 >

社会心理学は日常生活と関連の深い分野です。授業で学んだ用語の復習を行い、日常生活の中から関連した出来事を探したり、振り返ったりしながら理解を深めて下さい。(事後学習の目安：60分程度)

< 提出課題など >

毎回、出席カードに理解度確認テストの回答を書いて提出してもらいます。正答は、次回授業の冒頭で説明します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の確認テスト45%、定期試験55%

< テキスト >

プリント資料を配付します

< 参考図書 >

授業中に紹介します

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業内容、授業の進め方、評価方法などについて説明を行います。また、社会心理学とはどのような学問かについて、概要を説明します。

第2回 社会的自己1：自分を見つめる心

私たちが自分をどのようにとらえているのかや、自分を評価する際の仕組みについてお話しします。

第3回 自己呈示と自己開示

他者に特定の印象を与えるために、私たちがどのような振る舞いをするのかについてお話しします。また、自分自身について他者に打ち明ける行為が持つ、心理的・対人的効用について講義します。

第4回 態度と態度変化1：心を変える心

ものごとに対する態度がどのように決まるのかや、態度の機能や構造についてお話しします。

第5回 態度と態度変化2：心を変える心

人の態度を変化させる目的で行われる、説得的コミュニケーションについてお話しします。

第6回 社会的推論：理由を求める心

人が社会的判断や推論をするときの仕組みについてお話しします。また、人がものごとの原因を判断する(原因帰属)ときの特徴について解説します。

第7回 社会的認知：イメージを作る心

印象形成の諸説および対人認知の相違をもたらし要因について解説します。

第8回 非言語コミュニケーション1：まなざしでわかりあう心

最初に、対人コミュニケーションや社会的スキルについて解説します。次に、言葉によらないコミュニケーションに注目し、視線の役割について講義します。

第9回 非言語コミュニケーション2：表情やしぐさでわかりあう心

最初に、対人コミュニケーションや社会的スキルについ

て解説します。次に、言葉によらないコミュニケーションに注目し、視線の役割について講義します。

第10回 対人魅力：心を引きつける心

対人魅力の定義、理論、規定因および対人関係の展開との関わりについて解説します

第11回 ソーシャルサポート：心を支える心

人とのつながりや孤立が人の心身の状態に及ぼす影響についてお話しします。

第12回 社会的影響：人々に流される心

人と一緒に課題を行うとはかどるのかや、他者の意見に流されてしまう心についてお話しします。

第13回 集団過程：みんなが形づくる心

集団での意思決定が必ずしも優れたものにならないことや、集団内の少数者からの影響についてお話しします。

第14回 集団間葛藤：人々の間で揺れる心

集団間の紛争や葛藤、社会的ジレンマについてお話しします。

第15回 社会的感情

ふりかえり

社会生活において生じる社会的感情や社会的動機についてお話しします。また、授業をふり返り、総括を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

集団心理学(社会・集団・家族心理学)

板山 昂  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、個人と集団、集団と集団の相互作用に関する心理学の知見を学ぶことを通して、集団を形成して生活する私たちが、いかに他者から影響を受け、さらには他者に影響を与えているのかについて包括的に理解することを目的とします。こうした本科目は心理学部のDPに示す、心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができること(DP1)、社会人として幅広い教養を身につけること(DP2)、社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができること(DP4)、を目指します。

人が他者との関わりを持たずに生活することや、まったく集団に所属せずに生活をしていくことは考えられません。人は、集団に所属することで、一人ではできないことが可能になったり、安心感を得たりすることができます。しかし、その一方で、集団で活動する中でストレスを感じてしまうこともあります。さらに、集団であるがために過ちを犯してしまうことがあります。集団は、その中にいる個人の心理状態や行動に様々な影響を与えます。

本授業では、集団活動でいることによって生じる心理学的問題について理解するとともに、よりよい集団生活を送るための力を高めてもらいます。

なお、この科目の担当者はカウンセラー等の実務経験者ではない。

<到達目標>

- ・対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について説明できる。
- ・集団及び文化が個人に及ぼす影響について説明できる。
- ・集団心理学の理論と研究を日常生活と関連づけ、暮らしのなかで起きている事柄について、自らの力で心理学的に考察することができる。

<授業のキーワード>

集団心理学、他者存在、集団間関係、文化、

<授業の進め方>

授業は講義形式で行います。

受講生は、毎回授業でミニレポートを提出することが求められます。

<授業時間外に必要な学修>

授業前にはシラバスを基に予習、毎授業後には講義内容を復習しておくこと（時間の目安30分）

<提出課題など>

各授業の終了後にミニレポートを提出して頂きます。履修者が多いため、すべてのレポートにコメントできません。

優れた内容や良くない内容についてなど、ピックアップして全体に提示します。

<成績評価方法・基準>

2/3以上の課題の提出をもって評価の対象とする

【授業毎ミニレポート】50%：各回に課すミニレポートの問いについて、授業内容を踏まえ自らの考えで述べられているか。

【期末試験】50%

<テキスト>

特に指定はしない。毎授業で資料を配布する

<授業計画>

第1回 授業オリエンテーション

集団、集団心理学について説明する

第2回 社会的影響

社会的促進と社会的抑制、社会的手抜きについて解説する

第3回 社会的影響

集団圧力と同調行動、集団規範について解説する

第4回 集団過程

集団極性化、集団思考などについて解説する

第5回 集団過程

少数派の影響などについて解説する

第6回 集合行動

パニック、流言などについて解説する

第7回 受容と排斥

他者からのサポートと、排斥が及ぼす影響について解説する

第8回 攻撃行動

攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズムについて解説する

第9回 援助行動

援助行動の規定要因や協同に関わる心理について解説する

第10回 リーダーシップ

集団行動を促進するリーダーシップについて解説する

第11回 社会的ネットワーク

ネットワークの形成・維持を支える人間行動について解説する

第12回 集団間葛藤

集団間関係における紛争・葛藤の生起、社会的アイデンティティ、社会的ジレンマについて解説する

第13回 集団間葛藤

集団間関係における紛争・葛藤の和解に関する心理過程について解説する

第14回 個人主義、集団主義、文化的自己観

個人主義や集団主義といった文化的自己感の個人への影響について解説する

第15回 まとめ

ふりかえりを行う

-----  
2022年度 前期

2.0単位

障害児者心理学（障害者・障害児心理学）

筒井 優介  
-----

<授業の方法>

講義、遠隔授業（オンデマンド授業）

<授業の目的>

・この科目は心理学部DPに示す「心理学の専門的知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、「社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」ことを目指す。

・本授業では、障害福祉現場において生じる問題とその背景について理解し、必要な心理的支援を理解することを目的とする。

<到達目標>

・現在の障害福祉に関わる問題とその背景について説明できる（知識）

・障害福祉領域における要心理支援者に対して必要な支援の手立てを考えることができる（思考力）

・現在生じている社会的問題について他者と協議し、解決のために協働することができる（態度）

<授業のキーワード>

障害者総合支援法、発達障害者支援法、障害児者に対す

る心理的支援の技法

< 授業の進め方 >

・ 講義形式を中心に各回のテーマについて、配布資料に沿って授業を進める。

< 履修するにあたって >

・ 各回のテーマについて、各自で問題を意識し、社会の成員としてできることを考えてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：各回のシラバスの内容を確認し、当該のテーマにおける書籍、新聞記事等に目を通しておくこと（30分）

事後学習：各回の講義内容について整理し、身近な障害福祉施設や事業にも意識を向け、障害児者福祉の現場の実際的な理解につなげること（30分）

< 提出課題など >

中間レポート・小テスト・最終レポート

提出課題についてはdotCampusからフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート（35%）

小テスト（30%）

最終レポート（35%）

< 参考図書 >

公認心理師の基礎と実践13 障害者・障害児心理学 柘植雅義・石倉建二・野口和人・本田秀夫編 遠見書房

< 授業計画 >

第1回 現代社会における障害福祉の現状と課題

障害の定義や診断基準について理解し、現代社会における障害福祉の課題やその背景を知る

第2回 障害福祉の歴史

障害福祉の法律や制度、施策が成立した背景を学び、障害福祉の歴史を理解する

第3回 障害福祉に関わる法体系や制度

障害福祉に関わる法体系や制度について理解する

第4回 障害者総合支援法について

障害者総合支援法の成り立ちや意義、課題について理解する

第5回 身体障害の概要

身体障害の診断基準や関連する法や制度を概観する

第6回 精神障害の概要

精神障害の診断基準や関連する法や制度を概観する

第7回 発達障害の概要

発達障害の診断基準や関連する法や制度を概観する

第8回 乳幼児期における障害福祉制度の現状と課題

乳幼児期における障害福祉制度を概観し、その現状と課題について理解する

第9回 学童期における障害福祉制度の現状と課題

学童期における障害福祉制度を概観し、その現状と課題について理解する

第10回 青年期における障害福祉制度の現状と課題

青年期における障害福祉制度を概観し、その現状と課題について理解する

第11回 成人期における障害福祉制度の現状と課題

成人期における障害福祉制度を概観し、その現状と課題について理解する

第12回 障害福祉領域における心理的支援の実際

療育や子育て支援など、主として乳幼児期における障害児に対する心理的支援のあり方について学ぶ

第13回 障害福祉領域における心理的支援の実際

特別支援教育など、主として学童期における障害児に対する心理的支援のあり方について学ぶ

第14回 障害福祉領域における心理的支援の実際

就労支援やSSTなど、主として青年期・成人期における障害児・者に対する心理的支援のあり方について学ぶ

第15回 障害福祉領域における心理職の専門性と多職種連携

専門職の一員として障害福祉領域において有効に機能するための連携のあり方を考える

-----  
2022年度 前期

2.0単位

消費者心理学

長谷 和久  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

消費者心理学は、心理学部3年次以降を対象に開講される専門教育科目である。この授業は、心理学部のディプロマ・ポリシーの中の1や2および4と特に関連しています。また、教職に関する科目（選択科目）でもある。私たちの生活は財やサービスを購入し消費することで成り立っています。すなわち、「消費する」ことは日々誰もが経験するもっとも身近な行為の1つであるといえます。消費者心理学では、社会心理学や認知心理学、学習心理学、進化心理学などの多様な心理学領域の知見を横断的に援用しながら商品の選択や購買をもたらし心理的要因の検討を行い、人々の消費行動の特徴についての明らかにします。授業を進めるにあたり、本科目では、消費行動に関わる種々の心理学の理論や仮説について、具体的な実験や調査、分析例を交えて紹介します。また、本講義では人の情報処理や判断の特徴といった個人内の要因に着目するだけでなく、他者の存在や集団の中での位置づけといった個人間の要因にも着目して、それらの要因が消費行動に与える影響について説明します。大量消費社会から持続可能な消費への移行が叫ばれる今日において、適切な消費とは何か、そしてそうした消費を促すための方略について考えてください。

< 到達目標 >

消費行動と心理学の接点を理解できる。（知識）

価格評価などの価値判断における経済学的な見方と心理学的な見方の差異を理解できる。(知識)

マーケティングに対する心理学的な理解を深めることができる。(知識)

消費者行動とインターネット社会のつながりについて理解することができる。(知識)

自らの消費行動の「くせ」が理解できるようになる。(判断力)

<授業のキーワード>

消費者, 消費社会, 広告, 情報処理, 知覚, 感情, 態度, 文化, ブランド, 社会的アイデンティティ, 意思決定, 価格判断, 説得的コミュニケーション

<授業の進め方>

授業内で配布する資料をもとに講義形式で授業を進めます。

<履修するにあたって>

授業内では毎回小テストがあり, さらにレポートの提出も必要になります。このため, 高いモチベーションを持って取り組んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- ・授業の冒頭で実施される確認テストと, 定期試験に備えるための授業内容の復習(時間の目安: 毎週1時間)
- ・レポートの執筆(時間の目安: 6時間)

<提出課題など>

- ・授業内で実施する小テスト15回分
- ・消費者心理学に関するレポート(内容の詳細については授業内で説明する)

<成績評価方法・基準>

以下の3点を総合し, 成績評価を行う。

授業中に回答を求める小テスト・課題(30%)

消費者心理学に関するレポート(20%)

定期試験(50%)

また, 3分の2以上の出席をもって単位の認定・評価の対象とする。

<テキスト>

とくに指定はしないが, 本講義の予習・復習用の教材として「参考図書」として紹介する『消費者心理学』(勁草書房)の購入を強く推奨する。

<参考図書>

優先順位が高い順に以下に示す。

- ・消費者心理学(山田一成・池内裕美 編 2018 勁草書房)
- ・産業・組織心理学講座 第5巻: 消費者行動の心理学: 消費者と企業のよりよい関係性(永野光郎 編 2019 大路書房)
- ・消費行動の社会心理学: 消費する人間のこころと行動(竹村和久 編 2000 北大路書房)
- ・The Cambridge Handbook of Consumer Psychology (Michael Norton Eds. 2017 Cambridge University Press)

<授業計画>

第1回 消費者行動を研究する意義

消費者心理学を学ぶ意義, ならびに, 研究対象について理解する。

第2回 価値評価の心理学

対象の価値を決める心理学的要因について学び, 人々が高い価値を置きやすい対象の特徴について理解する。

第3回 態度と説得

態度変容に関する研究知見をとおして態度の特徴と態度変容をもたらしやすい環境について学ぶ。

第4回 態度と説得

態度変容を目的とする説得的コミュニケーションに関する研究成果を基礎に, 効果的な説得技法について考える。

第5回 消費者の意思決定

商品の購入を決めるまでの心理的プロセスについて学びます。

第6回 感情と消費行動

消費者の感情が消費行動をいかに促進するか, もしくは抑制するかについて学ぶ。

第7回 進化と消費者行動

多様な消費者行動について進化論の立場に立って考えることの意義を理解する。

第8回 ブランドと消費者行動

ブランドが有する付加価値の源泉について理解し, ブランドが私たちの認知と行動に与える影響について学ぶ。

第9回 自己表現としての購買

アイデンティティの表明や社会的承認を目的とする消費行動の特徴について学ぶ。

第10回 何をかうべきか

幸福やウェルビーイングをもたらす消費行動の特徴について学ぶ。

第11回 個人間過程と消費行動

消費場面における他者の影響について学ぶ。

第12回 購買の是非

衝動購買や買い物依存症について学ぶことで, 過剰な購買行動がもたらす心理面への否定的な影響について学ぶとともに, 適切な購買が心理的安定に寄与することもあわせて理解する。

第13回 オンライン上での消費とプライバシー管理

商品の段階評価やレビューコメントなどのオンラインショッピングに掲載される情報が購買行動に与える影響, ならびにオンライン上でのプライバシー管理の特徴について学ぶ。

第14回 文化と消費者行動

異なる文化圏に所属する人々の消費行動の差異と共通点について学ぶ。

第15回 消費者心理学の展望

心理学における再現可能性の危機について理解し, これからの消費者心理学が目指すべき研究の方向性について考える。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

人格心理学（感情・人格心理学）

岡村 心平  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

自分の周りを見ると、社交的な人もいれば内向的な人もいるだろう。そうした人の性格・人格の違いはなぜ生じるのだろうか。人格心理学は、人の違いを環境ではなく個人の条件によって説明しようとしてきた。

本講義では、性格・人格とは何かについて人格心理学の考え方を学ぶ。まず、人格心理学の研究の歴史を概観しながら、類型論、特性論、その他代表的な理論について紹介する。また、人格を理解する方法として心理検査や面接法について紹介する。さらに、人格の発達と変容について研究知見を紹介し、人格はどのように形成されるのか、どのような要因によって変容するのかについて学ぶ。

本講義は、専門科目群の講義科目であり、心理学部のDPに示す、心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる、社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる、を目的とする。

なおこの授業は、教育・医療・産業領域において臨床業務に関わり、心理的支援の実務経験を5年以上有する臨床心理士・公認心理師である教員が担当している。現場での知見についても言及しながら、より深い学びへとつなげる。

< 到達目標 >

本講義を通して、以下の項目を達成することを目標とする。

- ・人格に対して心理学に基づいた捉え方を身につけること
- ・人格に関する理論や研究の多様性を理解し、それぞれの理論の違いを説明することができること

< 授業のキーワード >

人格、性格、パーソナリティ

< 授業の進め方 >

講義を中心に授業を進める。授業の最後には、授業内容の要約などを記入してもらい、ミニレポートとする。また次回の授業の初めにその内容を共有する。

対面の場合は、質問に回答してもらったり、ディスカッションをするなど、参加型の手法も用いる。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回の配布資料をよく読んで理解すること（目安として1時間）

< 提出課題など >

授業の最後にミニレポートを提出する。課題に対し、適切に回答していれば、成績評価の点数を加点する。また次の授業で、いくつかのレポートを匿名で読み上げたり、質問に回答したりコメントを伝えたりする。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験(50%)・ミニレポート(50%) ミニレポートの2/3の提出を持って評価の対象とする。

< テキスト >

特に指定はしないが、必要に応じてコピー等を配布する。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

人格心理学の授業で扱うトピック全体の流れを説明する。

第2回 人格心理学とは

心理学における人格心理学の歴史を概観し、人格心理学の研究対象とその目的について説明する。

第3回 人格の類型論（1）

人格の類型論と特性論の違いを整理しながらそれぞれの理論を説明し、長所と短所を整理する。人格の類型論としては、クレッチマー、シェルドン、ユングの理論を説明する。

第4回 人格の類型論（2）

人格の類型論と特性論の違いを整理しながらそれぞれの理論を説明し、長所と短所を整理する。人格の類型論としては、クレッチマー、シェルドン、ユングの理論を説明する。

第5回 人格の特性論（1）

人格の類型論と特性論の違いを整理しながらそれぞれの理論を説明し、長所と短所を整理する。人格の特性論としては、オールポート、アイゼンクらの理論や5因子モデルについて説明する。

第6回 人格の特性論（2）

人格の類型論と特性論の違いを整理しながらそれぞれの理論を説明し、長所と短所を整理する。人格の特性論としては、オールポート、アイゼンクらの理論や5因子モデルについて説明する。

第7回 精神分析学と人格

精神分析学による人格の捉え方を説明する。フロイトの力動論を取り上げる。

第8回 学習理論と人格

学習理論による人格の捉え方を説明する。グラードとミラーの研究について取り上げる。

第9回 人格理論の多様性（1）

ロジャーズの自己理論、レヴィンの場の理論などその他の人格理論を説明する。また、ミッシェルの批判によっ

て始まった「人間・状況論争」について紹介する。

#### 第10回 人格理論の多様性(2)

ロジャーズの自己理論、レヴィンの場の理論などその他の人格理論を説明する。また、ミッシェルの批判によって始まった「人間・状況論争」について紹介する。

#### 第11回 人格の発達とその要因(1)

人格の発達形成に影響を与える要因について説明する。遺伝といった内的要因、養育環境といった外的要因を取り上げる。

#### 第12回 人格の発達とその要因(2)

人格の発達と形成に影響を与える要因について説明する。遺伝といった内的要因、養育環境といった外的要因などを取り上げる。

#### 第13回 人格理解の方法

人格を知るための手法について説明を行う。観察法、面接法、質問紙法を紹介する。

#### 第14回 人格の変容

人格がどのように変容しうるのが説明を行う。精神疾患などの不適応的变化や、心理療法による適応的变化などを説明する。

#### 第15回 授業のまとめ

これまでの授業内容について、筆記試験を実施する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

神経心理学(神経・生理心理学)

長谷川 千洋

#### ----- < 授業の方法 >

##### 講義

##### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部の専門講義科目であり、DP1(心理学の専門知識(神経心理学))を習得し、各分野で専門知識を生かすことができる)と、DP3(心理現象(神経心理学的事象))を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる)の獲得を目指しています。視知覚、言語、記憶、行為等に関する基本的な脳の認知機能とその多様な障害(高次脳機能障害)についての基本的知識を獲得し、これまで神経心理学の研究領域において明らかにされてきた高次脳機能障害の主要なトピックスについて学びます。また、臨床場面での様々な神経心理学的検査を知り、症例研究などを通して、脳と心の関係のメカニズムを理解する手法、最近の神経科学の知見などを学びます。脳の認知機能の基礎やその多様な障害を理解し、支援の方法を学ぶことを目的とします。尚、この科目は公認心理師であり医療分野で20年以上にわたり神経心理学の実務経験のある担当者が、実践的観点から神経心理学についての解説を行います。

##### < 到達目標 >

・脳や脳障害に関する知識を増やし、認知症や高次機能

障害をもつ患者さんの神経心理症状を説明できる。(知識)

・種々の神経心理検査、リハビリテーションの方法やその治療効果を説明できる。(知識)

・医療・福祉・教育などの心理実習において、神経心理学的知見を駆使することにより、より主体的に行動できる。(態度・習慣、技能)

##### < 授業のキーワード >

脳損傷、神経心理症状、認知機能

##### < 授業の進め方 >

講義を中心に進めます

##### < 履修するにあたって >

テキスト「臨床神経心理学」を購入すること。

##### < 授業時間外に必要な学修 >

指定テキストにおいて告知している授業内容の箇所を予習した後に講義にのぞんでください。各授業について少なくとも2時間程度は予習・復習に費やしてください。

##### < 提出課題など >

第1~14回目の授業内で小テスト課題の提出が求められます。提出後に課題の正答と解説が示されます。

##### < 成績評価方法・基準 >

全体の3分の2以上の出席者(課題提出者)のみ単位の認定・評価の対象とします。小テスト課題50%, 定期試験50%

##### < テキスト >

「臨床神経心理学」(医歯薬出版株式会社)緑川晶他(編)

##### < 参考図書 >

特に指定しません。

##### < 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

神経心理学や高次脳機能障害の基礎用語について紹介する。

#### 第2回 脳の解剖学的基礎

脳神経の構造とその機能について学ぶ。

#### 第3回 神経心理学の方法

神経心理学の研究方法について学ぶ。

#### 第4回 高次脳機能障害の原因疾患

脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの原因疾患について学ぶ。

#### 第5回 視覚認知

視覚認知の障害について学ぶ

#### 第6回 行為

行為の障害(失行)について学ぶ。

#### 第7回 言語1

言語の機能と障害(失語症)について学ぶ。

#### 第8回 言語2

言語の機能と障害、その他関連する障害について学ぶ。

#### 第9回 離断症状

脳の側性化と離断症状について学ぶ。

## 第10回 記憶

記憶の機能と障害について学ぶ。

## 第11回 注意と遂行機能

注意・遂行機能と障害について学ぶ。

## 第12回 社会行動

社会行動と障害について学ぶ。

## 第13回 小児・高齢者の神経心理学

発達障害や認知症の神経心理学について学ぶ。

## 第14回 高次機能障害のリハビリテーション

心理検査や行動観察などの神経心理学的評価、介入について学ぶ。

## 第15回 神経心理学の展開と神経科学

神経科学の最近の知見を紹介し、神経心理学の知見との関係について学ぶ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

人体の構造と機能（人体の構造と機能及び疾病）

博野 信次

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」では「人体の構造と機能及び疾病」では 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害 がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について学習することが必要であると定められています。本講義では人体の構造と機能及びいわゆる難病や悪性腫瘍をはじめとする疾病の成因・病態・診断と治療について学習します。ただし、神経系と神経疾患については他の講義で詳細に学習するので、本講義では省略します。また難病の定義には様々なものがありますが、昭和47年に策定された難病対策要綱では1)原因不明、治療方針未確定であり、かつ、後遺症を残すおそれが少なくない疾病、2)経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず、介護等に等しく人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾病、と定義されています。平成27年1月1日に「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され、難病の患者に対する医療費助成の制度が確立されましたが、その対象となる疾患として指定されているものは新たに指定難病と呼ばれ、難病といえはこの指定難病のことを意味する場合も多くあります。指定難病の基準や指定された疾患の一覧は難病センターのホームページ<http://www.nanbyou.or.jp/>を参照してください。本講義では難病に関しては特にまとめては示しません。この授業は心理学部のディプロマポリシーの1:心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる。に特に関連しています。ま

たこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。

< 到達目標 >

学生が他の医療専門職種と互して医療現場で勤務するために最低限必要な指定されたテキストに記載された人体の構造と機能及び疾病に関する知識を習得できる。

< 授業のキーワード >

人体の構造と機能、疾病の成因・病態

< 授業の進め方 >

講義

< 履修するにあたって >

医学的な内容でかつ範囲が広大であり、その上専門用語が多く極めて難しいです。次回の範囲をあらかじめ予習し理解できないところを中心に聞くことが必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自、指定されたテキストを用意し、告知している授業内容の部分を予習してから講義にのぞんで下さい。そうでないと理解できるとは考えられません。また理解を深めるために必ず復習をして下さい。予習と復習は併せて4から5時間程度はかかると考えられます。

< 提出課題など >

毎回、オンラインで小テストを行い、次の授業日にオンラインで解答を提示します。各自で自分の得点を確認して下さい。

< 成績評価方法・基準 >

授業は対面授業形式で行います。感染予防の観点から、学生同士の教科書の共同使用や物品の貸し借り等は禁止するとともに、出席参加の確認や小テストはdotCampusを用いたオンラインで行い、出席カードやテスト用紙等の配布・回収は一切行いません。オンラインツールの操作に関しての支援を担当教員、実習助手等が行うことは不可能なため、各自でヘルプ等を参照してください。初回、第2回および最終回を除き、毎回小テストを行い、小テストの回答をもって授業への出席参加とします。対面授業日に教室に来ただけでは出席参加とはならないので十分に注意して下さい。対面授業日の18時に、dotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内にテストタスクを公開します。小テストは3問の択一問題で、2問以上正解すると合格となります。小テストは次の授業日前日の22時まで回答を提出することができます。テストタスクを選択してテストを開き、選択肢にチェックを入れ、下の「テストを提出する」をクリックして回答を提出して下さい。提出すると合格か不合格かがすぐに判定されて表示されます。提出期限までにかかわらず、この合格か不合格かの判定まで進んでください。提出期限を過ぎますと提出できなくなり自動的に欠席不参加・不合格となります。また提出期限までであればテストを開いてから提出するまでに制限時間はありませんが、一度提出すると再受験はできませんので十分に注意して下さい。正解は次の授業日に次の授業回のフォルダ内に公開します。

そのため、繰り返しますがdotCampusが使用できない初回、第2回と、次の授業日が存在しない最終回には小テストはありません。

非登学を認められた学生等、対面授業に参加することができない、あるいは濃厚とは判定されない接触者になったため参加を控えたほうが良いと判断したなど種々の理由により対面授業に来られない学生のために、対面授業中に担当教員が教示する内容をまとめた講義資料を用意し、オンデマンド方式によるオンライン受講ができるようにしています。講義資料は教科書の内容のうち強調したい項目の指示、補足説明や追加説明、必要な修正などをまとめたものです。講義資料はOneDrive上に保存し、各授業日の1週間前を目安にdotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内で呈示しているタスクにリンク先を提示しますので、ダウンロードし、教科書と合わせて学習したのちに、小テストを受けて下さい。dotCampusが使用できない初回、第2回の講義資料についてはそれぞれのOneDriveへのリンクを下の「遠隔授業情報」の欄に記載してあります。なお、この講義資料は対面授業参加者もダウンロードして利用することができます。

成績評価は小テスト50%、定期試験50%で行い、2/3以上の出席参加すなわち小テストの回答提出をもって評価対象とします。ただし、非登学を認められた学生に対しては、定期試験を行わず100%小テストで行います。小テストの評価は合格の回数を全回数で割り50倍した値を成績とします。小テストの合格の回数に関する問い合わせには一切答えられませんので自身で必ず記録しておいてください。オンラインによる小テストでは、機器の不調やソフトウェア（アプリ）の操作ミス等により提出が遅れる可能性があります。そのため本講義では通常の対面授業の講義においては授業日当日に提出することが義務付けられている小テストの提出期限を約1週間延ばし十分な余裕を持たせてあります。（ただし7月19日の第14回授業日は7月22日に第15回授業日が設定されているため提出期限が2日間と短くなっていますのでくれぐれも注意してください。）提出期限を過ぎた場合は、公平公正な小テストの実施と評価のため、提出は認められませんので早めに提出するようにしてください。ただし、「公認欠席届」および「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を提出した場合は、欠席日を回答提出期間に含む回の小テストは出席参加・合格として扱いますので「公認欠席届」や「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を出せる場合は無理して出席・回答提出する必要はありません。その他の欠席届に関しては一切特別な扱いをしませんので注意して下さい。

質問がある場合は、対面授業中に行えるほか、dotCampusの質問箱でも行えます。ただし、質問は講義内容に関するものに限り、上述のようにオンラインツールに関してや小テストの合格回数に関する質問など、講義内容に関する質問以外には一切答えられません。

<テキスト>

野島一彦・繁樹算男監修 齋藤清二 著 公認心理師の基礎と実践② 人体の構造と機能及び疾病 遠見書房 2019

テキストは各自で必要時まで準備してください。著作権法によりコピーの使用は認められません。テキストが売り切れているなどいかなる理由があっても他の学生のテキストを見ることは認められませんので、早めに手に入れておいてください。

<参考図書>

- 1.内田さえ、ら。人体の構造と機能。第4版。医歯薬出版2015.
  - 2.竹中優。人体の構造と機能および疾病の成り立ち疾病の成因・病態・診断・治療第2版。2011
- 授業中には使用しません。公認心理師の国家試験を受ける際などより深く広く学習する場合には役に立ちます。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

オリエンテーション。この講義の目的、進め方、評価方法等について解説する。

第2回 医学総論

インフォームドコンセントやEBMなど公認心理師に必要な医学の総論的知識を学習する。テキストP1～22,41～56

第3回 解剖生理1

表在解剖、細胞、組織、運動器について学習する。テキストP59～65

第4回 解剖生理2

循環器系、消化器系について学習する。テキストP65～71

第5回 解剖生理3

呼吸器系、血液系について学習する。テキストP71～76

第6回 解剖生理4

リンパ系、泌尿器系について学習する。テキストP76～80

第7回 解剖生理5

内分泌系、生殖系、感覚器系について学習する。テキストP86～93

第8回 症候

主要な症候について学習する。テキストP94～107

第9回 疾病と病理1

炎症、腫瘍、循環器疾患、血液疾患について学習する。テキストP108～114

第10回 疾病と病理2

呼吸器疾患、消化器疾患について学習する。テキストP114～122

第11回 疾病と病理3

内分泌疾患、泌尿生殖器疾患について学習する。テキストP122～127

第12回 疾病と病理4

運動器疾患、感覚器疾患、心身症について学習する。テキストP129～133

第13回 がん

がんの総論的知識について学習する。テキストP137～144

第14回 遺伝性疾患

遺伝性疾患について学習する。テキストP145～159

第15回 糖尿病

糖尿病について学習する。テキストP191～199

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理学概論

長谷川 千洋

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、2に特に関連し、心理学科専門科目群の中に位置づけられています。

本授業は、「心理学の成り立ち」「人の心の基本的な仕組みと働き」について学習し、心理学の基本を身につけることを目的とします。

尚、この科目は公認心理師であり医療分野で20年以上にわたり心理臨床の実務経験のある担当者が、実践的観点から心理学概論について解説を行います。

< 到達目標 >

- ・心理学の各分野について述べるができる。
- ・心理学の研究方法について説明できる
- ・心理学的知見を基に、科学的な視点を持つことができる。

< 授業のキーワード >

心理学の歴史 心の機能 心理学の研究手法 科学としての心理学 心理学の展開

< 授業の進め方 >

講義形式で進めます。

< 履修するにあたって >

- ・テキストを購入すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定テキストにおいて告知している授業内容の箇所を予習した後に講義にのぞんでください。また、課題テストについては後の授業で正答を伝えますので、必ず復習してください。各授業について少なくとも2時間程度は予習・復習に費やしてください。

< 提出課題など >

各授業において、講義内容に関する小テスト課題を提出することが求められます。

< 成績評価方法・基準 >

全体のうち2/3以上の出席者（課題提出者）のみが単位

の認定・評価の対象になります。全てのテスト問題の正解は提示され、自分自身の理解の程度が確認できます。成績評価は、授業内の小テスト課題50%、定期試験50%。

< テキスト >

エッセンシャル心理学（ナカニシヤ）長谷川千洋（編）

< 参考図書 >

授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

オリエンテーション、科学としての心理学、心理学の対象、諸領域、関連領域

第2回 心理学の歴史

心理学史、心の進化

第3回 知覚と注意

形の知覚、奥行き知覚、運動知覚、注意

第4回 学習と記憶

学習の基礎、記憶の過程

第5回 感情と動機づけ

感情、動機づけと欲求

第6回 心の生物学的基礎

認知と認知機能の障害

脳と神経

第7回 人格の理論と測定

パーソナリティの理解、捉え方、形成過程、心理検査

第8回 発達と発達障害

身体的発達、認知的発達、心理社会的発達、発達のつまずき

第9回 言語と思考

言語発達の過程、言語発達理論、思考の種類

第10回 心の健康と適応

心の健康、ストレス反応、ストレスコーピング

第11回 心の病態

精神疾患の診断分類・診断基準、代表的な精神疾患、精神疾患の治療、心理的アセスメントと心理的支援

第12回 個人と集団

自己と他者、社会的認知、社会行動、社会と文化、集団

第13回 心理学の応用

心理学の応用

第14回 心理学の応用

心理支援の歴史、各分野での心理学の応用

第15回 心理学の応用

各分野での心理学の応用 授業のふりかえり

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学研究法

岡村 心平

-----  
< 授業の方法 >

対面授業（講義）

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

#### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部のディプロマ・ポリシーに示す、「1. 心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、「3. 心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる」能力を獲得することを目指す。また本講義は、公認心理師の基礎科目であり、将来、心理専門職等として活動するために必要な心理学研究法に関する基礎的な知識や技能について概括的に学ぶ。心理学とは人間の心の仕組みと行動の法則性を探究する学問であり、心理学の研究手法を学修することで、心理学以外の社会科学および自然科学における学問分野との共通性、あるいは違いについて理解する。

#### < 到達目標 >

- ・ 心理学における実証的研究法に対して、研究倫理や代表的な研究法の基本的な説明ができる。(知識)
- ・ 心理学の実験計画の立案について、基本的な説明ができる。(知識)
- ・ 心理学の実験データの収集とデータ処理について、基本的な説明ができる。(知識・技能)
- ・ 心理学の実験結果の解釈と報告書の作成について、基本的な説明ができる。(知識・技能)
- ・ 心理学の研究法に関わる基本的な事項に関心を持ち、その基礎的な知識と技能について心理学的観点から考えることができる。(態度・習慣)

#### < 授業のキーワード >

心理学研究法、実験法、調査法、観察法、面接法、量的研究、質的研究、事例研究、研究倫理

#### < 授業の進め方 >

パワーポイントによるスライドや配布資料を用いた説明を行う。授業回ごとに「授業後課題」を課す。その課題の保存および提出はdotCampusを利用する。

#### < 履修するにあたって >

授業回ごとに、授業内容に関する説明資料を配布する。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、「授業計画」を参考に、できるだけ授業の内容について自主的に調べ、授業に臨んでもらいたい。(目安として1時間)

授業終了後に、内容が正しく理解できているかどうかを確認し、必要に応じて基礎的な事項や概念、用語について調べ直ししておく必要がある。(目安として1時間)

#### < 提出課題など >

授業回ごとに理解度を確認する「授業後課題」を課す。課題の保存および提出はdotCampusを利用する。

#### < 成績評価方法・基準 >

全授業後課題の3分の2以上の提出をもって、単位の認定・評価の対象者とする。授業回ごとに授業内容の理解

度を確認する「授業後課題」(15課題)40%、学習内容全体の習熟度を測る「学期末定期試験」(1回)60%で評価する。

心理学部では、公認心理師に係る科目については、原則、対面での定期試験を実施します。しかし、定期試験前の感染状況によっては実施が困難となる可能性もあり、定期試験以外の評価(授業中の質疑・発表や小テスト、レポート等)に変更することがあります。非登学を認められた学生に対しても同様です。また、新型コロナウイルス感染症の登学基準により、追試験・再試験・補充試験が受験できない場合(非登学を含む)においても、対面の定期試験以外の評価(レポート等)を行います。

#### < テキスト >

野島一彦・繁樹算男(監修)、村井潤一郎・藤川 麗(編)『公認心理師の基礎と実践4 心理学研究法』(2018年)遠見書房 ¥2,400(税別) ISBN:9784866160542

#### < 参考図書 >

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)『心理学研究法入門 調査・実践から実践まで』(2001年)東京大学出版会 ¥3,400(税別) ISBN:978413012035

#### < 授業計画 >

第1回 心理学研究法とは

心理学における研究手法を概説する。

第2回 実験法の基礎

仮説検証型と呼ばれる実験法について概説し、実験法に関わる基本的な概念について説明する。

第3回 実験法の実際

実験計画の立案、データ分析と解釈、考察という流れを概説する。

第4回 調査法の基礎

質問紙調査法の概要について説明する。尺度、相関、妥当性および信頼性、倫理的配慮について概説する。

第5回 調査法の実際

質問紙調査研究の特徴を概説し、変数間の関連について構造方程式モデリングで捉えた研究を紹介する。

第6回 観察法の基礎

心理学における観察法について概説する。量的方法および質的方法について紹介し、倫理的配慮について説明する。

第7回 観察法の実際

観察法を用いた研究の流れについて触れ、観察実施における留意点や工夫について説明する。

第8回 面接法の基礎

調査面接におけるいくつかの形態を紹介し、データの収集およびデータの量的・質的分析について解説する。

第9回 面接法の実際

量的分析による仮説検証から、トップダウン式およびボトムアップ式の質的分析について説明する。さらに臨床面接法について概説する。

## 第10回 検査法の基礎(1)

検査法における心理学研究について概説する。知能検査、神経心理学的検査、脳画像検査法について説明する。

## 第11回 検査法の基礎(2)

発達領域の検査、パーソナリティ検査、適応行動・生活機能の検査について概説する。

## 第12回 実践的研究

実践的研究法およびその着想について、また実践的研究法を実施する上での留意点について概説する。

## 第13回 研究レビュー

研究レビューにおけるメタ分析、一次研究と二次研究、効果量について概説する。

## 第14回 研究倫理

心理学における研究倫理について説明する。特に公認心理師に関わる研究に必要な「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について理解する。

## 第15回 全体のまとめ

全講義の全体的なまとめを行い、心理学研究法に対する基礎的理解をより確実なものにする。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学的支援法

三和 千徳  
-----

### < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

この授業は、心理学部の学生を対象に開講される公認心理師科目であり、心理学的支援法の基礎を学ぶ。また、心理学部のDP1、3、4を獲得することを目的とする。この授業では、さまざまな心理療法やカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について説明する。精神力動理論、認知行動理論、人間性アプローチ、システム論アプローチについて、成り立ちや理論、及び具体的なかかわり方について学ぶ。心理学的支援において必須のスキルである傾聴などのコミュニケーションについても学び、自らの生活において活用できるようにする。また、守秘義務などを含むプライバシーへの配慮についても理解し、支援内容等の適切な配慮についても理解し、支援内容等の適切な記録及び報告の必要性について学ぶ。このような心理学的支援法の歴史、概念、意義、適応や限界、守秘義務、種類について理解し、説明できることを目標とする。なお、この授業の担当者は、精神科医として医療機関での臨床業務を30年経験している実務経験のある教員であり、より実践的な観点から講義を行う。

#### < 到達目標 >

心理学的支援法である心理療法、カウンセリングの歴史、概念、意義、適応や限界、守秘義務、種類について理解し、説明できることを目標とする。

### < 授業のキーワード >

心理療法、カウンセリング、行動論的アプローチ、力動的アプローチ(精神分析)、来談者中心療法

### < 授業の進め方 >

授業は講義形式で進める。適宜、各回の講義のポイントとなる内容の知識の確認のために小テストを行い、小テストの提出をもって出席とする。小テストの正答や学生からの質問は次回以降の授業でフィードバックを行う。

### < 履修するにあたって >

この授業は公認心理師資格に対応する科目であり、将来、心理専門職である公認心理師を目指す学生は必ず履修すること。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、関連する心理学的支援法について参考図書を読んで予習する(目安として1時間)。事後学習として、授業で解説した内容や小テストを復習して理解を深める(目安として1時間)。

### < 提出課題など >

適宜、各回の講義のポイントとなる内容の知識の確認のために小テストを行う。学生へのフィードバックとして、小テストの正答や学生からの質問は次回以降の授業で解説・回答する。

### < 成績評価方法・基準 >

定期試験を実施する。15回の小テストを2/3以上回答した学生が評価の対象とし、最終的に定期試験50%、小テスト50%として評価する。

### < テキスト >

特になし

### < 参考図書 >

長谷川千洋ほか 「エッセンシャル心理学」 ナカニシヤ出版

### < 授業計画 >

#### 第1回 心理学的支援法の概要1

心理学的支援法の成り立ちと代表的な学派、要支援者の特性や状況に応じた支援方法の選択・調整、また学派を超えて共通する治療要因について学ぶ。

#### 第2回 心理学的支援法の概要2

心理学的支援法の目的と職業倫理、良好な人間関係構築のためのコミュニケーションについて学ぶ。

#### 第3回 代表的な心理療法 精神力動理論1

精神力動理論とは何か、またその特徴について学ぶ。

#### 第4回 代表的な心理療法 精神力動理論2

精神力動理論の主要概念について学ぶ。

#### 第5回 代表的な心理療法 精神力動理論3

精神力動理論による支援の実際について学ぶ。

#### 第6回 代表的な心理療法 認知行動理論1

認知行動理論とは何か、またその特徴について学ぶ。

#### 第7回 代表的な心理療法 認知行動理論2

認知行動理論による支援の実際について学ぶ。

#### 第8回 代表的な心理療法 人間性アプローチ

人間性心理学と来談者中心療法の特徴と支援の実際について学ぶ。

第9回 代表的な心理療法 システム論アプローチ1  
システム論アプローチとは何か、またその特徴について学ぶ。

第10回 代表的な心理療法 システム論アプローチ2  
システム論アプローチによる支援の実際について学ぶ。

第11回 プレイセラピー、集団療法  
プレイセラピー、集団療法の特徴と支援の実際について学ぶ。

第12回 日本生まれの心理療法  
森田療法、内観療法、臨床動作法などの特徴と支援の実際について学ぶ。

第13回 訪問による支援や地域支援1  
訪問による支援や地域支援の概要、意義について学ぶ。

第14回 訪問による支援や地域支援2  
災害時における心理的支援について学ぶ。

第15回 訪問による支援や地域支援3  
緩和ケア、終末期ケアについて学ぶ。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学的支援法

土井 晶子

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、心理学部DP1「心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、DP5「心理学の専門知識や研究成果を第三者に適切に伝えることができる」、DP7「社会の中で自らが所属するチームの一員として多様なメンバーと良好なコミュニケーションをとり、主体的な役割を果たすことができる」に示す知識や技能の習得を目指す。

心理学部専門科目講義に属し、心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行うために必要な知識を身につけ、活用できるようになることを目標とする。

またこの科目の担当者は、心理職として15年以上、企業および学校において心理支援・心理教育・メンタルヘルス教育に携わり、また民間企業で10年近く勤務し、現場の状況をよく知る実務経験のある教員である。現場での具体的な注意事項なども交えながら実践的な学びにつなげていく。

< 到達目標 >

1. 心理学的支援のための主要理論について理解し、傾聴の基本的な方法を実践することができる(知識・態度)

2. 心理療法及びカウンセリングの適用の限界について理解できる。(知識)

3. 要支援者等のプライバシーへの配慮について理解し、説明することができる。(知識・態度)

< 授業のキーワード >

カウンセリング、傾聴、インフォームドコンセント、守秘義務

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。必要に応じてDVD等を用いて理解を深めます。傾聴などコミュニケーションの技法を身につけるためのミニワークを行います。

< 履修するにあたって >

私語等の授業を妨害する行為があった場合は、退室してもらいます。

ミニワークなどについては積極的な参加を求めます。

課題はオンライン(Microsoft Teams等)での提出となります。Teamsの使い方等の質問に教員は対応できませんので、各自でマニュアル等を参照して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、「授業計画」を参考に、テキストの該当箇所を読んでおく。授業終了後に、きちんと内容が正しく理解できているかどうかをテキスト章末の「理解度確認テスト」などにより確認し、必要に応じて基礎的な事項や概念、用語について調べ直ししておく。(目安として1時間)。

授業で使用したスライドはMicrosoft Teamsにアップロードしておくので、必要に応じて各自でダウンロードして復習に使用すること。教員は過去のプリントは持っていないので、欠席した場合もMicrosoft Teamsからダウンロードすること。

< 提出課題など >

毎回の授業後にMicrosoft Teamsから課題を提出。Teamsに正答例を示す。

定期試験を行います(持ち込み不可)。

< 成績評価方法・基準 >

課題を3分の2以上を提出した場合のみ単位の認定・評価の対象になります。私語等により退室を命じられた回は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとします。

成績評価は定期試験50%、出席および課題の提出状況30%、課題の成績20%で総合的に判断します。

< テキスト >

「心理学的支援法」末武康弘、誠信書房、¥2200+税

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、評価方法などについて説明します。

第2回 心理学的支援法とは

心理学的支援法の特徴、効果、限界について解説します。

### 第3回 心理学的支援法が対象とする問題

心理的問題の背景や成因について取り上げます。

### 第4回 心理学的支援法の発展

心理療法とカウンセリングの発展の歴史について取り上げます。

### 第5回 心理学的支援法の理論と方法

カウンセリング・心理療法の発展と主要パラダイムについて解説します。

### 第6回 心理学的支援法の主要理論(1)

ロジャーズの提唱したパーソンセンタード・セラピーについて解説します。

### 第7回 心理学的支援法の主要理論(2)

エンカウンター・グループなどパーソン・センタード・アプローチの発展について解説します。

### 第8回 心理学的支援法の主要理論(3)

傾聴における基本的な応答技法について学びます。

### 第9回 心理学的支援法の主要理論(4)

実際の面接場面の記録である「グロリアと3人のセラピスト」視聴を行います。

### 第10回 心理学的支援法の主要理論(5)

カウンセリングの効果研究から生まれたフォーカシングについて学び、フォーカシングのミニワークを体験します。

### 第11回 心理学的支援法の主要理論(6)

精神分析と精神力動的セラピーについて解説します。

### 第12回 心理学的支援法の主要理論(7)

認知行動療法について学びます。

### 第13回 心理学的支援法の主要理論(8)

家族療法、ブリーフセラピーなどその他の理論について解説します。

### 第14回 心理学的支援のプロセスと実際

心理学的支援におけるプロセス、支援において留意すべき守秘義務と記録、インフォームドコンセントなどについて解説します。

### 第15回 まとめと振り返り

これまでの授業内容を振り返ります。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学統計法

長谷 和久

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

心理統計入門 は、心理学部のディプロマポリシー (DP) の3、4、5と特に関連しています。この科目は心理学部の専門科目群の講義科目です。

心理統計の基礎知識・記述統計を中心とした内容とします。心理学の研究を理解するには必要不可欠の科目です。

心理学という学問と統計学は、切っても切れない関係があります。なぜなら、私たちは人間の行動、態度、考え方など、心理に関わるさまざまなことから、実験や調査、観察によって数値で表したものを、すなわち「データ」にもとづいて検証しているからです。数値による「データ」を読み解くためには、その処理の仕方(統計法)を身につけなければなりません。本講義では、主として、得られたデータの特徴を数値や図表を用いてまとめる方法や、複数の変数間の関係を調べる方法について解説します。数値を扱うため、講義が始まる前から拒否反応を示す方がいるかもしれません。しかし、本講義では統計法を数学的観点から理解するのではなく、自身が興味を持っている心理現象を解明するための道具として、使いこなせるようにすることを目指しています。数字や数式を全く用いずに統計法を説明することはできませんが、数字に対する拒否反応にとらわれることなく、「何のためにこの分析法が必要なのか」といった、統計法の背後にある考え方について理解を深めてもらいたいと思っています。そのため、講義のみによって授業を進めるのではなく、受講生の皆さんには自ら手を動かしたり、電卓を用いて実際に計算を行ってもらいます。

< 到達目標 >

1. 心理学で用いられる統計手法を身につけることになります。(知識)
2. 心理統計に関する基礎的な知識について理解できます。(知識)
3. 自分自身で正しい分析を行えるようになります。(技能)
4. 数式にあてはめて計算をするだけでなく、分析の適切な使い分けを理解できるようになります。(技能)

< 授業のキーワード >

基礎統計、推測統計、記述統計量

< 授業の進め方 >

授業はPPTによる講義(教科書と対応)で進めます。

< 履修するにあたって >

毎回、教科書と電卓(平方根の計算機能がついたもの)を使用します。各自持参してください。なお、電卓は試験においても用います。試験時はスマートフォンなど他の機能が付いた物は不可としますので、注意してください。

2年生前期に開講する心理統計法の履修もお勧めします。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業を受けるまでに、必ず前回授業の最後に提示された予習ポイントについて教科書を使って予習してください。(60分)

授業終了後、必ず当該授業の内容について教科書を使って復習してください。(60分)

< 提出課題など >

・毎回、講義内の理解度を確認するための小テストに取り組みます。解答を出席カードに記入し、提出してくだ

さい。

・確認テストを第6、10、15回目に、計3回実施する予定です。試験後に正解の提示と解説を行います。

<成績評価方法・基準>

3分の2以上の課題提出をもって、単位の認定・評価の対象とします。

授業への積極的参加（それぞれの授業後に実施する小テストの提出状況と、解答内容に基づいて評価）20%，全3回の確認テスト30%，定期試験50%で評価を行います。

また、以上の評価基準を基本として、授業中に募集が行われる心理学に関する実験や調査への参加を学習点として成績に加味します。

<テキスト>

山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 ¥2,800

<参考図書>

村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』 ¥2,200

<授業計画>

#### 第1回 イントロダクション

心理統計法について本格的に学び始める前に、なぜ心理学に統計が必要なのかを簡単に説明します。心理学におけるデータ収集法について、実習を交えながら解説します。

#### 第2回 記述統計：1変数の特徴の記述

人の持つ特徴や心の動きを数字によって表したものである「変数」や、その集まりである「データ」について解説します。図表を用いてデータを表す方法や、数値を用いてデータをまとめる方法について学びます。この回では、主にデータと尺度水準について学びます。

#### 第3回 記述統計：1変数の特徴の記述

人の持つ特徴や心の動きを数字によって表したものである「変数」や、その集まりである「データ」について解説します。図表を用いてデータを表す方法や、数値を用いてデータをまとめる方法について学びます。この回では、主に度数分布と代表値について学びます。

#### 第4回 記述統計：1変数の特徴の記述

人の持つ特徴や心の動きを数字によって表したものである「変数」や、その集まりである「データ」について解説します。図表を用いてデータを表す方法や、数値を用いてデータをまとめる方法について学びます。この回では、主に散布度について学びます。

#### 第5回 記述統計：1変数の特徴の記述

人の持つ特徴や心の動きを数字によって表したものである「変数」や、その集まりである「データ」について解説します。図表を用いてデータを表す方法や、数値を用いてデータをまとめる方法について学びます。この回では、主に標準化と偏差値について学びます。

#### 第6回 テスト(1)

第2回～第5回の講義内容に関する確認テスト1を行います。

す。

#### 第7回 2変数の関係の記述

複数の変数の間の関係を検討するための手法を学びます。データのちらばりのようすを示す散布図・クロス集計表、ちらばり具合を数値化する相関係数について解説します。この回では、主に散布図と共分散について学びます。

#### 第8回 2変数の関係の記述

複数の変数の間の関係を検討するための手法を学びます。データのちらばりのようすを示す散布図・クロス集計表、ちらばり具合を数値化する相関係数について解説します。この回では、主に相関係数とその性質、さらに回帰分析について学びます。

#### 第9回 2変数の関係の記述

複数の変数の間の関係を検討するための手法を学びます。データのちらばりのようすを示す散布図・クロス集計表、ちらばり具合を数値化する相関係数について解説します。この回では、主にノンパラメトリック検定の一つであるカイ2乗検定について学びます。

#### 第10回 テスト(2)

第9回までの講義内容に関する確認テスト2を行います。

#### 第11回 推測統計：標本からの母集団推測

得られたデータから、人のこころに関する一般的な法則を導き出す方法について、基礎的な考え方を学びます。この回では、主に母集団と標本について学びます。

#### 第12回 推測統計：標本からの母集団推測

得られたデータから、人のこころに関する一般的な法則を導き出す方法について、基礎的な考え方を学びます。この回では、主に不偏性と不偏分散について学びます。

#### 第13回 推測統計：標本からの母集団推測

得られたデータから、人のこころに関する一般的な法則を導き出す方法について、基礎的な考え方を学びます。この回では、主に確率分布の一つである正規分布について学びます。

#### 第14回 推測統計：標本からの母集団推測

得られたデータから、人のこころに関する一般的な法則を導き出す方法について、基礎的な考え方を学びます。この回では、主に仮説検定に必要とされる標準正規分布および区間推定について学びます。

#### 第15回 テスト(3)

第14回までの講義内容に関する確認テスト3を行います。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学特論

越川 陽介

-----  
<授業の方法>

対面授業(講義)

\*今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。

<授業の目的>

この授業は、心理学部3年次生以上を対象に開講される専門教育科目です。臨床心理学では人と人との関係の中で生じることに注目されがちです。しかし、私たちは日常の中で様々な組織に属し、その組織の影響を受けて生活をしています。このため、組織に注目して、その組織で生じていることを理解することで自己理解を深めることにもつながります。この点から本授業では、

1. 組織の発達について理解すること
2. 組織について社会科学的視点から理解すること
3. 組織について精神分析的視点から理解すること
4. 組織で生じていることを社会科学的視点からアセスメントするツールを学ぶこと
5. 組織で生じていることを自分自身の感じている感覚から理解する方法を学ぶこと

を目的としています。

なお、本授業は組織理解に関して実際にアセスメントツールなど用いた実践を行なった実務経験のある教員によって行われる。

<到達目標>

1. 組織について社会科学的視点、精神分析的視点の両軸で理解する重要性を説明できる
2. 組織のアセスメントツールであるBARTの考え方を説明でき、自身の経験をもとに具体例をもって説明できる
3. 組織で生じたことを自身の実感としてどう感じられたかをフォーカシングの考え方から説明でき、また実践で用いることができる

<授業のキーワード>

組織臨床心理学、フォーカシング、精神分析、組織の発達

<授業の進め方>

講義形式で授業を行う。授業時間内に、授業内容確認のための小レポート課題を原則として毎回行う。

回によっては個人ワークを行なう場合がある。

<履修するにあたって>

体験的に授業内容を理解するために自分自身の体験を題材にワークを行います。自分自身を振り返ることを授業内で行うこととなりますので、取り上げる題材によってはワークを通して精神的な負担感を感じる可能性もあります。履修の際はご注意ください。また、ワークでは色鉛筆やクレヨン、マーカーなどの画材を必要とします。各自準備をお願いします。

<授業時間外に必要な学修>

授業で使った配布資料や参考書を用いながら、1時間を目安に復習を心がけてください。

<提出課題など>

毎授業時にその回に関する小レポート課題の提出。

また、第15回には課題の提出があります。

<成績評価方法・基準>

小レポート課題：40%、ワークへの取り組み：30%、期末課題30%。

授業の1/3(5回)以上課題を提出しなかった場合は、単位認定を不可とします。

<テキスト>

指定のものはありません。

<参考図書>

高尾義明. はじめての経営組織論. 2019. 有斐閣ストゥディア.

アントン・オブホルツァーほか. 組織のストレスとコンサルテーション- 対人援助サービスと職場の無意識. 2014. 金剛出版.

池見陽. 心のメッセージを聴く. 1995. 講談社.

池見陽ほか. 傾聴・心理臨床学アップデートとフォーカシング. 2016. ナカニシヤ出版.

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

課題、評価の仕方などの授業の概要と、心理学特論の概要を説明します。

第2回 組織における発達

組織や集団における発達について説明します。

第3回 組織の社会科学的視点からの理解

バーナードの組織の成立条件である、目的、貢献、コミュニケーションについて解説します。

第4回 組織の社会科学的視点からの理解

組織に関する基本的な理解を深めるため、組織の構造についてメリットやデメリットなどを交えて説明をします。

第5回 組織の社会科学的視点からの理解

組織に関する基本的な理解を深めるため、組織の文化や風土について説明します。

第6回 組織の精神分析的視点からの理解

組織に生じる問題を理解するための精神分析の知識について、フロイトの構造論や無意識について説明します。

第7回 組織の精神分析的視点からの理解

組織に生じる問題を理解するための精神分析の知識について、防衛機制を中心に説明します。

第8回 組織の社会科学的側面からのアセスメント

組織のアセスメントツールであるBARTについて、特に、boundaryとauthorityについて説明していきます。

第9回 組織の社会科学的側面からのアセスメント

組織のアセスメントツールであるBARTについて、特に、rollとtaskについて説明していきます。

第10回 フォーカシングを用いた組織の理解

組織で生じていることを理解する手法としてフォーカシングの基礎を説明します。

第11回 フォーカシングを用いた組織の理解

フォーカシングの成り立ちや、フォーカシングを行うために必要な注意事項について説明します。

第12回 フォーカシングを用いた組織の理解

組織を見る上で大切な視点である「距離を取ってみる」ことに通づるクリアリング・ア・スペースについて説明します。

第13回 フォーカシングを用いた組織の理解  
今まで学んだフォーカシングの知識や体験を用いて、組織とそこに属している自分自身についての理解を深めるワークを行います。

第14回 フォーカシングを用いた組織の理解  
今まで学んだフォーカシングの知識や体験を用いて、組織とそこに属している自分自身についての理解を深めるワークを行います。

第15回 まとめ  
これまで学んできた内容を振り返る課題を行っていただきます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理学特論

定政 由里子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、心理学部のDPに示す、「1.心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、「3.心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる」ことを目的とする。

臨床心理学の理論には様々あるが、特にロジャーズの来談者中心療法、ジェンドリンのフォーカシング、パールのゲシュタルト療法、遊戯療法などについて取り上げる。心の悩みや葛藤を抱えた人に対する心理的な援助のための理論と方法だけでなく、自分自身のセルフケアのために知識やスキルをどう活かすかについて学ぶ。知的な学習のみならず、ワークや実習を通じて、体験的に自身についての理解を深める。

なお、この演習は心理専門職として15年以上の経験があり、現在も実務携わっている教員による授業科目であるため、授業の中で実際の臨床現場における事例などを取り上げることがあります。

< 到達目標 >

1. ロジャーズ、ジェンドリン、パールの理論について理解でき、基本的な用語について説明できる。
2. 基本的な「聴く」ことの知識や必要な心構えについて理解できる。
3. 自分自身の気持ちや気分、体調を大事にするセルフケアの方法を身につける。
4. 実習・ワーク体験を通じて、自己理解や他者理解を深め、自分自身について考えを深めることができる。

< 授業のキーワード >

PCA、カウンセリング、フォーカシング、ゲシュタルト療法、遊戯療法

< 授業の進め方 >

講義と体験学習、必要に応じて関連DVDを視聴しながら進めます。

内容のまとめりごとに小テストを行います。実習についてはミニレポートの提出を求めます。

< 履修するにあたって >

授業内容のまとめりごとに小テストを行ったり、課題の作成など毎回何らかの提出物を求めることとなります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の後に復習を行って下さい(約1時間)。

授業時間内に課題や小テストの提出ができなかった場合、後で時間をとって完成させてください。

理解が不十分であると感じた点は、メールやフォームズを使って質問をして下さい。次の授業の冒頭で、質問に対する回答を呈示します。

< 提出課題など >

毎回の授業時に、課題の作成か小テストを行います。

次の授業の冒頭で、小テストの答え合わせを行います。

< 成績評価方法・基準 >

毎回何らかの提出物を求め、その提出が全授業回数の3分の2以上の者だけを評価の対象にします。課題作成(30%)、小テスト(70%)、質問などの授業態度を総合的に評価する。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

「傾聴の心理学：PCAを学ぶ」坂中正義編、創元社(2017)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、評価方法等について解説します。

第2回 ロジャーズについて

来談者中心療法を提唱したカール・ロジャーズについて学びます。

第3回 PCAとは

パーソン・センタード・アプローチ(PCA)の理論的展開、自己実現傾向、必要十分条件について学びます。

第4回 PCAとは

パーソン・センタード・アプローチ(PCA)の理論的展開、自己実現傾向、必要十分条件について学びます。

第5回 パーソンセンタード・カウンセリング

ロジャーズのパーソナリティ論、援助論、プロセス論について学びます。

第6回 パーソンセンタード・カウンセリング

ロジャーズのパーソナリティ論、援助論、プロセス論について学びます。

第7回 ロジャーズとグロリア

ロジャーズの面接記録である「グロリアと3人のセラピスト」を視聴。

第8回 体験過程理論とフォーカシング

フォーカシングの成り立ち、体験過程理論、フォーカシ

ング指向心理療法について学びます。

#### 第9回 体験過程理論とフォーカシング

フォーカシングの成り立ち、体験過程理論、フォーカシング指向心理療法について学びます。

#### 第10回 エンカウンター・グループ

エンカウンターグループとは何かについて学びます。

#### 第11回 エンカウンター・グループ

エンカウンターグループとは何かについて学び、ロジャーズがファシリテーターを務めた記録映画「出会いへの道」を鑑賞します。

#### 第12回 ゲシュタルト療法

ゲシュタルト療法の過程、技法、人格論について学びます。

#### 第13回 ゲシュタルト療法

ゲシュタルト療法の過程、技法、人格論について学びます。

#### 第14回 遊戯療法

遊戯療法について学びます。

#### 第15回 箱庭療法

箱庭療法について学びます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理学特論

中村 珍晴

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、心理学部4年次生以上を対象に開講される専門教育科目です。この科目は、心理学部のDPに示す、「1.心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、「3.心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる」ことを目的とします。

現代の日本はストレス社会、高齢化社会などの呼称が示すように、様々な社会問題を抱えています。これらの諸問題に関わる社会的要請の最先端にあるのが医療現場であると考えられ、心理師の活動も非常に重要な役割を果たしています。

そして、心理師の活動には基礎心理学および臨床心理学の知識が不可欠です。本講義では、心理師が携っている様々な医療現場や障害を取り上げるとともに、その活動を支える基礎心理学の各分野との関連についても概観します。

< 到達目標 >

・心身症、精神障害、発達障害、認知機能障害など、われわれを取り巻くさまざまな障害についての基本的知識を習得すること

・中途身体障害者における障害の意味について理解する

こと

・心理師の活動と基礎心理学の各分野がいかに密接に結びついているかを理解し、医療心理実践に役立てられるようになること

< 授業のキーワード >

心身症、精神障害、発達障害、認知機能障害

< 授業の進め方 >

講義、個人の課題や小グループ課題、ディスカッションを組み合わせで行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、基礎心理学の各分野の知識について復習してから講義に臨むこと（目安として30分）

講義終了後は、配布資料の内容を熟読し、講義にて取り上げた内容について理解を深めること（目安として60分）

< 提出課題など >

各講義で課題提出を求め、回答については次週の授業で解説します。

< 成績評価方法・基準 >

成績は以下の2点の合計点から評価します。

・各回で課題（60%）

・期末レポート（40%）

また毎回の課題の2/3以上出席した履修者のみ単位の認定・評価の対象とします。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。

< テキスト >

特になし、毎回の授業で資料を配布します。

< 授業計画 >

#### 第1回 医療心理学とは

心理学的な立場から医療や精神医学の歴史を概観し、医療心理学とは何か、なぜそれが必要なのかについて理解を深める。

#### 第2回 医療現場における心理臨床

実際の医療現場における心理臨床の役割や、心理臨床に必要なとされる観点・技術について理解を深める。

#### 第3回 健康心理学とストレスマネジメント

健康とは何かについて概念的整理を行ったうえで、患者のみならず医療従事者側も含めたストレスマネジメントの重要性について理解を深める。

#### 第4回 生理心理学と健康支援

前回の講義の内容をふまえ、ストレスマネジメントの実践に関して生理心理学的見地から理解を深める。

#### 第5回 心身医学

心身症およびその治療について理解を深める。

#### 第6回 臨床心理学と精神障害

統合失調症や躁うつ病に関する症状、原因および治療法について理解を深める。

#### 第7回 感情の病態

病理レベルにある症状への介入に関する、臨床心理学的見地からの理論、モデルについて理解を深める。

#### 第8回 緩和ケア 痛みとは何か

痛みの定義、意義を再考し、緩和ケアの重要性について理解を深める。

#### 第9回 臨床心理学と中途身体障害者

中途身体障害者の障害受容について理解を深める。

#### 第10回 身体障害者の心理と支援

視覚、聴覚、肢体障害者の心理と支援について理解を深める。

#### 第11回 発達心理学と発達障害

発達障害に関する発達心理学的見地からのアプローチについて理解を深める。

#### 第12回 社会心理学と自殺対策

自殺対策に関する社会心理学的見地からのアプローチについて理解を深める。

#### 第13回 神経心理学と認知機能障害

神経心理学の基礎および、認知症について理解を深める。

#### 第14回 神経心理学検査

Wechsler Memory Scale-Revisedを用いて記憶機能を測定する。

#### 第15回 まとめ

全14回の講義のまとめと確認テストを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理学特論

松島 由美子  
-----

#### < 授業の方法 >

講義

#### < 授業の目的 >

本授業は、心理学部4年次生を対象に開講される専門教育科目です。この科目は、心理学部のDPに示す、「1. 心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を? かすことができる」、「2. 社会人として幅広い教養を身につけている」、「3. 心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる」ことを目的とします。働き方が多様化する現代では、キャリア形成の重要さは増しています。キャリアについて学ぶことは、心理職としてより適切な支援を行うことに役立ちます。また、自分自身がより良く働き・生きるために活かすこともできます。なお、この科目は企業での人事経験や地域での心理職としての経験がある担当者が、複眼的な視点から授業を行います。

#### < 到達目標 >

- ・キャリア関連の主要な理論・知見を理解する
- ・理論や知見を踏まえて、自らのキャリアを考えられる
- ・キャリア支援を行うための考え方の基盤を理解する

#### < 授業のキーワード >

キャリア形成、キャリア発達、キャリア支援

#### < 授業の進め方 >

講義とワークを組み合わせで行う

#### < 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の後に復習を行って下さい(およそ1時間)。レポート作成(およそ2時間)。

#### < 提出課題など >

毎授業時にその回に関する課題を出すほか、第8回と第15回に理解度の確認として小テストを行います。また、期末課題としてレポート課題があります。

#### < 成績評価方法・基準 >

期末課題のレポートを含めた授業中に出す課題に対する取り組み70%、理解度の確認(小テスト)30%として総合的に評価します。全回出席を基本とし、全授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とします。原則として遅刻・早退は欠席扱いとします。公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。

#### < テキスト >

毎回の授業で資料を配布します。

#### < 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価について説明する

#### 第2回 生涯発達の観点からのキャリア

ライフステージおよび発達課題について学ぶ

#### 第3回 働くことを考える

労働観や労働意識について理解する

#### 第4回 キャリア関連理論の理解(1)

キャリアに関する理論について学ぶ

#### 第5回 キャリア関連理論の理解(2)

キャリアに関する理論について学ぶ

#### 第6回 社会の理解(1)

労働市場について理解する

#### 第7回 社会の理解(2)

金銭に関する認識を深める

#### 第8回 中間まとめ

第2回から第7回までの授業内容の理解度を確認する

#### 第9回 労働関係法令・社会保障制度の基本

労働政策および労働関係法規などの知識を学ぶ

#### 第10回 組織の理解(1)

企業の採用・人事労務管理について理解する

#### 第11回 組織の理解(2)

企業におけるキャリア形成支援について理解する

#### 第12回 キャリア・コンサルティング(1)

相談過程において必要な技法を学ぶ

#### 第13回 キャリア・コンサルティング(2)

相談過程において必要な技法を学ぶ

#### 第14回 キャリア形成

大学卒業後を見据えた計画づくり

#### 第15回 まとめ

第9回から第14回までの授業内容の理解度を確認する

2022年度 前期

2.0単位

心理検査法 (心理的アセスメント)

小久保 香江

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は心理学部の専門教育科目群の中の講義科目であり、心理学部のディプロマポリシー (DP)の1、2および3の獲得を目指すものである。

本講義では医療や教育など、さまざまな分野で診断や方針を決定するときに活用されている心理検査についての知識と技術を身につけ、人を理解するための広い視野を獲得することを目指す。検査を実施するにはそれぞれの検査の構造や測定内容、検査を実施する上で見落とされやすい点や得られた情報の取り扱いなどを十分に理解することが必要である。自らを対象に検査を実施することを通して、人を理解するための多面的な視点を学ぶ。この科目の担当者は、公認心理師の資格を有し、15年以上の臨床経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。時には、医療における心理学の役割についても言及しながら、深い学びへと繋げていきます。

< 到達目標 >

1. 主要な心理検査の基本知識を理解し、どのように活用するかを説明できる。
2. 簡単な心理検査を実施し、結果を解釈することができる。
3. 自己や他者を理解するための多面的な視点を獲得し、他者を尊重する姿勢を身につける。

< 授業のキーワード >

人格検査、発達検査、知能検査、神経心理学的検査

< 授業の進め方 >

講義形式で行う。

< 履修するにあたって >

授業では自身を被験者にして心理検査を行う。被験者になることの意味を知り、その経験を他者理解に役立てるという気持ちを持って授業に臨んでほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に授業をスムーズに進めるための課題を出すので準備してから受講すること。また、授業後は授業の内容を復習し、次の授業に生かせるよう知識を整理しておく。

(いずれも目安として1時間)

< 提出課題など >

授業では、課題の提出を求める。課題の回答は授業にてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に行う提出課題 (50%) と定期試験 (50%) で評

価する。全授業回数の2/3以上の課題提出をもって評価対象とする。公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとし、欠席期間中の課題の提出を認めず。授業で提出課題の正答を説明します。

< テキスト >

レジュメを配信します。各自で印刷して持参ください。

< 参考図書 >

公認心理師の基礎と実践14 心理的アセスメント 津川律子・遠藤裕乃 遠見書房 2019年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

心理査定における心理検査の位置付けと意味を学ぶ

第2回 心理検査の実施手順と倫理的配慮

面接による情報の把握や倫理的配慮など、心理検査を実施するための準備と手順について学ぶ

第3回 質問紙法1

精神健康調査票について学ぶ。

第4回 質問紙法2

精神障害の診断基準と不安や気分に関する評価尺度について学ぶ

第5回 質問紙法3

Y-G性格検査について学ぶ。

第6回 投影法1

代表的な投影法の検査を紹介する。

第7回 投映法2

描画テストおよびロールシャッハテストについて学ぶ。

第8回 作業法

作業法の検査について学ぶ。内田クレペリン検査を実施する。

第9回 前半の振り返り

質問紙法・投影法・作業法についてまとめる

第10回 神経心理学的検査1

認知機能を調べるスクリーニング検査について紹介する。

第11回 神経心理学検査2

スクリーニング検査の実施方法について学ぶ。

第12回 発達検査

精神発達のスクリーニングテストについて学ぶ

第13回 知能検査

知能検査のうちWAIS-について学ぶ

第14回 テストバッテリー

テストバッテリーと心理検査結果の伝え方について学ぶ

第15回 まとめ

全講義の総括と理解度の確認

2022年度 前期

2.0単位

心理検査法 (心理的アセスメント)

難波 愛

< 授業の方法 >

## 講義

### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部心理学科の3年次生を対象に開講される専門教育科目である。本講義は、公認心理師になう上で、必要不可欠な心理的アセスメントに関する基本的知識を習得することを目的とする。本講義の目的は、心理学部のDPに示す、心理学の専門知識を習得する（知識）こと、社会の中で身の回りにある事象を観察し問題の有無を適切に判断すること、心理学の専門知識を第三者に適切に伝えること、自らの意見・考えを的確に書くことができることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、教育・福祉領域において25年の経験あり、現在も教育・福祉領域において実務を行う教員である。

### < 到達目標 >

1. 心理的アセスメントの基本的な考え方や基本知識を理解し、説明することができる。
2. 主訴や現病歴、生育歴等の基本情報を適切に理解し、生物－心理－社会的視点から要支援者の状況を見立て、必要な心理的介入を定めることができる。
3. 自己や他者を理解するための多面的な視点を獲得し、他者を尊重する姿勢を身につける。

### < 授業のキーワード >

アセスメント面接、生物－心理－社会モデル、見立て、方針

### < 授業の進め方 >

担当教員より資料を配付（オンラインで共有を含む）します。

### < 履修するにあたって >

心理検査法 の単位を修得していることが望ましい。

### < 授業時間外に必要な学修 >

本講義は現場で活躍できる心理師に必要な心理的アセスメントスキルの向上を図ることを目的としている。そのため、授業時間外の学修として、本講義の復習（週2時間）および関係資料や図書の読み込みなど自主的な学習が求められる。

### < 提出課題など >

講義内で指示をする。

### < 成績評価方法・基準 >

成績評価方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・レポート等(30%)をもって、評価する。

### < テキスト >

使用しない。

### < 参考図書 >

『心理的アセスメント』野島一彦・繁樹算男監修 津川律子・遠藤裕乃編 公認心理師の基礎と実践14 遠見書房

『100のワークで学ぶカウンセリングの見立てと方針』

竹内健児著 創元社

『心理的アセスメント』野島一彦・岡村達也監修 橋本忠行・酒井佳永編著 木立の文庫

### < 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

本授業のすすめ方、履修に当たっての注意点を伝えます。授業の流れを示し、全体像をつかんでいただきます。

#### 第2回 心理的アセスメントとは

心理アセスメントの定義、臨床面接とは、行動観察、心理アセスメントの倫理について学びます。

#### 第3回 心理的アセスメントをめぐる諸概念

生物心理社会モデル、操作的診断基準、国際生活機能分類、意識障害について学びます。

#### 第4回 行動観察

行動観察の基本について学びます。

#### 第5回 アセスメント面接1

アセスメント面接とは、客観的事実と主観的事実を明確化する、問題歴・生育歴・家族歴の聴取

#### 第6回 アセスメント面接2

関与しながらの観察、不安の種類と対処法を見立てる、心理面接の侵襲性

#### 第7回 アセスメントの実際：情報を集める

必要な情報とは？言語情報を収集する、観察情報を収集する

第8回 アセスメントの実際：曖昧な情報を明確化する情報の不明確さを自覚する、なぜ不明確なのか、どのように不明確情報を尋ねるか

第9回 アセスメントの実際：得られた情報を整理する主訴の文節化、家族関係の情報を整理する、ジェノグラムの書き方、生育歴、問題歴、相談歴情報を整理する

第10回 アセスメントの実際：状態増を査定する状態像の査定、定型発達との比較、診断的査定、病態水準の査定、リスクの査定

第11回 アセスメントの実際：人物像を査定するパーソナリティの査定、対人関係の査定、心理社会的特徴の査定

第12回 アセスメントの実際：心の動きを査定する観察情報から心の動きを読む、パーソナリティ特徴を文節化する、カウンセラーとの関係に表れた心を読む

第13回 アセスメントの実際：見立てをまとめる心的要素を概念図に表す、クライアントの心の動きをストーリーとして捉える

#### 第14回 事例検討

1つの事例を基に得られた情報から見立てを方針を立てる作業をします

#### 第15回 まとめ

全体を振り返り、重要用語などをおさらいする

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理専門職関係行政論（関係行政論）

森川 智晶  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、心理学部の専門教育科目として開講します。特に心理専門職として様々な臨床場面で実践活動を行う際に必要とされる関連法規群について学びます。本講義は、心理学部のDP4に示されている、「社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」ことを目的とします。本講義においてこの目的を達成するためには、関連法規の修得が必要となります。また心理専門職として、依頼者や連携する他の専門職との関係で契約上の法的責任や不法行為としての損害賠償義務を負う可能性も否定出来ません。これらを事前に防ぐためにも関係法令の修得が必要となります。本講義では、心理専門職として活動するために必要な、司法・法務・警察分野に關係する法律、制度、および産業・労働分野に關係する法律、制度、そして公認心理師法について学修します。具体的には、これらの分野で活動する際の基本的な法令を取り上げます。単なる法律の文言の理解だけではなく、個別の法の目的・理念を念頭に置きながら、著名な事件・判例などを素材にして問題の所在とその法的側面を重点的に学びます。

< 到達目標 >

心理専門職の活動の基盤となる関係法令を、六法等を参照しながら、その理念と目的を理解し、関連法規と具体的事案との関連を把握することができる。

< 授業の進め方 >

関係法規の実践的な理解することができるよう、できるだけ具体例に則して授業を進めていきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習として、事前に告知する次回授業内容に該当する教科書の範囲を概観し、関連する法律を確認しておく（30分）。

復習として、教科書と配布する資料を基に授業内容をノートにまとめる。そして授業で扱った諸問題・法律の諸規定と身の回りの出来事との関連をより理解するため、自ら文献や資料を読むことによって調査を行う（60分）。

< 成績評価方法・基準 >

数回の小テスト（50%）および定期テスト（50%）をもって評価する。小テストを実施した翌週の授業において、テスト問題の解説・講評を行う。

< テキスト >

元永拓郎編 『関係行政論（公認心理士の基礎と実践23）』 第2版 遠見書房 2020年 2800円（税抜）。でき

れば小型の六法（『ポケット六法』等）を持参すること。

< 参考図書 >

講義において、その都度紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本講義での心理臨床に關係する法律、制度と公認心理師法との関連について理解し、次回以降の講義の進め方や評価方法について把握する。

第2回 刑法（1）

刑法の目的、犯罪成立要件（構成要件該当性、違法性、有責性）について理解する。

第3回 刑法（2）

刑法第39条（心神喪失及び心神耗弱）の意義、およびストーカー規制法の概要を理解する。

第4回 刑事手続の概要

捜査から判決に至るまでの刑事手続の一連の流れを理解する。加えて、通常の刑事裁判と裁判員裁判の違いを理解する。

第5回 犯罪者の処遇（1）

刑事収容施設法の制定経緯、および刑事施設での犯罪者の処遇（施設内処遇）について理解する。

第6回 犯罪者の処遇（2）

社会内処遇（特に保護観察）について理解し、再犯防止法および累犯障害者の問題について検討する。

第7回 少年法（1）

非行少年を対象とする少年保護手続の端緒から少年審判までの流れ、およびそこでの家庭裁判所、家庭裁判所調査官および少年鑑別所の役割について理解する。

第8回 少年法（2）

少年保護手続における保護処分（保護観察や少年院送致等）、および犯罪少年の刑事処分の特殊性について理解する。

第9回 少年法（3）

少年法の理念およびその法改正の歴史を理解し、更に少年犯罪の推移を把握する。なお法改正に関連する著名な少年犯罪事件をあわせて取り上げる。

第10回 医療観察法

心神喪失者等医療観察法の役割、および触法精神障害者の処遇について検討する。

第11回 犯罪被害者の保護の現状

犯罪被害者等基本法の運用と犯罪被害者やその家族の置かれた実態について理解する。

第12回 労働法

労働三権、労働基準法および労働安全衛生法等の内容を理解する。特にストレスチェック制度の内容を理解する。

第13回 男女雇用機会均等法

本法に規定されたセクハラ防止について、リーディングケースの判例をもとに検討する。

第14回 障害者雇用促進法

障害者雇用の実態と、国、自治体、民間企業の法定雇用

率等について理解する。

## 第15回 労働者派遣法

労働者派遣法の成立した背景と、いわゆる偽装請負との相違を理解し、問題点と解決策を考える。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

心理専門職関係行政論 (関係行政論)

増田 尚大  
-----

### < 授業の方法 >

対面授業

座学及びグループワーク

レジュメ等事前に配布する場合はdotCampusから配信します。

### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部の専門教育科目として開講します。特に心理専門職として様々な臨床場面で実践活動を行う際に必要とされる関連法規群について学修します。心理学を実際の場面で活用するためには、心理学部のDP3に示す、社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題解決出来る能力を身につける必要があります。この目的のためには当該事象に取り組むにあたり、その前提として関連する法律知識の修得が問題解決への基盤となります。我が国が法治国家である以上、実践活動の背景には法的根拠が存在します。そのことをしっかりと認識することで、確信をもって説得力のある活動が出来るようになります。心理専門職関係行政論 では、福祉分野と教育分野での心理専門職としての職務遂行に関連する法律（公認心理師法など）や制度を学修します。基本的人権の尊重という憲法価値を念頭に置きながら、その具体的実現を目指すという統一の見地から出発し、個々の関係法令をできるだけ体系的にとらえていきます。単なる文理解釈ではなく、個々の法令の理念と目的を修得し、実際の支援に取り組む際の行動指針となるよう学修します。また本講義で取り上げるいわゆる社会権の実現には、社会的弱者救済のために国や自治体、NPOなどが、連携して積極的に介入をしていかなければなりません。そのためにはDP5に示す、社会の中で自らが所属するチームの一員として、多様なメンバーと良好なコミュニケーションをとり、主体的な役割を果たせる態度を身につけることが大切です。この目的のために、現実社会での生の声や、生きた資料を紹介しながら講義を進めていきます。

### < 到達目標 >

活動の基盤となる関係法令を、六法等を参照しながらその理念と目的を理解できる。また、豊かな人権感覚を養い、実践活動の指針とすることができる。

### < 授業の進め方 >

新聞、テレビ、ネットなどの情報媒体で報道された事例を中心に、できるだけ具体例に即して授業を進めていき

ます。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞、ネットなどを通じて、本講義に関連した話題に関心を持ち、当該事例について六法を参照しながら関連条文を検索してみる。学修は1日30分から1時間を目安とし、習慣づけを目指す。

< 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の出席をもって評価対象とする。小レポート・小テスト(50%)、定期テスト(50%)によって評価する。

< テキスト >

元永拓郎編 「関係行政論」 遠見書房 2018年 2600円。判例などの資料は随時配布する。できれば法令集(小型の六法)を持参すること。

< 授業計画 >

第1回 福祉、教育分野での心理専門職の業務と公認心理師法の関係

心理臨床に関連する法律・制度の全体像について理解し、これからの講義の進め方や評価方法について把握しておく。

第2回 自由権と社会権について

憲法25条、26条の生存権、教育を受ける権利について、いわゆる社会権の歴史的展開と、これからの展望について理解する。

第3回 憲法25条(生存権)について

生存権の具体化としての生活保護法、生活困窮者自立支援法などの社会立法の概要を理解する。

第4回 児童福祉法について

児童福祉法の歴史的由来と、本法に規定されている諸機関、諸施設の運用実態について理解する。

第5回 児童虐待防止法について

児童虐待防止法の制定と現況について理解し、具体的防止策について考察する。面前DVにも注意を向ける。

第6回 DV防止法と子どもの保護について

DV防止法の概要を理解し、配偶者だけでなく子供に対するトラウマの重大性にも関心を向ける。配偶者暴力相談センターや、児童相談所、警察の役割を理解する。

第7回 障害者福祉について

障害者に関する条約や、障害者総合支援法について、概要を理解し、措置から契約への大きな流れを把握する。また諸施設の実際の運営実態にも関心を向ける。

第8回 発達障害の諸問題について

発達障害者支援法の概要を理解し、諸機関の役割と教育、就労に関する取組について考える。

第9回 高齢者福祉について

介護保険法について理解し、成年後見制度との関係を考察する。高齢者虐待防止法の概要を知る。

第10回 教育を受ける権利(憲法26条)について

教育憲法とも呼ばれる教育基本法と、学校教育法、学校保健安全法について理解する。

## 第11回 いじめについて

いじめ防止対策推進法の目的と具体的防止対策について考察し、リーディングケースの判例などをもとにこれからの解決策を検討する。

## 第12回 不登校について

不登校対策としての教育機会確保法の目的と具体策を理解し、不登校の持つ意味について考える。

## 第13回 体罰、学校事故について

リーディングケースをもとに、民事、刑事、行政責任について理解する。

## 第14回 特別支援教育について

障害児教育と学校教育法施行令（告示）について理解する。サラマンカ宣言、子どもの権利条約、教育基本法の規定にも注意しながら全体像を把握する。入級措置に関する判例の変遷にも関心を向ける。

## 第15回 まとめと補足

これまでの講義内容をふりかえり、重要事項を再確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理専門職関係行政論（関係行政論）

増田 尚大  
-----

### < 授業の方法 >

対面授業

座学及びグループワーク

レジュメ等事前配布する場合は、dotCampusから配信します。

### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部の専門教育科目として開講します。特に心理専門職として様々な臨床場面で実践活動を行う際に必要とされる関連法令について学修します。心理学を実際場面で活用するためには、心理学部のDP3に示す、社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題解決できる能力を身につける必要があります。この目的を果たす前提として、諸事象に関係する法律知識の獲得が欠かせません。心理専門職関係行政論では、医療分野および保健分野における心理専門職の職務遂行に必要な法律（公認心理師法など）や制度を学修します。医療分野では、チーム医療の一員として、精神科や神経科に止まらない幅広い診療科において心理的支援などの業務を遂行するのに必要とされる法律、制度を学修します。保健分野においては、精神保健など幅広い保健分野での業務の遂行や心理的支援に関係する法律、制度について学修します。DP5に示す、社会の中で自らが所属するチームの一員として、多様なメンバーと良好なコミュニケーションをとり、主体的な役割を果たせる態度を身につけるため、現実社会での切実な声や、生きた資料を用いながら、専門職としての立ち位置を獲得できるよう興味深く講義を進

めていきます。

### < 到達目標 >

活動の基盤となる関係法令を六法を参照しながら、その目的、理念を確認できる。また、豊かな人権感覚を養い、実践活動の基本とすることができる。

### < 授業のキーワード >

個人の尊厳、ソーシャルインクルージョン、生活保障

### < 授業の進め方 >

できるだけ具体的場面を想定して、実践活動に関連する法令・制度を結び付けるために判例や新聞記事などを利用して考察する。

### < 授業時間外に必要な学修 >

少子化、高齢化、経済の停滞という現代社会の動向に関心を持つこと。新聞の熟読により効率的に必要な力が得られるので、毎日30分から1時間読むことが望まれる。

### < 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の出席をもって評価対象とする。小レポート・小テスト（50%）、定期テスト（50%）によって評価する。

### < テキスト >

特に指定しない。講義資料は随時配布する。

### < 授業計画 >

第1回 保健医療分野における心理臨床と公認心理師法について

保健医療に関連する法律・制度の全体像を理解し、心理専門職の役割を考える。また本講義の評価方法について把握する。

第2回 現代の医療制度に関する法律について

医療機関における心理専門職について、特に主治医の「指導」と「指示」の違いを理解する。各診療科における心理専門職の立ち位置について把握する。

第3回 精神保健福祉について

医療機関における心理専門職の主たる活動の場である精神科医療について、精神保健福祉のこれまでの歴史の変遷について理解する。

第4回 精神保健福祉法について

精神保健福祉法の目的と概要を理解する。特に入院形態と人権保障の関心に注意する。

第5回 精神科医療の問題点について

著名な歴史的事件や、諸外国との比較をしながら、問題点を探る。イタリアのバザーリア法についても理解を深める。

第6回 自殺対策基本法について

自殺対策基本法の目的と概要を理解し、グリーフケア（自殺遺族支援）についても考える。

第7回 医療保険制度について

健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法等について理解する。

第8回 介護保険制度について

介護保険の由来と制度の内容、また成年後見制度との関

係を理解する。障害者総合支援法との関連にも関心を持つ。

#### 第9回 民法(1)

契約と不法行為について概要を知り、損害賠償請求における共通点と違いを理解する。また医療事故防止について考える。

#### 第10回 民法(2)

医療過誤における債務不履行(契約)責任と説明義務について理解する。

#### 第11回 民法(3)

医療過誤における不法行為責任と注意義務(過失)について理解する。

#### 第12回 地域生活と精神保健について

地域保健法、健康増進法を中心に関係法令と制度を理解する。

#### 第13回 家庭生活と精神保健について

子育て不安、ひきこもり、DVや児童虐待に関する諸法令と実践活動の関連について学修する。

#### 第14回 勤労生活と精神保健について

ストレスチェック、職場うつ、過労死などに関連する諸法令と実践活動の関連について学修する。

#### 第15回 まとめと補足

これまでの講義内容をふり返し、重要事項を再確認する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理調査概論

河瀬 諭  
-----

#### < 授業の方法 >

##### 講義

新型コロナウイルス感染症の影響により、この授業は後期を通して、オンデマンド授業を実施します。

講義動画および課題については、

授業の1回目の9月24日から3回目の10月8日の情報は「遠隔授業情報」欄にある「授業情報フォルダ」を確認してください。

授業4回目の10月15日より、Teamsにて授業動画および課題を提供します。詳細は「授業情報フォルダ」を確認してください。

#### < 授業の目的 >

心理調査概論は、心理学部のディプロマポリシー(DP)の1, 3, 4に特に関連しています。この科目は心理学部の基礎科目群の中の講義科目です。

本講義科目は心理学の方法論を理解する科目として位置づけられています。心理学部に在籍する学生は、すでに、あるいはこれから、心理学実験法や心理学統計法、心理学実験実習など基礎科目を学んだ、あるいはこれから学ぶでしょう。人間や動物を対象とする心理学の実験及び調査は、教示の仕方一つで、また、接し方一つで結果が

異なってきます。心理学は、また、個人差の大きい学問でもあります。心理学の課程では、こうした対象とする現象の特殊性や問題点、また個人差が結果に与える影響を身をもって体験することの重要性から、伝統的に実習を大事にしてきました。そこで、本講義では、心理学の技法、とりわけ、調査、実験、観察、面接、検査などに焦点を当て、心理調査の基本的な考え方、そして実践と倫理などの観点を加え、順番に説明します。

本講義の目的は、受講生が調査ないし実験に対して、自分の力で、問題点を探り、目的を設定し、調査あるいは実験をする方法を計画し、実施し、得られた結果を解析し、考察することのできる能力を身につけることです。また、その延長線上に、公益社団法人日本心理学会が認定する「認定心理士(心理調査)」という資格を取得できるように心づもりを持って挑んでほしいです。

#### < 到達目標 >

1. 心理学の研究技法に関する基本的な理論と具体的な実践方法を習得することができます。(知識)
2. 技法を知ることにより、自らの研究について、計画することができます。(技能)
3. これまでの先行研究に対して、方法論的な観点から、その善し悪しを考えることができます。(思考力・判断力)
4. 心理学科の卒業研究に向けて、基礎知識の蓄積につながるすることができます。(知識)

#### < 授業のキーワード >

調査、実験、観察、面接、検査

#### < 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、講義中、受講生の積極的な発言を求め、双方向型の授業を重視します。

授業の最後に出席カードに授業内容に関する自身の考え・感想、そして授業への要望を記入し、その次の時間の最初に共有します。

#### < 履修するにあたって >

授業中に、各テーマごとに参考文献を紹介し、興味をもった図書を読み、内容理解を深めてください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

この科目専用のノートを用意し、授業の後は、授業中に提示された内容を整理してください(30分程度)。

また、授業中に聞いた心理調査の方法論のうち、最も関心のあるものを一つピックアップし、それに照らし合わせて、研究としての具体例を考えて、実験や調査の可能性を視野に入れて、計画の一つを考えてください。(60分)

以上の作業を通して、習った心理調査の方法論に対する理解を深めてください。

#### < 提出課題など >

オンデマンド授業なので、毎回の授業後、課題を設定しています。提出が必須となります。

#### < 成績評価方法・基準 >

毎回の課題の2/3以上の提出をもって単位の評定・評価の対象とします。

点数は、それぞれの回の最後に出された課題で得られた点数の合計点を100点満点換算して、最終成績とします。

<テキスト>

心理調査の基礎 心理学方法論を社会で活用するために

有斐閣 ISBN 978-4-641-17428-3

定価 本体1,900円 + 税

<参考図書>

授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

遠隔授業としての本授業の進行の仕方、そして、「心理調査とは何か」について解説します。

第2回 心理調査の基本的考え方と歴史(1)

研究と調査、心理と社会、そして量的と質的について解説します。

第3回 心理調査の基本的考え方と歴史(2)

心理学の展開、心理学の実践、認定心理士(心理調査)について解説します。

第4回 心理統計の基礎

心理統計法、推定、記述統計、有意水準、仮説検定について解説します。

第5回 調査

調査、調査計画、対象者、信頼性と妥当性、ネット調査について解説します。

第6回 実験

実験、実験計画、実験実施について解説します。

第7回 観察

観察、観察記録の方法と分析、参加観察法について解説します。

第8回 面接(1)

調査面接の特徴について解説します。

第9回 面接(2)

面接の準備・実施・データ分析について解説します。

第10回 尺度構成(1)

心理尺度構成、尺度の性質について解説します。

第11回 尺度構成(2)

感覚・知覚の測定と尺度構成、リッカート尺度、セマンティック・ディファレンシャル法について解説します。

第12回 検査(1)

心理検査と調査・査定との関係、心理検査の種類について解説します。

第13回 検査(2)

心理検査の具体例、心理検査の科学性について解説します。

第14回 実践と倫理

心理調査の実践、インフォームド・コンセント、個人情報と調査データの管理、結果報告の倫理について解説し

ます。

第15回 ふりかえり

授業全体を振り返ります。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

心理統計法(心理学統計法)

長谷 和久  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は心理学部 心理学科専門科目群の講義科目です。心理学部DP3、4、5を身につけるために、統計法、研究法など必要な技能を習得することを目的としています。

心理学の研究の実施や理解には統計学が必要です。なぜなら、心理学は人間の行動、態度、考え方など、「こころ」に関わるさまざまなことから、実験や調査、観察によって数値で表したものの、すなわち「データ」にもとづいて検証しているからです。本講義では、講義だけでなく、実際に電卓を用いて統計の「データ」を読み解いていただきます。

<到達目標>

- ・心理学で用いられる統計手法を修得する。(知識)
- ・推測統計に関する基礎的な知識を修得する。(知識)
- ・電卓を使って自分自身で正しく分析が行えるようになる。(技能)
- ・適切な分析法の見極めを行えるようになる。(技能)
- ・論文等で使用される検定結果を読みとれるようになる。(技能)

<授業のキーワード>

推測統計、統計的仮説検定、多変量解析、カイ2乗検定、t検定、相関分析、分散分析

<授業の進め方>

講義形式で進めながら、統計に関する計算を実際に行ってもらいます。授業の最後には課題を出します。また、コメントカードに質問等を記入してもらい、その次の講義の初めに共有します。

<履修するにあたって>

毎回、教科書と電卓(平方根を出す機能がついたもの)を使用します。各自持参してください。電卓は、試験でも必要です。携帯電話等の他機能がついているものは試験には持ち込めません。なお、本講義の受講にあたり「心理統計基礎」で学習した内容を理解していることが望まれます。「心理統計基礎」を受講していない場合は、その内容を自習しておくことが求められます。

<授業時間外に必要な学修>

指定するテキストを事前に読んでおくこと。(目安とし

て毎週30分)

授業終了後、習った内容がきちんと理解できているかどうかを確認し、必要に応じて復習すること。(目安として毎週60分)

<提出課題など>

毎回、講義内の理解度を確認するための小レポート課題に取り組みます。課題についての振り返りは、授業時間内に行います。

小テストを2回実施する予定です。テストの振り返りとフィードバックはテスト実施の次の授業時間内に行います。また、学期末に定期試験を行います。

<成績評価方法・基準>

3分の2以上の出席をもって単位の認定・評価の対象とします。

中間テスト(2回)20%、小テスト30%、定期試験50%の割合で成績評価を行います。

また、以上の評価基準を基本として、授業中に募集が行われる心理学に関する実験や調査への参加を学修として成績に加味します。

<テキスト>

山田剛史・村井潤一郎 『よくわかる心理統計』 ミネルヴァ書房 ¥ 2,800

<参考図書>

村井潤一郎・柏木恵子 『ウォームアップ心理統計』 ¥2,200

<授業計画>

第1回 推測統計とは

記述統計の振り返りと推測統計の考え方について振り返ります。

第2回 統計的仮説検定

統計的仮説検定の考え方と手順について学びます。

第3回 1つの平均値の検定

1つの平均値の検定に関する基本的な考え方について学びます。

第4回 相関係数の検定

相関係数とは、2つの変数の関係を表す指標です。ここでは相関係数が統計的に意味のあるものかどうかを検定する方法について学びます。相関係数については心理統計基礎でも学びましたが、その理解をさらに発展させていきます。

第5回 カイ2乗検定(1)

名義尺度データをクロス集計表にまとめ、その表の数値に偏りがあるかどうかを調べるカイ2乗検定について学びます。

第6回 カイ2乗検定(2)

名義尺度データをクロス集計表にまとめ、その表の数値に偏りがあるかどうかを調べるカイ2乗検定について学びます。

第7回 小テスト(1)

第1回～第6回までの理解度をはかる小テストを実施し

ます。

第8回 t検定

2条件の平均を比較する場合におこなうt検定について学びます。

第9回 分散分析(1)

1要因参加者間計画の分散分析を通して、3条件以上の平均値の比較について学びます。

第10回 分散分析(2)

1要因参加者間計画の分散分析における主効果と多重比較について理解します。

第11回 分散分析(3)

1要因参加者内計画の分散分析を通して、3条件以上の平均値の比較について学びます。

第12回 分散分析(4)

2要因被験者間計画・被験者内計画の分散分析について学びます。

第13回 分散分析(5)

2要因混合計画の分散分析について学びます。

第14回 心理統計における注意点

データを分析する際の注意点について理解し、心理統計の適切な使用方法・解釈について学びます。

第15回 小テスト(2)

第7回から第14回を範囲とする小テストを実施します。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

精神疾患とその治療

三和 千徳

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、心理学部3年次生以上の学生を対象に開講される公認心理師の実践的心理学科目であり、精神疾患とその治療について学ぶ。また、心理学部のDP1、3、4を獲得することを目的とする。この授業では、精神疾患の概念とその治療について総論的に学ぶ。症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質による精神障害、統合失調症、うつ病、双極性障害、摂食障害等の代表的な精神疾患につちえ説明し、それらの成因、症状、診断法、経過、本人や家族への支援について説明する。また精神科薬物療法について解説し、向精神薬をはじめとする薬剤の心身の変化についても学ぶ。さらに医療機関へのコンサルテーションについても学ぶ。このような精神疾患の成因、症状、診断法、経過、治療について理解し、説明できることを目標とする。なお、この授業の担当者は、精神科医として医療機関での臨床業務を30年経験している実務経験のある教員であり、より実践的な観点から講義を行う。

<到達目標>

精神疾患の成因、症状、診断法、経過、治療について理解し、説明できることを目標とする。

<授業のキーワード>

症状性及び器質性精神障害、統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、強迫症、心的外傷後ストレス障害、摂食障害、パーソナリティ障害、神経発達症

<授業の進め方>

授業は講義形式で進める。適宜、各回の講義のポイントとなる内容の知識の確認のために小テストを行い、小テストの提出をもって出席とする。小テストの正答や学生からの質問は次回以降の授業でフィードバックを行う。

<履修するにあたって>

この授業は公認心理師資格に対応する科目であり、将来、心理専門職である公認心理師を目指す学生は必ず履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、関連する精神疾患についてテキストを読んで予習する(目安として1時間)。事後学習として、授業で解説した内容や小テストを復習して理解を深める(目安として1時間)。

<提出課題など>

適宜、講義のポイントとなる内容の知識の確認のために小テストを行う。学生へのフィードバックとして、小テストの正答や学生からの質問は次回以降の授業で解説・回答する。

<成績評価方法・基準>

定期試験を実施する。15回の小テストを2/3以上回答した学生が評価の対象とし、最終的に定期試験50%、小テスト50%として評価する。

<テキスト>

長谷川千洋ほか 「エッセンシャル心理学」 ナカニシヤ出版

<参考図書>

必要に応じて授業中に提示する。

<授業計画>

第1回 精神病理学の概要

精神病理学の成り立ちや概念について学ぶ。

第2回 精神疾患の診断分類

病因論的診断、記述的診断について学び、DSM-5とICD-11について学ぶ。

第3回 症状性を含む器質性精神疾患

症状性を含む器質性精神障害、特に認知症について学ぶ。

第4回 精神作用物質による精神疾患

アルコールや依存性薬物による精神疾患について学ぶ。

第5回 統合失調症

統合失調症スペクトラム障害、特に統合失調症について学ぶ。

第6回 うつ病、双極性障害

うつ病と双極性障害について学ぶ。

第7回 不安症、強迫症

不安症、強迫症について学ぶ。

第8回 心的外傷後ストレス障害

ストレス因関連障害、特に心的外傷後ストレス障害について学ぶ。

第9回 摂食障害

摂食障害、特に神経性やせ症と神経性過食症について学ぶ。

第10回 パーソナリティ障害

パーソナリティ障害、特に境界性パーソナリティ障害について学ぶ。

第11回 発達障害

神経発達症、特に自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症について学ぶ。

第12回 ライフサイクルからみた心理的問題

児童・青年期、出産などに係する精神疾患について学ぶ。

第13回 コンサルテーション・リエゾン精神医学

コンサルテーション・リエゾン精神医学、特に身体疾患に関連する精神疾患について学ぶ。

第14回 精神疾患の治療

向精神薬による薬物療法について学び、心理療法と薬物療法の関係について学ぶ。

第15回 授業の総括とふりかえり

重要な事項を総復習し、必要な知識を確認する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

精神保健学

田中 秀男

-----  
<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

本科目は、人間心理学科DPに示す、3.心理現象について学修した知識を自らの経験と関係づけて解釈することができる、4.社会の中で身のまわりにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断、解決できる、ことを目的とします。

精神保健学とは精神的な健康に関する公衆衛生です。狭義には精神疾患の予防と治療、リハビリテーション、広義には全般的な精神的健康の保持と増進を目的とします。

講義では、人間の発達過程を軸にして、人が遭遇するライフイベントとその精神保健上の問題や課題、また精神の障害について学びます。

<到達目標>

- ・精神保健学の基本的な概念を理解できる
- ・人間の精神発達の過程が理解できる
- ・現代社会が直面している精神的な諸問題について説明することができる

<授業のキーワード>

## 精神保健，発達過程における問題・課題

### < 授業の進め方 >

講義形式で行います。 授業最後に小レポートを課します。

### < 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

### < 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。課題に取り組む際にはさらに授業のポイントを整理し，理解を深めておくこと（目安として30分）。

### < 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小レポートの提出を求める。なお小テストの正答およびレポートのフィードバックについては次回の講義冒頭で行うとともに補足の解説を行う。

### < 成績評価方法・基準 >

授業課題の提出40%、最終授業日の確認テスト60%。

全授業回数の3分の2の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。

出席は課題の提出をもって出席とみなす。

### < テキスト >

特に指定しません。

### < 参考図書 >

特に指定しません。

### < 授業計画 >

#### 第1回 オリエンテーション

授業の進め方について説明します。

#### 第2回 精神保健とは

精神保健学の基本的な概念，歴史を学びます。

#### 第3回 周産期および乳幼児期と精神保健

周産期の精神保健上の問題と乳幼児期の発達と発達課題について学びます。

#### 第4回 乳幼児期と精神保健

乳幼児期の発達と発達課題について学びます。

#### 第5回 乳幼児期と精神保健

乳幼児期の精神保健上の問題について学びます。

#### 第6回 学童期と精神保健

学童期の発達と発達課題および精神保健上の問題について学びます。

#### 第7回 思春期・青年期と精神保健

思春期・青年期の発達と発達課題について学びます。

#### 第8回 思春期・青年期と精神保健

思春期・青年期の精神保健上の問題（統合失調症，パーソナリティ障害）について学びます。

#### 第9回 映像教材

精神障害に関する映像素材を視聴します。

#### 第10回 成人期・中年期と精神保健

ストレスについて理解し，実習を通じてストレスマネジメントについて学びます。

#### 第11回 成人期・中年期と精神保健

成人期・中年期の精神保健上の問題（うつ病や不安障害）について学びます。

#### 第12回 老年期と精神保健

老年期の精神保健上の問題（認知症）について学びます。

#### 第13回 老年期と精神保健

老年期の精神保健上の問題（ターミナルケア）について学びます。

#### 第14回 虐待と精神保健

児童虐待について学びます。

#### 第15回 最終確認テスト

今までの授業の確認テストをします。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

青年心理学

孫 怡  
-----

### < 授業の方法 >

#### 講義

#### < 授業の目的 >

本講義は、心理学部の3年次生を対象に開講される専門教育科目である。青年期にある者の認知的・心理的特徴や青年期特有の発達課題を学ぶことを修得する。本講義の目的は、心理学部のDPに示す、心理学専門知識を修得すること、社会の中で身の回りにある現象を観察し、問題の有無を適切に判断できること、社会の一員として自らの意見や考えを的確に書くことができることを目的とする。

#### < 到達目標 >

・青年期の特徴と発達課題を理解し、説明することができる。

・自分自身を振り返り、発達課題や特徴を把握し伝えることができる。

・調査および研究結果を踏まえ、自身の意見・考えを主張することができる。

#### < 授業の進め方 >

講義中心に進める。毎回、講義終了時にコメントカードを記入し、次回の冒頭で共有する。

#### < 履修するにあたって >

発達心理学の基本的な知識を理解していることが望ましい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の配布資料を読んでおくこと（目安として1時間）。

事後学習として、配布資料および講義中に記したノートを通じ理解を深めること（目安として1時間）。

#### < 提出課題など >

青年期の発達に関するレポートを課す（詳細は講義内で説明する）。提出されたレポートについて、一部をサン

ブルとして取り上げ、評価のポイントを示す。

<成績評価方法・基準>

定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への積極性(講義中の発言、毎回配布される出席カードへの意見や感想等:20%)をもって、評価する。

<テキスト>

テキストは使用しない。

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

本講義の概説、成績評価等の説明

#### 第2回 青年期における生物学的・認知的発達

青年期にあたる年齢と発達加速現象

#### 第3回 青年期における生物学的・認知的発達

青年期における脳の発達

#### 第4回 青年期における自己意識

漸成発達段階論と青年期の発達課題

#### 第5回 青年期における自己意識

アイデンティティとその確立

#### 第6回 青年期における社会性

青年期における友人関係

#### 第7回 青年期における社会性

青年期の親子関係

#### 第8回 青年期における社会性

青年期の親子関係

#### 第9回 青年期における道徳性

青年期の道徳性

#### 第10回 青年期における道徳性

青年期の道徳性

#### 第11回 動機づけ

MotivationとAchievement

#### 第12回 青年期における精神症状と精神疾患

摂食障害群

#### 第13回 青年期における精神症状と精神疾患

抑うつ・うつ病

#### 第14回 青年期における精神症状と精神疾患

統合失調症および他の精神疾患

#### 第15回 まとめ

これまでの講義の総括

-----  
2022年度 後期

2.0単位

生理心理学(神経・生理心理学)

博野 信次

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」では「神経・生理心理学」では 脳神経系の構造及び機能

記憶、感情等の生理学的反応の機序 高次脳機能障害の概要について学習することが必要であると定められています。本講義ではその中の脳神経系の解剖学的構造及び生理学的機能を中心とし、高次脳機能障害の概要についても少し触れ、「神経心理学」の講義につなげていきます。この授業は心理学部のディプロマポリシーの1:心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる。に特に関連しています。またこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。

<到達目標>

学生が他の医療専門職種と互して医療現場で勤務するために最低限必要な指定されたテキスト部分に記載された神経系の構造及び機能に関する知識を習得できる。

<授業のキーワード>

脳神経系、解剖、機能

<授業の進め方>

講義方式

<履修するにあたって>

基本的に医学的な内容なので専門用語が多くはつきり言って難しいです。次回の範囲をあらかじめ予習し理解できないところを中心に聞くことが必要です。

<授業時間外に必要な学修>

各自、指定されたテキストを用意し、告知している授業内容の部分から予習してから講義にのぞんで下さい。また次回の授業の内容は、今回の授業の内容の理解がないと理解できませんので必ず復習をするようにして下さい。予習と復習は併せて4から5時間程度はかかると考えられます。

<提出課題など>

毎回、オンラインで小テストを行い、次の授業日にオンラインで解答を提示します。各自で自分の得点を確認して下さい。

<成績評価方法・基準>

授業は対面授業形式で行います。感染予防の観点から、学生同士の教科書の共同使用や物品の貸し借り等は禁止するとともに、出席参加の確認や小テストはdotCampusを用いたオンラインで行い、出席カードやテスト用紙等の配布・回収は一切行いません。オンラインツールの操作に関しての支援を担当教員、実習助手等が行うことは不可能なため、各自でヘルプ等を参照してください。初回、第2回および最終回を除き、毎回小テストを行い、小テストの回答をもって授業への出席参加とします。対面授業日に教室にただけでは出席参加とはならないので十分に注意して下さい。対面授業日の18時に、dotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内にテストタスクを公開します。小テストは3問の択一問題で、2問以上正解すると合格となります。小テストは次の授業日前日の22時まで回答を提出することができます。テストタス

クを選択してテストを開き、選択肢にチェックを入れ、下の「テストを提出する」をクリックして回答を提出して下さい。提出すると合格か不合格かがすぐに判定されて表示されます。提出期限までにならず、この合格か不合格かの判定まで進んでください。提出期限を過ぎますと提出できなくなり自動的に欠席不参加・不合格となります。また提出期限までであればテストを開いてから提出するまでに制限時間はありますが、一度提出すると再受験はできませんので十分に注意して下さい。正解は次の授業日に次の授業回のフォルダ内に公開します。そのため、繰り返しますがdotCampusが使用できない初回、第2回と、次の授業日が存在しない最終回には小テストはありません。

非登学を認められた学生等、対面授業に参加することができない、あるいは濃厚とは判定されない接触者になったため参加を控えたほうが良いと判断したなど種々の理由により対面授業に来られない学生のために、対面授業中に担当教員が教示する内容をまとめた講義資料を用意し、オンデマンド方式によるオンライン受講ができるようにしています。講義資料は教科書の内容のうち強調したい項目の指示、補足説明や追加説明、必要な修正などをまとめたものです。講義資料はOneDrive上に保存し、各授業日の1週間前を目安にdotCampusのマナビにある各授業回のフォルダ内で呈示しているタスクにリンク先を提示しますので、ダウンロードし、教科書と合わせて学習したのちに、小テストを受けて下さい。dotCampusが使用できない初回、第2回の講義資料についてはそれぞれのOneDriveへのリンクを下の「遠隔授業情報」の欄に記載してあります。なお、この講義資料は対面授業参加者もダウンロードして利用することができます。

成績評価は小テスト50%、定期試験50%で行い、2/3以上の出席参加すなわち小テストの回答提出をもって評価対象とします。ただし、非登学を認められた学生に対しては、定期試験を行わず100%小テストで行います。小テストの評価は合格の回数を全回数で割り50倍した値を成績とします。小テストの合格の回数に関する問い合わせには一切答えられませんので自身で必ず記録しておいてください。オンラインによる小テストでは、機器の不調やソフトウェア(アプリ)の操作ミス等により提出が遅れる可能性があります。そのため本講義では通常の対面授業の講義においては授業日当日に提出することが義務付けられている小テストの提出期限を約1週間延ばし十分な余裕を持たせてあります。提出期限を過ぎた場合は、公平公正な小テストの実施と評価のため、提出は認められませんので早めに提出するようにしてください。ただし、「公認欠席届」および「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を提出した場合は、欠席日を回答提出期間に含む回の小テストは出席参加・合格として扱いますので「公認欠席届」や「新型コロナウイルス対応版授業欠席届」を出せる場合は無理して出席・回答提出する必要

はありません。その他の欠席届に関しては一切特別な扱いをしませんので注意して下さい。

質問がある場合は、対面授業中に行えるほか、dotCampusの質問箱でも行えます。ただし、質問は講義内容に関するものに限ります。上述のようにオンラインツールに関してや小テストの合格回数に関する質問など、講義内容に関する質問以外には一切答えられません。

<テキスト>

- 1.山鳥重ら。高次脳機能障害学マエストロシリーズ1.基礎知識のエッセンス。医歯薬出版2007.
- 2.江藤文夫ら。神経内科学テキスト改訂第4版。南江堂2017

テキストは各自で必要時まで準備してください。著作権法によりコピーの使用は認められません。テキストが売り切れているなどいかなる理由があっても他の学生のテキストを見ることは認められませんので、早めに手に入れておいてください。

<参考図書>

特に指定しません

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

オリエンテーション。この講義の目的、進め方、評価方法等について解説する。

第2回 中枢神経系の発生

中枢神経系の発生について学習する。テキスト1P38~。以降第13回まで連続部分。

第3回 中枢神経系の解剖

大脳皮質について学習する。外側面と底面

第4回 中枢神経系の解剖

大脳皮質について学習する。内側面

第5回 中枢神経系の解剖

大脳の深部構造について学習する。白質

第6回 中枢神経系の解剖

大脳の深部構造について学習する。基底核

第7回 中枢神経系の解剖

間脳について学習する。

第8回 中枢神経系の解剖

脳幹小脳について学習する。

第9回 中枢神経系の解剖

脊髄について学習する。

第10回 中枢神経系の解剖

髄膜・血管・脳脊髄液について学習する。

第11回 神経系の機能

神経の機能単位である、神経細胞などの組織構造について学習する。

第12回 神経系の機能

大脳皮質の組織構造について学習する

第13回 神経系の機能

大脳皮質の機能局在と神経伝導路について学習する。

第14回 神経生理学の基礎

膜電位や細胞内外のイオン分布など神経生理学の基礎知識について学習する。テキスト2P19～

## 第15回 高次脳機能障害の概説

高次脳機能とその障害についてのあらましを理解する。

テキスト2P65～

-----  
2022年度 前期

2.0単位

対人心理学

毛 新華

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

対人心理学は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、2、3、4に特に関連しています。この科目は心理学部の専門科目群の中の講義科目です。

本講義科目は社会心理学の一側面を理解する科目として位置づけられています。日常生活において、私たちは周りの人の気持ちや考えをどのようにして理解しているのでしょうか。また、自分の気持ちや考えをどのようにして周囲の人たちに伝えているのでしょうか。そして、そのようなやりとりを通じて、多くの出会いと別れをどのようにくり返しているのでしょうか。対人心理学は、社会心理学のなかでも特に、個人と個人の関わりを中心とした、心理的なメカニズムを検討する学問領域です。対人心理学では、対人コミュニケーションという短い時間での関わりから、対人関係という長い時間での関わりへと、対人心理学の基本的な理論と具体的な研究について順番に解説します。さらに、コミュニケーションを円滑に行い、良好な対人関係を築くためには、自らがどのような技術を見につけ、どのような道具を利用すべきかもお話します。本講義の目的は、単に心理学の知見を紹介するだけでなく、どのような研究を通じて知見が得られたのかを合わせて解説することで、受講生がその心理学的知見について深く理解するとともに、それを疑い、判断することができるようになります。

< 到達目標 >

- 1．対人心理学の基本的な理論と具体的な研究を習得することができます。（知識）
- 2．理論を知ることにより、日常生活で気がつかないうちに行われている人と人との関わりを見つめ直すことができます。（技能）
- 3．毎日の暮らしの中で起きている対人コミュニケーションや対人関係について、自らの力で心理学的に考えることができるようになります。（思考力・判断力）
- 4．心理学科の卒業研究に向けて、基礎知識の蓄積につながることができます。（知識）

< 授業のキーワード >

記号化、解説、コミュニケーション、対人関係

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、講義中、受講生の積極的な発言を求め、双方向型の授業を重視します。

授業の最後に出席カードに授業内容に関する自身の考え・感想、そして授業への要望を記入し、その次の時間の最初に共有します。

< 履修するにあたって >

授業中に、各テーマごとに参考文献を紹介します。興味をもった図書を読み、内容理解を深めてください。社会心理学、集団心理学への履修は望ましいです。

< 授業時間外に必要な学修 >

この科目専用のノートを用意し、授業の後は、授業中に提示された内容を整理してください（30分程度）。

また、授業中に聞いた対人心理学の理論のうち、最も関心のあるものを一つピックアップし、それに照らし合わせて、自らの対人関係上の具体例を考えて、実験や調査の可能性を視野に入れて、計画の一つ考えてください。

（60分）

以上の作業を通して、習った対人心理学の理論に対する理解を深めてください。

< 提出課題など >

毎回の授業時に、出席カードを提出してもらいます。カードの記載内容に対して、次の授業時に総評などを行います。

第8回目と第15回目の授業の最初に試験を実施します。試験後、正解（模範解答）を提示し、解説を行います。また、後日に各自の点数をを通知します。

対話型の授業方式を重視するため、受講生の意見や疑問点について自発的な発言を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

まず、全授業回数数の3分の2以上の課題提出をもって、単位の評定・評価の対象とします。

点数の配分は下記の通りです。

評価基準については、授業期間中の各回の課題合計を50%、定期試験を50%の割合で最終的な成績評価を行います。

< テキスト >

使用しません。随時、プリント資料を配布します。

< 参考図書 >

授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

「対人心理学とは何か」について解説します。

第2回 心を伝える・理解する：対人コミュニケーション

対人コミュニケーションの特徴や機能、そしてモデルについて解説します。

第3回 心と心の距離：対人距離

対人距離の定義、かたち、測定、そして、性別や文化と関係について解説します。

第4回 言葉でわかりあう心：言語コミュニケーション

言語の種類、特徴、機能、意味、そして対人関係の展開との関わりについて解説します。

第5回 心から心へと伝わる情報：うわさ

うわさの定義、種類、そしてうわさが流れやすい条件などについて解説します。

第6回 インターネットで伝える心：インターネット・コミュニケーション

インターネットコミュニケーションの定義、特徴、インターネットコミュニケーションによる対人コミュニケーションおよび集団コミュニケーションについて解説します。

第7回 わかりあうための技術：社会的スキル

社会的スキルの定義、種類、モデル、測定法、トレーニングおよび効果について解説します。

第8回 わかりあうための技術：社会的スキル

授業の前半に一回目の授業内試験を実施します。社会的スキルの定義、種類、モデル、測定法、トレーニングおよび効果について解説します。

第9回 よそおいの心：化粧

化粧の定義、分類、頻度、化粧の動機、効用について解説します。

第10回 恋するところ：「恋愛」

恋愛の形、恋のきっかけに関する理論について解説します。

第11回 恋するところ：「恋愛」

恋愛関係の始まり、継続、終焉といったプロセスについて解説します。

第12回 心を支える心：「ソーシャル・サポート」

ネットワークから考えるソーシャルサポート、ソーシャルサポートと健康について解説します。

第13回 恥ずかしがる心：「羞恥心」

羞恥心の定義、特徴、理論について解説します。

第14回 心に期待する心：「愛着」

愛着の特徴、種類、重要性について解説します。

第15回 ふりかえり

本授業をふりかえり、全体を総括します。そして、二回目の授業内試験を実施します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

知覚心理学（知覚・認知心理学）

森田 磨里絵  
-----

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

本講義は、心理学部のディプロマ・ポリシーに示す、「3. 心理現象を解明する適切な方法を駆使し、探求することができる」、「5. 心理学の専門知識や研究成果を第三者に適切に伝えることができる」能力を獲得するこ

とを目指す。人間の感覚と知覚は、思考や判断という認知的な影響を受けにくいという点において生理学的現象に近いといえる。本講義では、人間の感覚と知覚の機序について、これまでの知見や最近の脳研究をもとに概説する。さらに、人間の感覚や知覚に関わる障害について概説する。

< 到達目標 >

- ・ 心理物理学について説明できる。
- ・ 明るさと色の知覚、奥行き知覚、運動知覚、物体・シーンの知覚について説明できる。
- ・ 音と音声の知覚について説明できる。
- ・ 嗅覚、味覚、触覚、体性感覚、自己受容感覚、前庭感覚、多感覚統合について説明できる。
- ・ 注意、意識、失認について説明できる。
- ・ 知覚の可塑性について説明できる。

< 授業のキーワード >

感覚・知覚、心理物理学、明るさと色の知覚、奥行き知覚、運動知覚、物体・シーンの知覚、音と音声の知覚、嗅覚、味覚、触覚、体性感覚、自己受容感覚、前庭感覚、多感覚統合、注意、意識、失認、知覚の可塑性

< 授業の進め方 >

パワーポイントによるスライドや配布資料、視聴覚教材を用いた説明を行う。授業回ごとに「授業後課題」を課し、次回以降の授業時にフィードバックする。

< 履修するにあたって >

授業回ごとに、授業内容に関する説明資料を配布する。この授業科目を履修するにあたって、できるだけ2年次生のうちに「心理学基礎実験実習（心理学実験）」と「心理学基礎実験実習（心理学実験）」は履修してほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、「授業計画」を参考に、できるだけ授業の内容について自主的に調べ、授業に臨んでもらいたい（目安として1時間）。授業終了後に、内容が正しく理解できているかどうかを確認し、必要に応じて基礎的な事項や概念、用語について調べ直ししておく必要がある（目安として1時間）。

< 提出課題など >

授業回ごとに理解度を確認する「授業後課題」を課し、次回以降の授業時にフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

全授業後課題の3分の2以上の提出をもって、単位の認定・評価の対象者とする。授業回ごとに授業内容の理解度を確認する「授業後課題」（15課題）40%、学習内容全体の習熟度を測る「学期末定期試験」（1回）60%で評価する。

< テキスト >

テキストは使用しない。

< 参考図書 >

- ・ 太田信夫（監修）・行場次朗（編集）『シリーズ心理

学と仕事 1 『感覚・知覚心理学』(2018年)北大路書房  
¥2,300(税別) ISBN: 9784762830426

・中村 浩・戸澤純子(著) 『テキストライブラリ  
心理学のポテンシャル 2 ポテンシャル知覚心理学』  
(2017年)サイエンス社 ¥2,300(税別) ISBN: 9  
784781913957

・松井 豊(監修)・綾部早穂・熊田孝恒(編) 『ライ  
ブラリストアダード心理学 2 スタダード感覚知  
覚心理学』(2014年)サイエンス社 ¥2,600(税別  
) ISBN: 9784781913322

・北岡明佳(編著) 『いちばんはじめに読む心理学の  
本 5 知覚心理学 心の入り口を科学する』(2011年  
)ミネルヴァ書房 ¥2,800(税別) ISBN: 97846230  
57696

・海保博之(監修)・菊地 正(編) 『朝倉心理学講  
座 6 感覚知覚心理学』(2008年)朝倉書店 ¥3,8  
00(税別) ISBN: 9784254526660

<授業計画>

#### 第1回 感覚・知覚の一般的特性

外界からの刺激の受容に関連した精神機能としての感覚  
・知覚の一般的特性について概説する。

#### 第2回 心理物理学と感覚・知覚研究法

外界の刺激とそれに対する反応との関数関係を調べる心  
理物理学(精神物理学)について、ならびに感覚・知覚  
の研究における研究法と測定法について、具体例を挙げ  
ながら概説する。

第3回 視覚の特性とメカニズム(1): 明るさ、運動  
視覚に関する刺激である光の特性、視覚における感覚受  
容器である眼球の構造と機能、および網膜から大脳皮質  
までの視覚情報処理を基盤とした人間の視覚のメカニズ  
ムおよびその特性について、特に明るさと運動の知覚に  
焦点を当てて概説する。

#### 第4回 視覚の特性とメカニズム(2): 色

視覚に関する刺激である光の特性、視覚における感覚受  
容器である眼球の構造と機能、および網膜から大脳皮質  
までの視覚情報処理を基盤とした人間の視覚のメカニズ  
ムおよびその特性について、特に色の知覚とその障害に  
焦点を当てて概説する。

#### 第5回 視覚の特性とメカニズム(3): 奥行き、物体 知覚

大脳皮質における視覚情報処理を基盤とした人間の視覚  
のメカニズムおよびその特性について、外界の3次元空  
間を認識する際に重要な役割を果たす奥行きおよび物体  
やシーン(光景、情景)の知覚に焦点を当てて概説する。

#### 第6回 視覚の特性とメカニズム(4): 注意、視覚障 害・失認

人間が特定の刺激対象あるいは刺激対象の特定の部分に  
目を向けたり、耳をそばだてたりするという注意の機能  
と役割、およびロービジョンをはじめとする視覚障害・  
失認とそれらに由来する生活上の困難・支援方法につい

て概説する。

#### 第7回 聴覚の特性とメカニズム(1)

聴覚をもたらす刺激である音、聴覚における感覚受容器  
である耳から大脳皮質までの聴覚情報処理を基盤とした、  
人間の聴覚の基本的なメカニズムおよびその特性につい  
て概説する。

第8回 聴覚の特性とメカニズム(2): 音声、障害  
聴覚をもたらす刺激のうち、特に人の発する音声の特性  
と知覚について説明するとともに、聴覚器官に何らかの  
障害が生じ、音が聞こえにくくなる状態を指す難聴につ  
いて、その支援方法や機器・装具を含め概説する。

#### 第9回 味覚の特性とメカニズム

味覚をもたらす刺激である味物質、味覚受容器から大脳  
皮質までの味覚情報処理を基盤とした、人間の味覚のメ  
カニズムおよびその特性について概説する。

#### 第10回 味覚に影響を与える要因と感覚間相互作用

人間の味覚メカニズムにおいて分析された味と、ニオイ  
や色等の他感覚や外環境の要因とが影響しあい、対象の  
おいしさが認識されるまでの心の働きについて概説する。

#### 第11回 嗅覚の特性とメカニズム

嗅覚をもたらす刺激であるニオイ物質、嗅覚受容器から  
大脳皮質までの嗅覚情報処理を基盤とした、人間の嗅覚  
のメカニズムおよびその特性について概説する。

#### 第12回 嗅覚に関する認知特性と日常応用例

人間の嗅覚メカニズムで分析されるニオイが、過去の経  
験や学習、環境等の要因によってどのように影響を受け  
るのかについて概説するとともに、人間の嗅覚メカニズ  
ムおよびその特性をふまえた日常生活における応用例(  
制汗剤・消臭剤等)も併せて説明する。

#### 第13回 触覚の特性とメカニズム

触覚における感覚受容器である皮膚の機械受容器から大  
脳皮質までの情報処理を基盤とした、人間が温かさや熱  
さ、冷たさ、痛み等を感じる触覚のメカニズムおよびそ  
の特性について概説する。

#### 第14回 前庭感覚・身体感覚

人間が自己受容感覚や前庭機能(平衡感覚)を通じてさ  
まざまな知覚を得るといった心の働きについて概説する。

#### 第15回 多感覚統合と知覚の可塑性

人間が複数の感覚様相を通じて得た感覚情報を統合的に  
捉える心の働きとメカニズム、ならびに外部からの刺激  
の変化や内部の変化に応じて人間の感覚・知覚の機能が  
変化する性質について概説する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

特別支援教育概論

小山 正

-----  
<授業の方法>

講義

#### < 授業の目的 >

この科目は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、3、8に特に関連し、心理学科専門教育科目専門科目群の中に位置づけられる。自閉症スペクトラムや発達障がいの子どもの問題を中心に、乳幼児期の早期教育・療育の問題、親への支援のあり方、学校教育における問題などについて、「障がいのある子どもが発達する」という「障害児発達学」の立場から述べていく。平成19年度より、特別支援教育に移行したことを踏まえ、障がいのある子どもの発達上の問題や療育方法および学校教育について説明できることや、障がいのある子どものコミュニケーションとその発達についても説明できることを目指し、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。

#### < 到達目標 >

- ・障がいのある子どもの発達と教育について説明することができる。(知識)
- ・障がいのある子どもの発達上の問題について説明できる。(知識)
- ・療育方法および学校教育について説明できる。(知識)
- ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援に関する制度の理念や仕組みを説明できる。(知識)
- ・障がいのある子どものコミュニケーションとその発達について説明できる。(知識)
- ・特別支援教育に関する教育課程の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。(知識)
- ・これまでと違った観点から障がい児・者への配慮することができる。(態度・習慣)
- ・地域の療育について調べることができる。(技能)

#### < 授業のキーワード >

障がい、自立、特別支援教育、療育

#### < 授業の進め方 >

配布資料にそって講義を進めます。事前に関連する参考書の章を読んでおくこと。

#### < 履修するにあたって >

これまでの授業の中で発達障害や療育について学んだことから、疑問点などを整理しておいてください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

前回の授業の資料を読んで整理すること（目安として90分）、および該当の参考書の該当箇所を予習として読んでおくこと（目安として90分）を前提として講義を進めます。

#### < 提出課題など >

講義内容と主題に関した小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、

記述のポイントなど、全体にコメントを行います。

#### < 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。

毎回の講義内容に関する小レポート(50%)と、定期試験(50%)によって評価します。

小レポートでは、各回の主題に関する理解を問い、到達目標から評価します。

#### < テキスト >

なし。

#### < 参考図書 >

小山 正・神土陽子(編) 「自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達」 ナカニシヤ出版。

#### < 授業計画 >

第1回 子ども理解と障がいのある子どもの教育  
特別支援教育、障害児教育を進める上で児童・生徒の障害特性および心身の発達を理解する。

第2回 発達障害とは。

「知的障害」「自閉スペクトラム症」「発達障害」についての理解を深める。

第3回 (1) 自閉スペクトラム症の子どもの言語発達の諸相

(2) 語用の障がいについて

(1)自閉スペクトラム症のある子どもの言語発達とその支援について。

(2)他者認識の発達という観点から考える。

第4回 ことばの獲得とその障がい

わが国における障がいのある子どもへの言語発達支援について理解を深める。

第5回 障がいのある子どもの遊びと発達

子どもの遊びと発達について理解を深める。

第6回 個別療育と集団療育の意義

主として児童発達支援センター等における発達支援やさまざまな療法についての理解を深める。就学前の療育システムについても理解を深める。

第7回 早期療育と親への心理的サポート

障がいのある子どもの親子関係や親への支援、地域療育のあり方について考える。また、家庭との連携について理解する。

第8回 学校教育:特別支援教育に関する教育課程

障がいのある子どもの学校教育や教育課程、指導形態について理解を深める。関係機関との連携についても理解する。

第9回 通級指導教室と交流教育

通級制と交流教育の意義について理解する。

第10回 特別支援教育の実際とこれからの課題。

特別支援教育が目指すもの、障害児教育における今後の課題を考える。学童期のアセスメントから個別教育計画の考え方や実際について述べる。

第11回 自立とは。就労の問題 学校終了後の問題。

発達の自立、就労の問題について考える。

## 第12回 事例研究

事例を通して、障がいのある子どもの発達についての理解を深める。さらに事例研究の方法について学ぶ。

## 第13回 思春期・青年期の問題

障がいのある児童のアイデンティティの形成，青年期以降の問題を発達の観点から考える。

## 第14回 特別支援教育における今後の展開

特別支援教育の今後の課題を考える。

## 第15回 振り返りと総括

本講義の振り返りと全体的な総括を行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

特別支援教育概論（資格）

小山 正  
-----

### < 授業の方法 >

講義

### < 授業の目的 >

この科目は、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1、3、8に特に関連し、心理学科専門教育科目専門科目群の中に位置づけられる。自閉症スペクトラムや発達障がいの子どもの問題を中心に、乳幼児期の早期教育・療育の問題、親への支援のあり方、学校教育における問題などについて、「障がいのある子どもが発達する」という「障害児発達学」の立場から述べていく。平成19年度より、特別支援教育に移行したことを踏まえ、障がいのある子どもの発達上の問題や療育方法および学校教育について説明できることや、障がいのある子どものコミュニケーションとその発達についても説明できることを目指し、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。

### < 到達目標 >

- ・障がいのある子どもの発達と教育について説明することができる。（知識）
- ・障がいのある子どもの発達上の問題について説明できる。（知識）
- ・療育方法および学校教育について説明できる。（知識）
- ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援に関する制度の理念や仕組みを説明できる。（知識）
- ・障がいのある子どものコミュニケーションとその発達について説明できる。（知識）
- ・特別支援教育に関する教育課程の位置づけと内容を説明できる。（知識）
- ・「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。（知識）

・これまでと違った観点から障がい児・者への配慮することができる。（態度・習慣）

・地域の療育について調べることができる。（技能）

### < 授業のキーワード >

障がい、自立、特別支援教育、療育

### < 授業の進め方 >

配布資料にそって講義を進めます。事前に関連する参考書の章を読んでおくこと。

### < 履修するにあたって >

これまでの授業の中で発達障害や療育について学んだことから、疑問点などを整理しておいてください。

### < 授業時間外に必要な学修 >

前回の授業の資料を読んで整理すること（目安として90分）、および該当の参考書の該当箇所を予習として読んでいること（目安として90分）を前提として講義を進めます。

### < 提出課題など >

講義内容と主題に関する小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなど、全体にコメントを行います。

### < 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。

毎回の講義内容に関する小レポート(50%)と、定期試験(50%)によって評価します。

小レポートでは、各回の主題に関する理解を問い、到達目標から評価します。

### < テキスト >

なし。

### < 参考図書 >

小山 正・神土陽子(編) 「自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達」 ナカニシヤ出版。

### < 授業計画 >

第1回 子ども理解と障がいのある子どもの教育

特別支援教育、障害児教育を進める上で児童・生徒の障害特性および心身の発達を理解する。

第2回 発達障害とは。

「知的障害」「自閉スペクトラム症」「発達障害」についての理解を深める。

第3回 (1) 自閉スペクトラム症の子どもの言語発達の諸相

(2) 語用の障がいについて

(1)自閉スペクトラム症のある子どもの言語発達とその支援について。

(2)他者認識の発達という観点から考える。

第4回 ことばの獲得とその障がい

わが国における障がいのある子どもへの言語発達支援について理解を深める。

第5回 障がいのある子どもの遊びと発達

子どもの遊びと発達について理解を深める。

## 第6回 個別療育と集団療育の意義

主として児童発達支援センター等における発達支援やさまざまな療法についての理解を深める。就学前の療育システムについても理解を深める。

## 第7回 早期療育と親への心理的サポート

障がいのある子どもの親子関係や親への支援、地域療育のあり方について考える。また、家庭との連携について理解する。

## 第8回 学校教育:特別支援教育に関する教育課程

障がいのある子どもの学校教育や教育課程、指導形態について理解を深める。関係機関との連携についても理解する。

## 第9回 通級指導教室と交流教育

通級制と交流教育の意義について理解する。

## 第10回 特別支援教育の実際とこれからの課題。

特別支援教育が目指すもの、障害児教育における今後の課題を考える。学童期のアセスメントから個別教育計画の考え方や実際について述べる。

## 第11回 自立とは。就労の問題 学校終了後の問題。

発達の自立、就労の問題について考える。

## 第12回 事例研究

事例を通して、障がいのある子どもの発達についての理解を深める。さらに事例研究の方法について学ぶ。

## 第13回 思春期・青年期の問題

障がいのある児童のアイデンティティの形成、青年期以降の問題を発達の観点から考える。

## 第14回 特別支援教育における今後の展開

特別支援教育の今後の課題を考える。

## 第15回 振り返りと総括

本講義の振り返りと全体的な総括を行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

認知心理学(知覚・認知心理学)

清水 寛之

-----  
< 授業の方法 >

対面授業(講義)

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

この授業は、主として心理学部心理学科3年次生と4年次生を対象に開講された専門教育科目である。心理学部心理学科のDP1「心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」とDP2「社会人として幅広い教養を身につけている」の獲得を目指す。

認知心理学(cognitive psychology)の立場から人間の認知と思考の過程について考察する。認知過程と思考過

程はともに、広く「知」に関連した心の働きである。人間をはじめとする生活体は、絶えず外界との間で盛んに情報のやりとりを行っている。その際、きわめて選択的で能動的な情報の収集、分析、統合、貯蔵、運用、伝達が行なわれている。そうした認知過程と思考過程は、どのような仕組みになっているのだろうか。本講義では、人間の認知と思考の過程にかかわる諸問題のうち、主として記憶、知識、概念、推論、問題解決などに関連した基本テーマを取り上げ、さらに、それらの障害についてもこれまでの認知心理学の成果を概説する。講義の中では、実験データや具体例をできるだけ多く盛り込み、人間のすぐれた「知の世界」について基礎的な理解を深めたい。さらに、今後検討すべき課題についても考えていきたい。

なお、この科目担当者は、十数年にわたって神戸市教育委員会による「通常学級におけるLD等の特別支援」事業に基づいて神戸市内小中学校に巡回相談の実務経験のある教員である。したがって、認知と思考の障害に関連した事項については、実際の学校現場での実践の取り組みにも言及する。

< 到達目標 >

・認知心理学の研究対象、研究方法、歴史的背景、関連分野について説明できる。

・人間の記憶・知識・概念について説明できる。

・人間の問題解決・推論について説明できる。

・人間の認知・思考の障害とその対処について説明できる。

< 授業のキーワード >

認知心理学、記憶、知識、概念、問題解決、推論、認知と思考の障害

< 授業の進め方 >

講義形式で行う。毎回、授業の最後に参加カードにコメント(質問、意見、感想など)を記入することを求める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業に関する説明資料を配付する。定期試験と授業内小テストはともに論述形式で、持ち込み不可である。それらとは別に期末にレポート課題を出す。この授業科目を履修するにあたって、できるだけ2年次生のうちに「心理学基礎実験実習」と「心理学基礎実験実習」は履修しておいてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、「授業計画」を参考に、できるだけ授業の内容について自主的に調べ、授業に臨んでもらいたい。(目役として1時間)

授業終了後に、きちんと内容が正しく理解できているかどうかを確認し、必要に応じて基礎的な事項や概念、用語について調べ直ししておく必要がある。(目安として1時間)

< 提出課題など >

およそ4回に一度の割合で小テスト(課題)を行う(全3回)。それとは別に期末にレポート課題を出す。詳細は

授業のなかで説明する。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。本授業科目の全体的な教育目標達成度を調べる定期試験25%、授業への積極的参加度（毎回の出席カードへの質問や意見・感想等の内容に基づく）15%、およそ4回分ごとの授業内容の理解度を調べる小テスト（3回）45%、授業内容に関連した学生自身による主体的な関心や興味、動機づけに関する小レポート（1回）15%。ただし、遠隔授業が実施された場合、期間中は「授業への積極的参加度」は調べることができないので、成績評価には含めません。

<テキスト>

とくに指定しない

<参考図書>

第1回目の授業で参考文献リストを配布する。授業内でも適宜指示する。

<授業計画>

第1回 認知心理学の対象・方法・歴史的背景・関連分野

認知心理学とはどのような学問分野であるかについて、一般的な解説を行う。認知心理学の対象と方法を中心に、歴史的背景や関連研究分野についても論じる。

第2回 記憶の仕組みとプロセス

記銘、保持、想起、忘却といった記憶過程についての基礎的な理解を図る。さらに、これまでに提唱された代表的な記憶理論や記憶モデル、及び主な記憶測定法について概説する。

第3回 感覚記憶・ワーキングメモリの性質

数十秒からせいぜい数分以内の、比較的短い時間だけ情報を保持する場合の記憶システムについて考える。

第4回 長期記憶の性質

比較的長期間にわたって情報を保持する場合の記憶システムについて、特に構成的な性質に焦点を当てて考察する。

第5回 顕在記憶と潜在記憶

人間の記憶には、想起すべき対象への直接的・意図的な記憶もあれば、想起意識を伴わない偶発的・自動的な記憶もある。このことについて検討する。

第6回 学習と想起のダイナミズム

なんらかの経験を通じて人間の行動が変わり、知識が増えていくということ、また、何かをきっかけに遠い以前の出来事がよみがえってくるということの認知心理学的な意味を探る。

第7回 概念とカテゴリ化

物事概念はどのように形成され、構造化されているのか、われわれは自分の知識内にある概念をどのように使うのかを考察する。さらに、多少違っていても同じものと見なしてしまうカテゴリ化の機能についても検討する。

第8回 知識の表象と意味記憶

スキーマやスクリプトといった長期記憶内の知識情報の構造や表現形式について考察し、それらと言語理解との関係を検討する。

第9回 回想記憶と展望記憶

人間の記憶は必ずしも過去の出来事を保持することだけでなく、将来何をすべきかといった予定を忘れずに覚えておくことも含んでいる。こういった問題を検討する。

第10回 思考と問題解決

思い考えることに関連した心理過程を、知覚によって獲得した情報と長期記憶内の情報の両方を利用し、操作する認知過程と捉え、特定の課題への問題解決を通してその特徴を検討する。

第11回 演繹的推理と帰納的推理

人間は、与えられた命題をもとに論理的になんらかの結論を導き出すことができる。しかし、その過程は、純粋な論理的な道筋とは異なる面が見られ、認知心理学的な研究が多くなされている。

第12回 メタ認知とメタ記憶

人間は自分自身の認知活動や記憶行動を評価し、制御・調整を行うことができる。それらの評価の正確性や、制御・調整の的確性に関連した問題を検討する。

第13回 認知と思考の障害

人間の認知・思考の障害・疾患に関するさまざまな症例について概説する。

第14回 認知・思考の障害への支援

人間の認知機能の障害・疾患の回復・克服にかかわるさまざまな支援の取り組みについて概説する。

第15回 まとめと展望

本講義の全般的なまとめを行い、人間の認知と思考の過程に関する認知心理学的研究及び関連諸科学における今後の検討課題について考察する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

発達心理学

松本 マリ  
-----

<授業の方法>

講義或は遠隔授業（オンデマンド授業）

<授業の目的>

この授業は心理学部の専門教育科目群の中の講義科目であり、心理学部のディプロマポリシー（DP）の1および2の獲得を目指すものである。

本講義では発達心理学の基本的知識を幅広く学び、日常生活の中で気づかずにいる人の心の働きやその変化を認識するとともに、自分自身について興味を持って観察できるようにすることを目指す。また、発達過程で生じる問題について学ぶことを通して、得られた知識をどう生かすかを考える。

なお、授業担当者は大学の研究機関で研究員としての実

務経験のある教員であるので、より複合的な視点から発達について解説するものとする。

<到達目標>

1. 発達心理学の基本知識について説明することができる。
2. 心の働きやその変化に関心を持ち、自分自身を観察することができる。
3. 発達過程で生じる問題について学び、得られた知識をどう生かすかを考えることができる。

<授業のキーワード>

生涯発達心理学、発達に影響する要因

<授業の進め方>

講義形式を基本とし、授業の中で出された課題に回答することを求める。副教材として動画などを使用する。

<履修するにあたって>

授業中に与えられた課題について自分で考え、気づいたこと、疑問に感じたことを自由に記述すること。記述した内容は授業中に講師が読み上げることがある。

<授業時間外に必要な学修>

事前に伝える講義テーマについて予習してから授業に臨むこと。授業後は授業の内容を復習し、次の授業に生かせるよう知識を整理しておく。(いずれも目安として1時間)

<提出課題など>

授業中に課題を出し回答シートへの記入を求める。記入時に質問や意見を記入してもよい。提出された課題や質問に対するフィードバックは授業の開始時に行う。

<成績評価方法・基準>

課題や小テストなど授業で課したもののうち、2/3以上の提出をもって評価対象とする。課題や小テストの頻度・回数・内容に関しては、初回の授業時に説明する。提出物の内容等にもとづき総合的に評価を行う。

<テキスト>

内容に応じてレジュメを配布する。

<参考図書>

「発達心理学の基本を学ぶ - 人間発達の生物学的・文化的基盤 -」ジョージ・バターワース/マーガレット・ハリス著 村井潤一監訳 ミネルヴァ書房

「よくわかる認知発達とその支援」子安増生編 ミネルヴァ書房

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

発達心理学の歴史の概観と授業の進め方の説明

第2回 発達の基礎：遺伝と環境1

環境からの影響を受けながら成長する胎児について学ぶ

第3回 発達の基礎：遺伝と環境2

発達における遺伝要因と環境要因の重要性を理解する

第4回 乳幼児の発達

乳幼児の発達について視聴覚教材を交え、具体的に学ぶ

第5回 感情の発達

情動の分化と社会的参照について学ぶ

第6回 認知の発達

ピアジェの発達段階説について具体的に学ぶ

第7回 親子関係と愛着理論

母子相互作用と愛着理論について学ぶ

第8回 母親の心理

育児のストレスや母親の心理について考える

第9回 児童虐待の現状

児童虐待の種類や実態を学び、その要因や支援について考える

第10回 社会性の発達

社会化の課程や仲間関係の発達について学ぶ

第11回 自我の発達

エリクソンの発達段階説について学び、自らの経験を振り返る

第12回 発達障害とその支援

発達障害の定義や種類・特徴について学び、その支援について考える

第13回 生涯発達の視点1

生涯発達についてのさまざまな理論を学ぶ

第14回 生涯発達の視点2

生涯発達についての最近の研究を学び、発達心理学の課題を考える

第15回 まとめ

講義全体の振り返りと理解度の確認

-----  
2022年度 後期

2.0単位

福祉心理学

山崎 康一郎  
-----

<授業の方法>

講義(遠隔授業:オンデマンド)

<授業の目的>

・この科目は心理学部DPに示す「心理学の専門的知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」、「社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」ことを目指す。

・本授業では、福祉現場において生じる問題とその背景について理解し、必要な心理的支援を理解することを目的とする。

・なお、この授業の担当者は、福祉現場での業務に10年以上従事した経験を有する実務経験のある教員であり、より実践的な視点から福祉現場における心理職の役割を解説する。

<到達目標>

・現在の福祉領域における問題とその背景について心理的な側面から説明できる(知識)

・福祉領域における心理社会的課題に対する支援を考え

ることができる（思考力）

・現在生じている心理社会的問題の解決のために対象者のニーズを理解し、他者と協働して対応することができる（態度）

< 授業のキーワード >

福祉領域における要心理支援者、福祉領域における心理的支援、虐待

< 授業の進め方 >

・講義形式を中心に、各回のテーマについて、配布資料に沿って授業を進める。

< 履修するにあたって >

・各回のテーマについて、各自で問題を意識し、社会の成員としてできることを考えてほしい。

・多様な福祉領域において、要心理支援者や自身をより深く理解できるようにしてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：各回のシラバスの内容を確認し、当該福祉領域における書籍等に目を通しておくこと（30分）

事後学習：各回の講義内容について整理し、身近な福祉施設や福祉事業にも意識を向け、福祉現場の実際的な理解につなげる（60分）

記載された参考図書に限らず、現代の社会問題や社会福祉に関する書籍の通読を推奨します。

< 提出課題など >

小レポート、課題レポート

提出課題については授業内でフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

小レポート等 50%

定期試験 50%

・2/3以上の課題の提出をもって評価の対象とします。  
・定期試験では授業における知識の理解を問います。  
・レポートでは、授業を通して学修した知識を福祉現場の支援に応用する力を問います。

< 参考図書 >

公認心理師の基礎と実践17 福祉心理学 中島健一編  
遠見書房

アタッチメント- 生涯にわたる絆 数井 みゆき, 遠藤利彦 ミネルヴァ書房

アタッチメント 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐって 庄司順一 奥山真紀子 久保田まり 明石書店

遊戯療法 V.M. アクスライン 岩崎学術出版社

社会的養護における生活臨床と心理臨床 増沢高 青木紀久代 福村出版

虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助 増沢高 福村出版

児童養護施設の心理臨床 内海新祐 日本評論社

放課後等デイサービスハンドブック 障害のある子どもの放課後保障全国連絡会 かもがわ出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

オリエンテーションと福祉分野における心理的支援の概説 社会福祉士と公認心理師の理解

第2回 障害者福祉分野における基本理念と諸制度

障害者福祉分野における基本理念と諸制度、最近の動向について学修する。

第3回 障害者福祉分野における問題の理解

障害および二次障害、障害当事者の家族の状況、障害者虐待について学修する。

第4回 障害者福祉分野における心理的支援

アセスメントと個別支援計画について学修する。

第5回 障害者福祉分野における心理的支援

障害のある子どもの療育、障害児通所支援について学修する。

第6回 児童・家庭福祉分野における基本理念と諸制度

児童・家庭福祉における基本理念と少子高齢化、子育て支援、貧困、母子保健について学修する。

第7回 児童虐待の状況

児童虐待の状況、児童虐待の種類、児童虐待に対する制度的対応について学修する。

第8回 虐待の理解

愛着形成の阻害、誤学習について学修する。

第9回 虐待の理解

PTSD、感情調節困難について学修する。

第10回 児童虐待への対応

社会的養護における支援について学修する。

第11回 児童虐待への対応

トラウマインフォームドケアについて学修する。

第12回 児童虐待への対応

生活の中の治療、被虐待児への心理療法、家族への支援について学修する。

第13回 DVの理解と心理的支援

DVの理解と心理的支援について学修する。

第14回 高齢者福祉分野における心理的支援

高齢者の心理、認知症について学修する。

第15回 福祉領域における心理職の専門性と多職種連携  
専門職の一員として福祉領域において有効に機能するための連携のあり方について学修する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

臨床心理学概論

定政 由里子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は心理学部DPに示す、1.心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる、3.心理現象を解明する適切な

方法を駆使し、探求することができる、ことを目的とします。

臨床心理学は心の悩みや葛藤をもった人が、その問題を解決できるように援助するための理論や技法を追求します。臨床心理学の対象となる病にはどのようなものがあるか、またその病を理解するための理論や治療法はどのようなものがあるのかを学びます。

具体的には、いわゆる精神病や神経症、パーソナリティ障害といわれていたものや、不登校や摂食障害といった現在よく見られる現象についても理解し、それらを理解するための理論として、精神分析、対象関係論、エリクソンの発達段階理論などについても取り上げます。なお、この演習は心理専門職として15年以上の経験があり、現在も実務携わっている教員による授業科目であるため、授業の中で実際の臨床現場における事例などを取り上げることがあります。

<到達目標>

- ・いわゆる精神病，神経症，パーソナリティ障害といわれるものがどのようなものか理解し，説明できる
- ・精神分析，対象関係論，発達段階理論などの概略を理解し，説明できる

<授業のキーワード>

臨床心理学、臨床心理学的アセスメント

<授業の進め方>

基本的には講義形式で行いますが、一部映像教材も使用します。

また、理解の確認のために毎回小レポートを書いて頂きます。他の受講生の迷惑になるため、私語・携帯電話の使用は厳禁とします。何度か注意を受けた場合は、退席を求めることがあります。

<履修するにあたって>

1年次の「心理学概論」での内容を復習しておくこと。

新型コロナウイルス感染予防のため、授業を受けるにあたり、マスクを着用し、入室前に必ず手指消毒を行い、入室後は互いの距離を十分に取ることなど留意してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の授業の後に復習を行って下さい(およそ1時間)。

レポート作成(およそ3時間)。

<提出課題など>

映像教材についてのレポートを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

小レポートや課題を課したもののうち、2/3以上を提出した学生を評価の対象とします。

小レポートや課題を課したもののうち、2/3以上を提出した学生を評価の対象とします。

定期試験を実施し、定期試験の成績50%、提出課題の成績50%で評価します。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、成績評価などについて説明します。

第2回 臨床心理学とは何か?

臨床心理学がどのようなことを扱う学問であるのか、またその歴史を概略します。

第3回 臨床心理学の実際

臨床心理士などの心の専門家が、どこで、どのように働いているのかについて学びます。

第4回 臨床心理学の対象

いわゆる神経症と呼ばれるものについて学びます。

第5回 臨床心理学の対象

いわゆる精神病と呼ばれるものについて学びます。

第6回 臨床心理学の対象

いわゆるパーソナリティ障害と呼ばれるものについて学びます。

第7回 現代のトピックス

不登校について学びます。

第8回 現代のトピックス

摂食障害について学びます。

第9回 現代のトピックス

うつ病について学びます。

第10回 心の病を理解する理論

フロイトにおける心の発達や心の構造について学びます。

第11回 心の病を理解する理論

防衛機制について学びます。

第12回 心の病を理解する理論

対象関係論について学びます。

第13回 心の病を理解する理論

対象関係論について学びます。

第14回 心の病を理解する理論

エリクソンの発達段階理論などについて学びます。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業をふりかえり、総括を行います。